令和６年度

業務年報

Annual Report 2024

Fukushima Agricultural Technology Centre

福島県農業総合センター

目　次

Ⅰ　農業総合センターの概要

1　機能と沿革・・・Ⅰ　1
2　所在地・・・Ⅰ　3
3　組織及び事務の概要・・・Ⅰ　4

Ⅱ　技術開発・企画調整

1　試験研究課題一覧・・Ⅱ　1
2　共同研究、受託研究、研究協定一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　7
3　試験研究の概要・・・Ⅱ　8
　A　東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化による農林水産業の再生を支援するための試験研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　8
　B　農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進・・・Ⅱ　18
　C　県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　20
　D　地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　29
　E　安全・安心な県産農林水産物の安全供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　34
4　試験設計・試験成績検討会の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　42
5　試験研究成果の公表・・・Ⅱ　43
6　品種登録・職務発明・・・Ⅱ　47
7　技術開発に伴う表彰・学位取得・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　47
8　有識者懇談会の開催・・・Ⅱ　48
9　技術・研究に関する職員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　48
10　試験研究推進会議の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　50
11　所内ゼミ・・Ⅱ　50
12　初任者研修・新規採用職員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　51
13　その他研修・・Ⅱ　51

Ⅲ　地域農業支援

1　技術移転・技術支援・・Ⅲ　1
　（1）技術移転セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　1
　（2）成果発表会・・・Ⅲ　2
　（3）技術支援(鳥獣害防止対策)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　2
2　指導・啓発活動・・・Ⅲ　3
　（1）研修会・・・Ⅲ　3
　（2）技術指導資料・・・Ⅲ　13
　（3）技術相談対応件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　13
3　主要農作物種子生産実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　14

４　オリジナル品種（園芸作物等）種苗生産実績・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　15
５　オリジナル品種の親株等の供給実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　16
６　家畜管理及び生産実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　17
（１）畜産研究所本所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　17
ア　家畜繋養実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　17
イ　各家畜繋養状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　18
ウ　各種生産実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　19
（２）沼尻分場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　22

Ⅳ　先進的農業者育成・支援

１　農業短期大学校の業務実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　1
（１）概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　1
（２）農業経営部の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　1
ア　学生の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　1
イ　専修教育の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　2
ウ　進路指導の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　4
エ　学生募集の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　5
オ　学生数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　6
カ　教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　6
キ　非常勤講師一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　8
ク　教育行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　9
ケ　各種表彰者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　10
コ　卒業生の進路状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　10
（３）研修部の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　10
ア　研修実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　10
イ　研修実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　11
２　福島県農業総合センター農業短期大学校運営会議の開催・・・・・・・・・・・　Ⅳ　15

Ⅴ　食の安全・環境と共生する農業支援

１　安全農業推進部の業務実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　1
（１）指導・有機認証課の業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　1
ア　農薬に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　1
イ　農作物の野生鳥獣被害とりまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　2
ウ　肥料に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　2
エ　飼料に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　3
オ　有機認証に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　3
（２）発生予察課の業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　4
ア　病害虫発生予察事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　4
イ　病害虫診断同定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　5
ウ　侵入調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　5
エ　ベトナム向け輸出なし検疫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　7
オ　主要病害虫の発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　7

（3）分析課の業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 12
ア　農林水産物を対象とした緊急時環境放射線モニタリングの実施・・・・ Ⅴ 12
イ　その他検査の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 13
ウ　放射性物質測定技能試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 13
2　有機農業推進室の業務実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 14
（1）有機農業推進担当者連携会議の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 14
（2）有機農業技術実証の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 14
（3）各種技術研修会等の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 15
（4）有機農業者組織への活動支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 15
（5）広報誌「オーガニック通信」の発行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 16
（6）農業総合センター農業短期大学校での有機農業の講義・研修の実施・・・ Ⅴ 16

Ⅵ　県民との交流・情報発信

1　交流事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（1）第 17 回農業総合センターまつり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（2）農的楽しみセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（3）子どもアグリ科学教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（4）イモ掘り体験学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（5）第 15 回田んぼの学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（6）農業総合センター農業短期大学校の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
2　視察見学者の受入状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 3
3　施設の利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 4
4　研究成果の発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 5
（1）学会等研究発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 5
（2）シンポジウム等講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 9
（3）学会誌等投稿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 10
（4）雑誌等投稿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 12
5　刊行物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 13
6　主要作物の生育情報の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 14
7　インターネットによる情報提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 14
8　マスメディアによる報道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 14
9　福島県インターンシップの受入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 20

Ⅶ　職員・財産

1　職員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ 1
2　施設・ほ場の面積及び飼養家畜数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ 1

Ⅷ　資料

1　開発品種一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅷ 1

Ⅰ　農業総合センターの概要

1　機能と沿革

（1）機能

福島県農業総合センターは、農業関係の試験研究機関、病害虫防除所、肥飼料検査所及び農業短期大学校を再編統合し、5つの機能(ア 技術開発・企画調整機能、イ 地域農業支援機能、ウ 先進的農業者育成・支援機能、エ 食の安全・環境と共生する農業支援機能、オ 県民との交流・情報発信機能)を兼ね備えた本県農業振興の新たな拠点として平成18年4月郡山市日和田町に開所した。

ア　技術開発・企画調整機能

共通研究部門(経営・作業技術・生物工学・生産環境)、専門研究部門(水田畑作・園芸・果樹・畜産)、地域研究部門(会津・浜)が緊密に連携し、統合集中化のメリットを最大限に発揮することにより、実用性の高い技術の迅速かつ効率的な開発に取り組む。

イ　地域農業支援機能

地域農業を支援するため、既存の技術のみでは解決が困難な地域の課題に対し、現地の普及指導員、農業者、農業団体及び市町村等と共同して解決に当たる。

ウ　先進的農業者育成・支援機能

先進的な技術や最新の知見を営農条件に合った形に組み立て、実用的な新技術として生産現場に適応させることにより、複雑化・高度化する生産現場の課題解決の迅速化を図る。

農業教育面では、農業短期大学校と研究部門が一体的に地域を先導する農業後継者の育成に当たる。

エ　食の安全・環境と共生する農業支援機能

農業の振興には、環境に配慮し、消費者のニーズを重視して農産物を生産していくことが重要であるため、農業生産面からの環境保全や農薬等生産資材の適正使用の推進、農産物の安全性の確保に積極的に取り組む。また、県内における有機農業の普及拡大を強力に支援する。

オ　県民との交流・情報発信機能

センター整備の基本理念の一つである「開かれた試験研究機関」を具現化し、県民の様々な期待に応えられる交流・学習拠点としての役割を果たすため、県民の憩いの場、子供たちの農業体験や食農教育、高齢者の生涯学習等の機会を提供する。

（2）　沿革

年　度		事　　項
和暦	西暦	
明治29年	1896年	安積郡小原田村(現 郡山市小原田)に農事試験場(後の農業試験場)を設置
34年	1901年	福島町(現 福島市)に肥飼料検査室(後の肥飼料検査所)を設置
35年	1902年	安達郡高川村(現 郡山市熱海町)に種馬飼育場(後の畜産試験場)を設置
43年	1910年	郡山町虎丸町(現 郡山市虎丸)に移転
大正 3年	1914年	伊達郡梁川町(現伊達市)に原蚕種製造所(後の蚕業試験場)を設置
7年	1918年	河沼郡若宮村(現 河沼郡会津坂下町)に農事試験場特別試験地(後の農業試験場会津支場) を設置
12年	1923年	石城郡神谷村(現いわき市)に石城分場(後の農業試験場いわき支場) を設置
14年	1925年	田村郡片曽根村(現田村市)にたばこ試験場を設置
昭和10年	1935年	信夫郡平野村(現 福島市飯坂町)に農事試験場信達分場(後の果樹試験場)を設置 西白河郡矢吹町に県立修練農場(後の農業短期大学校)を設置 ※改称、統廃合により昭和63年(1988年)現在名称 相馬郡八幡村(現 相馬市成田)に農事試験場相馬水稲試験地(後の農業試験場相馬支場)を設置 耶麻郡猪苗代町(現 猪苗代町)に猪苗代試験地(後の農業試験場冷害試験地)を設置
11年	1936年	郡山市に種鶏場(後の養鶏試験場)を設置 ※昭和40年(1965年) 改称、郡山市富田町に移転
17年	1942年	種馬飼育場を信夫郡荒井村（現 福島市）に移転（後の畜産試験場）
23年	1948年	安積郡富田村(現 郡山市富田町)に農事試験場を移転※昭和36年(1961年) 改称
27年	1952年	県内16か所に病害虫防除所を設置
33年	1958年	県特用作物原種農場をこんにゃく試験地として改称移管
42年	1967年	県農業短期大学校を設立

年　　度		事　　項
和暦	西暦	
49 年	1974 年	会津農業センターの設立
54 年	1979 年	会津支場を会津農業センター庁舎に移転 農業経営大学校を設置
55 年	1980 年	園芸試験場を果樹試験場に改組
63 年	1988 年	農業短期大学校、農業経営大学校及び会津農業センター(長期研修課程)を統合し、県立農業短期大学校を開校(矢吹町)
平成 8 年	1996 年	農業試験場創設 100 周年
14 年	2002 年	梁川支場を開場し、蚕業試験場を廃止
18 年	2006 年	農業総合センター発足 試験研究機関（農業試験場（本場・4 支場･2 試験地）、果樹試験場、たばこ試験場、畜産試験場（本場・1 支場）、養鶏試験場）、農業短期大学校、病害虫防除所、肥飼料検査所を再編統合 梁川支場を廃止
23 年	2011 年	センター本部安全農業推進部に分析課を設置
25 年	2013 年	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター福島研究拠点内(福島市)に福島市駐在を設置
27 年	2015 年	福島市駐在を廃止し、南相馬市に浜地域農業再生研究センターを設置 畜産研究所養鶏分場(郡山市)を廃止
28 年	2016 年	畜産研究所(福島市)に養鶏科を設置
29 年	2017 年	農業短期大学校を農業経営部 5 学科に再編し、研究科を廃止

２　所在地

（１）福島県農業総合センター　本部
〒963-0531　郡山市日和田町高倉字下中道116 番地
TEL 024-958-1700　　FAX 024-958-1726

（２）果樹研究所
〒960-0231　福島市飯坂町平野字檀の東 1 番地
TEL 024-542-4191　　FAX 024-542-4749

（３）畜産研究所
〒960-2156　福島市荒井字地蔵原甲 18 番地
TEL 024-593-1096　　FAX 024-593-4977

（４）畜産研究所 沼尻分場
〒969-2752　耶麻郡猪苗代町大字蚕養字日影山乙 3696 番地
TEL 0242-64-3321　　FAX 0242-64-2844

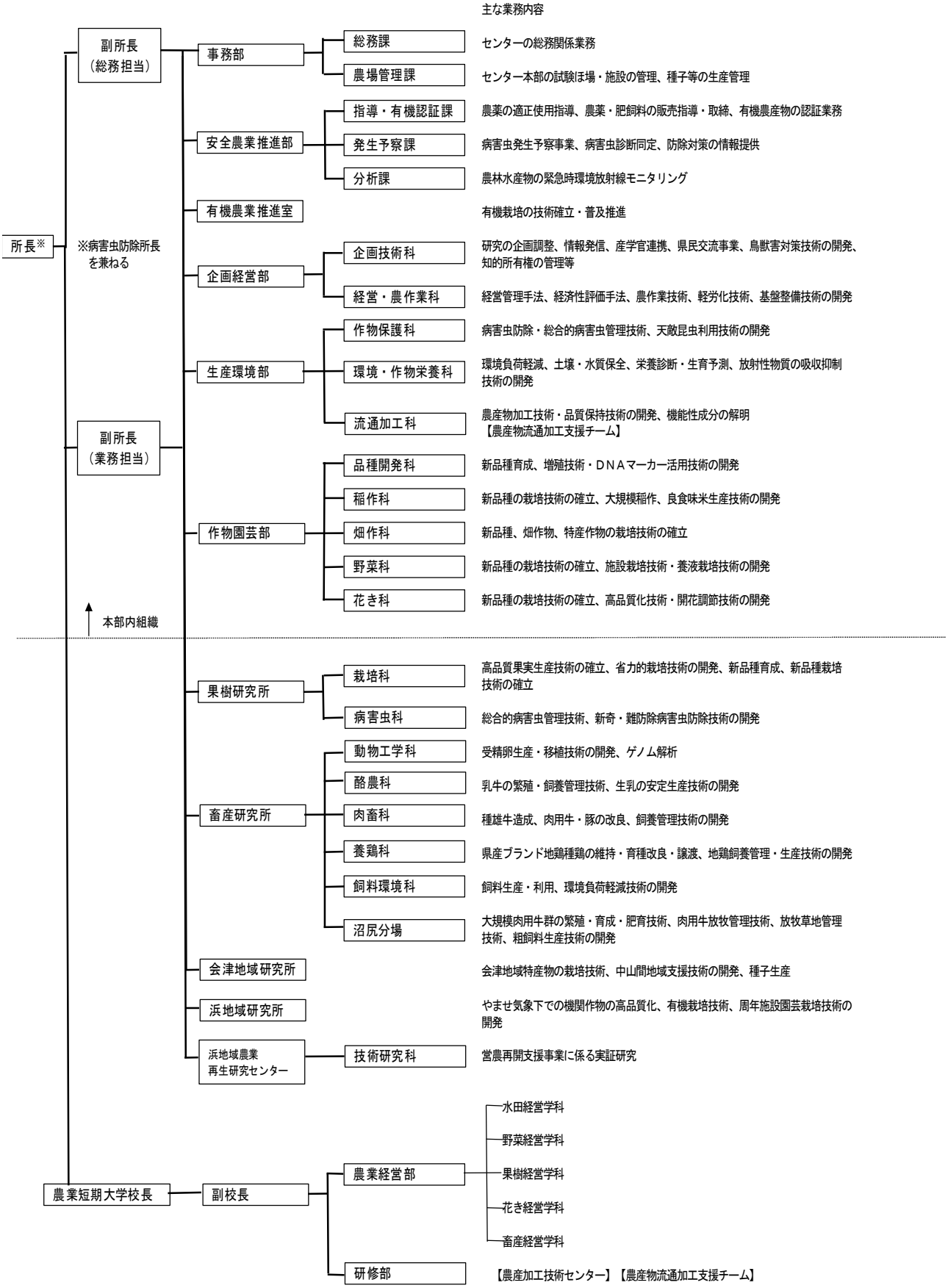
（５）会津地域研究所
〒969-6506　河沼郡会津坂下町大字見明字南原 881 番地
TEL 0242-82-4411　　FAX 0242-82-4416

（６）浜地域研究所
〒979-2542　相馬市成田字五郎右ェ門橋 100 番地
TEL 0244-35-2633　　FAX 0244-35-0319

（７）浜地域農業再生研究センター
〒975-0036　南相馬市原町区萱浜字巣掛場45 番 169
TEL 0244-26-9562　　FAX 0244-26-9563

（８）農業短期大学校
〒969-0292　西白河郡矢吹町一本木446 番地 1
TEL 0248-42-4111　　FAX 0248-44-4553

３　組織及び事務の概要


主な業務内容
所長※
副所長（総務担当）
※病害虫防除所長を兼ねる
副所長（業務担当）
本部内組織
事務部
総務課
センターの総務関係業務
農場管理課
センター本部の試験ほ場・施設の管理、種子等の生産管理
安全農業推進部
指導・有機認証課
農薬の適正使用指導、農薬・肥飼料の販売指導・取締、有機農産物の認証業務
発生予察課
病害虫発生予察事業、病害虫診断同定、防除対策の情報提供
分析課
農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング
有機農業推進室
有機栽培の技術確立・普及推進
企画経営部
企画技術科
研究の企画調整、情報発信、産学官連携、県民交流事業、鳥獣害対策技術の開発、知的所有権の管理等
経営・農作業科
経営管理手法、経済性評価手法、農作業技術、軽労化技術、基盤整備技術の開発
生産環境部
作物保護科
病害虫防除・総合的病害虫管理技術、天敵昆虫利用技術の開発
環境・作物栄養科
環境負荷軽減、土壌・水質保全、栄養診断・生育予測、放射性物質の吸収抑制技術の開発
流通加工科
農産物加工技術・品質保持技術の開発、機能性成分の解明
【農産物流通加工支援チーム】
作物園芸部
品種開発科
新品種育成、増殖技術・ＤＮＡマーカー活用技術の開発
稲作科
新品種の栽培技術の確立、大規模稲作、良食味米生産技術の開発
畑作科
新品種、畑作物、特産作物の栽培技術の確立
野菜科
新品種の栽培技術の確立、施設栽培技術・養液栽培技術の開発
花き科
新品種の栽培技術の確立、高品質化技術・開花調節技術の開発
果樹研究所
栽培科
高品質果実生産技術の確立、省力的栽培技術の開発、新品種育成、新品種栽培技術の確立
病害虫科
総合的病害虫管理技術、新奇・難防除病害虫防除技術の開発
畜産研究所
動物工学科
受精卵生産・移植技術の開発、ゲノム解析
酪農科
乳牛の繁殖・飼養管理技術、生乳の安定生産技術の開発
肉畜科
種雄牛造成、肉用牛・豚の改良、飼養管理技術の開発
養鶏科
県産ブランド地鶏種鶏の維持・育種改良・譲渡、地鶏飼養管理・生産技術の開発
飼料環境科
飼料生産・利用、環境負荷軽減技術の開発
沼尻分場
大規模肉用牛群の繁殖・育成・肥育技術、肉用牛放牧管理技術、放牧草地管理技術、粗飼料生産技術の開発
会津地域研究所
会津地域特産物の栽培技術、中山間地域支援技術の開発、種子生産
浜地域研究所
やませ気象下での機関作物の高品質化、有機栽培技術、周年施設園芸栽培技術の開発
浜地域農業再生研究センター
技術研究科
営農再開支援事業に係る実証研究
農業短期大学校長
副校長
農業経営部
水田経営学科
野菜経営学科
果樹経営学科
花き経営学科
畜産経営学科
研修部
【農産加工技術センター】【農産物流通加工支援チーム】

Ⅱ　技術開発・企画調整

1　試験研究課題一覧

課題番号	試験課題　（大課題・中課題・小課題）	始期	終期	担当部所	予算区分
A　東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化による農林水産業の再生を支援するための試験研究の推進					
A1	農業における総合的な放射性物質対策の研究開発				
A1-1	放射性物質の分布状況の把握				
A1-1-1	土壌の経年調査	2021	2025	生産環境部 果樹研究所 畜産研究所 浜地域農業再生研究センター	外部資金※1
A1-1-2	農地における放射性セシウム濃度深度分布の把握	2021	2025	生産環境部	繰入金
A1-1-3	郡山市における大気浮遊塵及び降下物中の放射性セシウム濃度調査	2021	2025	生産環境部	繰入金
A1-1-4	果樹における放射性物質濃度の経年変化の把握	2021	2025	果樹研究所	繰入金
A1-2	放射性物質の吸収抑制技術等の確立				
A1-2-2	基準値超過等要因解析	2021	2025	生産環境部	繰入金
A1-2-3	県内農地土壌の交換性塩基含量の実態解明	2021	2025	生産環境部	繰入金
A1-2-8	水稲の生産性と安全性の評価ならびに放射性物質移行抑制の実証	2021	2025	作物園芸部	繰入金
A1-2-9	畑作物の放射性セシウム吸収に対する土壌の影響解明	2021	2025	作物園芸部	繰入金
A1-2-10	カキ・ユズにおける放射性物質の吸収抑制技術等の確立	2021	2025	果樹研究所	繰入金
A1-2-11	避難指示区域等における農作物中放射性セシウム吸収抑制技術の開発	2021	2025	浜地域農業再生研究センター	繰入金
A1-2-12	放射性セシウム濃度低減のための野菜栽培と調理加工	2021	2025	浜地域農業再生研究センター	外部資金※14
A1-2-13	再浮遊物質を含む大気中の放射性セシウムの動態と農地・農作物への影響の解明	2021	2025	浜地域農業再生研究センター	外部資金※1
A1-3	特定復興再生拠点区域等の円滑な営農再開に向けた技術実証				
A1-3-1	計測ロボットを活用した放射性物質等分布実態の把握	2021	2025	浜地域農業再生研究センター	外部資金※2
A1-3-2	営農再開を阻害する加害動物の行動特性や動物種把握による獣害防止策の提案	2021	2025	浜地域農業再生研究センター	外部資金※2
A1-3-3	通い農業支援システム等を活用した栽培状況の可視化と評価	2021	2025	浜地域農業再生研究センター	外部資金※2
A1-3-4	緑肥作物等の利用による地力回復技術の開発と蜜源利用	2021	2025	浜地域農業再生研究センター	外部資金※2
A1-3-5	効率的雑草管理技術の開発と実証	2021	2025	浜地域農業再生研究センター	外部資金※2
A1-3-6	特定復興再生拠点等における農作物栽培の生産性と安全性の評価	2021	2025	浜地域農業再生研究センター	外部資金※2
A1-3-7	放射性物質移行抑制技術の実証・開発と畑作物の安全性の評価	2021	2025	作物園芸部	外部資金※2
A1-3-8	草地における放射性セシウム吸収抑制技術の開発・実証と未除染牧草地利用可否基準の策定	2021	2025	畜産研究所 浜地域農業再生研究センター	外部資金※2
A1-3-10	生産現場における最適な放射性セシウム移行リスクの評価手法および圃場特性に合わせた移行低減技術の提案	2021	2025	生産環境部	外部資金※2
A2	避難地域等の営農再開を支える技術の実証				
A2-1	避難地域の営農再開を支援する研究				

課題番号	試験課題　（大課題・中課題・小課題）	始期	終期	担当部所	予算区分
A2-1-1	避難地域等における営農再開のための支援研究	2021	2025	浜地域農業再生研究センター	繰入金
A2-2	広域エリアを対象とした大規模水田営農における生産基盤技術の確立				
A2-2-1	広域エリアにおける水田輪作栽培管理技術の開発・実証	2021	2025	作物園芸部 浜地域研究所	外部資金※2
A2-2-2	営農再開に対応した大規模水田輪作体系の実証	2021	2025	作物園芸部	外部資金※2
A2-2-3	広域エリアにおける ICT を用いた省力的圃場管理技術	2021	2025	生産環境部	外部資金※2
A2-2-4	飼料用トウモロコシの安定多収、加工・調製技術の開発と実証	2021	2025	畜産研究所	外部資金※2
A2-2-5	経営管理システムを活用した経営データ分析・活用手法	2021	2025	企画経営部	外部資金※2
A2-3	先端技術を活用した施設野菜・畑作物の省力高収益栽培・出荷技術の確立				
A2-3-1	施設果菜類の雇用労力とロボットを作業主体とした大規模経営技術の開発・実証	2021	2025	企画経営部 作物園芸部 浜地域研究所	外部資金※2
A2-3-3	露地野菜栽培における難防除雑草優占化機構の解明と対策技術の確立	2021	2025	作物園芸部 浜地域農業再生研究センター	外部資金※2
A2-4	避難地域の営農再開を促進する先端プロ技術の社会実装				
A2-4-1	花きの計画的安定生産技術の実証	2021	2025	作物園芸部	外部資金※2
A2-4-2	早期成園化が可能な樹形によるナシ、ブドウ、モモの省力・高品質生産技術の実証	2021	2025	果樹研究所	外部資金※2
A2-4-3	肉用牛の AI 超音波肉質診断技術の実証	2021	2025	畜産研究所	外部資金※2
A2-5	農業復興を実現する先端技術の実証				
A2-5-1	輸出対応型果樹生産技術の開発・実証	2024	2024	果樹研究所	外部資金※2
A2-5-2	赤外センサーを用いた高品質ブドウ栽培のスマート化技術	2024	2027	生産環境部 果樹研究所	外部資金※2
A2-5-3	先端技術を活用した鳥獣被害対策システムの構築・実証	2024	2029	企画経営部 浜地域農業再生研究センター	外部資金※2
A2-5-4	化学肥料・化学農業に頼らない耕畜連携に資する技術の開発・実証	2024	2029	有機農業推進室 浜地域農業再生研究センター	外部資金※2
A2-5-6	果菜類収穫作業の軽労化につながる協働ロボットの開発及び新たな協調作業体系の構築に関する研究	2024	2029	作物園芸部	外部資金※2
B	農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進				
B1	先端技術を活用した新たな農業生産技術の開発				
B1-1	イノベーションによる避難地域等の新たな農業生産技術の開発				
B1-2	スマート農業技術を活用した農業生産技術の確立				
B1-2-3	花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート農業技術の開発	2022	2024	果樹研究所	外部資金※11
B1-2-4	中山間地における農地・農業用施設に関するデジタル管理技術の実証	2024	2025	企画経営部	繰入金
B1-3	先端技術を活用した省力的栽培技術の確立				
B1-3-5	ブロッコリー選別自動収穫機の機械化栽培体系の確立	2022	2024	企画経営部 作物園芸部 浜地域研究所	外部資金※11
B1-3-7	ICT・IoT 技術を活用した花きの新たな農業生産技術の確立	2021	2024	会津地域研究所	一般財源

課題番号	試験課題　（大課題・中課題・小課題）	始期	終期	担当部所	予算区分
B1-3-8	大規模酪農経営における飼養管理技術の確立	2021	2025	畜産研究所	一般財源
C　県産農産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進					
C1	市場ニーズに対応したオリジナル品種・系統と生産技術等の開発				
C1-1	個性豊かな県オリジナル水稲、野菜、花き品種の育成				
C1-1-1	個性豊かな県オリジナル水稲品種の育成	2021	2025	作物園芸部 浜地域研究所	寄附金※3 一般財源
C1-1-2	個性豊かな県オリジナル野菜の品種開発	2021	2025	作物園芸部	国庫 寄附金※3 一般財源
C1-1-3	個性豊かな県オリジナル花き品種の育成	2021	2025	作物園芸部	国庫 一般財源
C1-1-4	個性豊かな品種育成のための促進技術開発	2021	2025	作物園芸部	外部資金※11 国庫 一般財源
C1-1-5	バイテク活用による有料原種苗の長期保存・増殖技術開発	2021	2025	作物園芸部	一般財源
C1-2	作物、野菜、花きの有望品種・系統の評価				
C1-2-1	奨励品種決定調査	2021	2025	作物園芸部 会津地域研究所 浜地域研究所	一般財源
C1-2-3	麦類育成系統の地域適応性試験	2021	2024	作物園芸部	外部資金※13
C1-3	作物、野菜、花きの有望系統・新品種の栽培技術の確立				
C1-3-1	県産米の高品質化・良食味米生産のための栽培管理技術の確立	2021	2025	作物園芸部 会津地域研究所 浜地域研究所	外部資金※4,※7 寄附金※3
C1-3-2	県オリジナル酒造好適米の栽培方法の確立	2021	2026	作物園芸部 会津地域研究所 浜地域研究所	一般財源
C1-3-3	野菜の有望系統・新品種の栽培技術の確立	2021	2025	作物園芸部	国庫
C1-3-4	花きの有望系統・新品種の栽培技術の確立	2021	2025	作物園芸部 会津地域研究所 浜地域研究所	国庫
C1-4	個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成				
C1-4-1	個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成	2021	2025	生産環境部 果樹研究所	寄附金※3 国庫 一般財源
C1-5	果樹の有望系統の評価および新品種・有望系統の栽培技術の確立				
C1-5-1	果樹系統適応性検定試験	2021	2025	果樹研究所	外部資金※5 一般財源
C1-5-2	県オリジナル果樹品種の安定生産・流通技術の確立	2021	2025	果樹研究所	国庫 一般財源
C1-6	個性豊かな県優良家畜等の改良				
C1-6-1	牧草・飼料作物の優良草種・品種の選定	2021	2025	畜産研究所	一般財源
C1-6-2	「フクシマL2」の開放型育種	2021	2025	畜産研究所	一般財源
C1-6-3	県ブランド鶏の改良と開発	2021	2025	畜産研究所	一般財源
C1-6-4	胚移植技術を活用した高能力肉用牛の効率的生産技術の確立	2021	2025	畜産研究所	一般財源

課題番号	試験課題　（大課題・中課題・小課題）	始期	終期	担当部所	予算区分
C1-6-5	ゲノム情報を活用した家畜の育種改良技術の確立	2021	2025	畜産研究所	国庫 一般財源
C2	農産物を「ふくしま」ならではの産品にする技術の開発				
C2-1	県産農産物の特性を活かした利用技術の開発				
C2-1-1	県産農産物の加工技術の開発	2021	2025	生産環境部	一般財源
C2-1-2	県産農産物の品質保持技術の開発	2021	2025	生産環境部	一般財源 国庫
C2-1-3	本県農産物の機能性成分の評価と利用技術の開発	2021	2025	生産環境部	国庫
C2-2	県産農産物の輸出拡大に向けた生産・保鮮技術等の開発				
C2-2-1	モモせん孔細菌病に対する多目的防災網を活用した防除効果の検証	2021	2025	果樹研究所	国庫
C2-2-3	シュッコンカスミソウの輸出に向けた鮮度保持技術の開発	2021	2025	会津地域研究所	繰入金
C2-2-4	ナシ黒星病に対する秋期及び果実肥大後期の新防除体系の検証	2021	2025	果樹研究所	国庫
C2-2-6	花き類の保鮮流通技術の開発	2023	2025	作物園芸部	繰入金
C2-3	「福島牛」ブランド競争力強化技術の確立				
C2-3-1	「福島牛」の高付加価値生産システムの確立	2021	2025	畜産研究所	国庫 一般財源
C2-4	「ふくしま」ならではの地域特産物を活かした栽培・流通技術の確立				
C2-4-4	オタネニンジンの産地づくり支援に関する研究	2022	2025	作物園芸部 会津地域研究所	国庫
C2-4-5	エゴマ安定生産体系の確立	2022	2025	企画経営部 作物園芸部	国庫
D	地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進				
D1	気候変動に対応し農業生産の安定化に寄与する技術の開発				
D1-1	気候変動に対応した生産技術の開発				
D1-1-1	夏季高温条件下における良質・良食味米生産技術の確立	2021	2026	作物園芸部	寄附金※3
D1-1-2	主要野菜の安定生産技術の確立	2021	2025	作物園芸部	一般財源
D1-1-3	温暖化傾向に対応した花きの安定生産技術の確立	2021	2025	作物園芸部	一般財源
D1-1-4	主要農作物生育作柄解析調査研究	2021	2025	作物園芸部 会津地域研究所 浜地域研究所	一般財源
D1-1-5	温暖化に対応した果樹の生育予測技術及び生育障害対策技術の確立	2021	2025	果樹研究所 会津地域研究所	外部資金※11 一般財源
D2	環境負荷を低減する農業生産に資する研究開発				
D2-2	環境と共生する病害虫防除技術の開発				
D2-2-1	総合的病害虫管理（IPM）による環境と共生する農業技術の確立	2021	2025	生産環境部	一般財源
D2-2-2	果樹における生物資源等を活用した環境と共生する病害虫防除技術の開発	2021	2025	果樹研究所	一般財源
D2-3	有機農産物の低投入持続型栽培技術の確立				

課題番号	試験課題　（大課題・中課題・小課題）	始期	終期	担当部所	予算区分
D2-3-1	有機農産物の低投入持続型栽培技術の確立	2021	2025	有機農業推進室 企画経営部	国庫
D2-4	環境負荷の低減に向けた技術の開発				
D2-4-1	温室効果ガス排出軽減技術の確立	2021	2025	生産環境部	外部資金※1
D2-4-2	農地における土壌管理実態調査	2021	2025	生産環境部	国庫
D2-4-3	果樹園における省力的環境負荷軽減のための肥培管理技術の確立	2021	2025	生産環境部	一般財源
D2-4-5	効率的肥培管理技術の確立	2021	2025	生産環境部	一般財源
D2-4-6	家畜排せつ物堆肥の高度利用技術の開発	2022	2026	生産環境部 畜産研究所	繰入金
D2-4-7	農業副産物を活用した高機能バイオ炭の施用体系の確立	2023	2027	作物園芸部	外部資金※10
D2-4-8	放射性物質除染後ほ場におけるバイオ炭施用の作物への影響と炭素貯留効果	2023	2027	生産環境部 浜地域農業再生研究センター	外部資金※10
D2-4-9	特別栽培生産拡大のための技術確立	2024	2026	生産環境部 作物園芸部 会津地域研究所 浜地域研究所	国庫 一般財源
D2-4-10	切り花栽培における農業用使用済みプラスチック低減技術の確立	2024	2024	作物園芸部	繰入金
E　安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進					
E1	産地や経営体において収益性を高める技術の研究開発				
E1-1	水稲、畑作物の安定生産技術の確立				
E1-1-2	省力的な稲作栽培に適応した雑草防除技術の確立	2021	2025	作物園芸部	一般財源
E1-1-3	畑作物の高品質・安定栽培技術の確立	2021	2024	作物園芸部	外部資金※9 一般財源
E1-1-4	マルチオミクス解析に基づく作物の安定多収に向けた栽培技術の開発	2018	2025	作物園芸部	外部資金※11
E1-1-5	葉たばこ特別調査	2021	2025	作物園芸部	外部資金※6
E1-1-6	水稲の疎播疎植と高精度２段施肥体系による省力多収栽培技術の確立	2023	2026	作物園芸部	外部資金※11
E1-2	野菜・花きの安定生産技術の確立				
E1-2-1	地域特性を活かした施設花きの安定生産技術の確立	2021	2025	作物園芸部	外部資金※12 一般財源
E1-2-2	ふくしまの特色ある露地花きの安定生産技術の確立	2021	2025	作物園芸部	外部資金※1 一般財源
E1-2-3	特産野菜の安定生産技術の確立	2021	2024	企画経営部 作物園芸部	国庫 一般財源
E1-3	会津地域に適した作物、園芸品目等の生産技術の確立				
E1-3-1	会津地域における地場野菜等の生産技術の開発	2021	2025	会津地域研究所	一般財源
E1-3-3	会津地域における秋ソバ「会津のかおり」の追肥の効果と作期分散	2023	2024	会津地域研究所	一般財源
E1-3-4	小麦の高品質・安定生産技術の確立	2024	2024	会津地域研究所	一般財源
E1-3-5	カキ「会津身不知」の適期防除と長期保存方法の検証	2024	2025	会津地域研究所	一般財源
E1-4	浜通り地方に適した作物、園芸品目等の生産技術の確立				

課題番号	試験課題　（大課題・中課題・小課題）	始期	終期	担当部所	予算区分
E1-4-1	浜通りにおける大規模水田利用支援技術の開発	2021	2025	浜地域研究所	一般財源
E1-4-2	浜通りの気候を活かした野菜・花き等生産振興支援技術の確立	2021	2025	浜地域研究所	科研費 一般財源
E1-5	果樹の安定生産技術の確立				
E1-5-1	革新的栽培技術体系による果樹の栽培管理技術の確立	2021	2025	果樹研究所	一般財源
E1-5-2	モモ「あかつき」の核障害軽減対策技術の確立	2021	2025	果樹研究所	一般財源
E1-5-3	大規模経営に対応できるリンゴの省力・高品質生産技術体系の確立	2021	2025	果樹研究所	一般財源
E1-5-4	ナシの花粉確保技術の確立	2024	2024	果樹研究所	一般財源
E1-6	畜産の安定生産技術の確立				
E1-6-1	乳牛の安定生産技術の確立	2024	2025	畜産研究所	外部資金※2
E1-6-2	肉用牛の安定生産技術の確立	2021	2026	畜産研究所	寄附金※3 一般財源 国庫
E1-6-3	豚の安定生産・高付加価値化技術の確立	2021	2025	畜産研究所	繰入金 一般財源
E1-7	新たな技術・手法等の導入効果に関する経営的評価				
E1-7-1	GAP を活用した経営改善効果の検証	2022	2024	企画経営部	国庫
E2	農産物の安定供給に寄与する鳥獣被害防止・病害虫防除等に係る研究開発				
E2-1	野生鳥獣害対策技術の確立				
E2-1-2	中山間地におけるドローン等を活用した ICT 鳥獣対策及び被害管理技術の確立	2024	2025	企画経営部	繰入金
E2-3	新奇病害虫・難防除病害虫防除技術の確立				
E2-3-1	新奇・難防除病害虫に対する防除技術の開発	2021	2025	生産環境部	一般財源
E2-4	果樹の病害虫に対する防除技術の確立				
E2-4-1	果樹の重要な課題である病害虫に対する防除技術の確立	2021	2025	果樹研究所	外部資金※1 一般財源
E2-4-2	果樹等の幼木期における安定生産技術の確立	2020	2024	生産環境部 果樹研究所	外部資金※1
E2-4-4	果樹における農薬耐性、抵抗性を管理する技術確立	2021	2025	果樹研究所	一般財源
E2-4-5	果樹病害虫の防除法改善に関する試験	2021	2025	果樹研究所	外部資金※11 一般財源
E2-4-7	相次いで侵入した外来カミキリムシから日本の果樹と樹木を守る総合対策手法の確立	2022	2025	果樹研究所	外部資金※11
E2-5	新農薬・新資材等の効率的利用法				
E2-5-1	安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化	2021	2025	生産環境部 作物園芸部 果樹研究所 会津地域研究所 浜地域研究所	外部資金※8

【備考】 ※1 農林水産省
※2 福島国際研究教育機構（F-REI）
※3 JA グループ福島
※4 公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会
※5 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
※6 日本たばこ産業株式会社
※7 新稲作研究会(公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会)
※8 公益社団法人福島県植物防疫協会
※9 国立大学法人福島大学
※10 経済産業省
※11 生物系特定産業技術研究支援センター
※12 一般社団法人日本種苗協会
※13 一般社団法人全国米麦改良協会
※14 公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団

2 共同研究、受託研究、研究協定一覧

（1）福島県農林水産部共同研究

ア 低カドミウム遺伝子を付与したイネ系統の作成（福島県）
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門）

イ 水稲いもち病ほ場抵抗性検定の東北地域向け基準品種の追加策定
（国立研究開発法人農業･食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター）

ウ ゲノム育種による福島県オリジナル品種の開発（国立大学法人福島大学）

エ 和牛における経済形質のゲノム選抜手法の確立（独立行政法人家畜改良センター）

（2）福島県農林水産部受託研究

ア トルコギキョウ品種特性調査（一般社団法人日本種苗協会）

（3）研究協定

ア 地域資源を活用した水稲の品種育成に関する研究
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構[*1]ほか 30 公設試験研究機関）
＊1 次世代作物開発研究センター

イ 水稲新品種の育成 （富山県農林水産総合技術センター）

ウ 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の水稲有望系統を交配母本とした水稲品種・系統の共同育成（福島県）
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中日本農業研究センター）

エ 倍加半数体リンゴ品種を利用した果実形質の遺伝解析に関する研究
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門）

オ 日本における除草剤抵抗性ヒエ属水田雑草の実態解明
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中日本農業研究センター、国立大学法人東京農工大学）

【備考】 1 福島県農林水産部共同研究
福島県農林水産部共同研究要綱に定められた、県と県以外の者が技術と知識を交換し、研究及び研究費用を分担しながら、共通の課題解決に向けて共同で行う研究

2 福島県農林水産部受託研究
福島県農林水産部受託研究要綱に定められた、委託者の負担する経費を使用して公務として行い、その成果を委託者に報告する試験研究

3 研究協定
農業総合センターと県以外の者が技術と知識を交換し、共通の課題解決に向けて共同で行う研究のうち、研究結果として知的所有権等の発生が見込めない１に至らない研究（所長が締結する研究契約）

※共同研究及び受託研究は、福島県農林水産技術会議評価部会の承認後、知事が実施機関と契約を締結している。

３　試験研究の概要

（文中に**【普及成果○】【参考成果○】【放射線技術情報○】【営農再開技術情報○】**の記載のある成果については、当センターホームページに「令和６年度に得られた研究成果」として掲載しております。）

Ａ　東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化による農林水産業の再生を支援するための試験研究の推進

Ａ１　農業における総合的な放射性物質対策の研究開発

Ａ１－１　放射性物質の分布状況の把握

試験課題名：土壌の経年調査		**A1-1-1**
予算区分：外部資金（放射性物質測定調査委託事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：環境・作物栄養科、果樹研究所栽培科、畜産研究所飼料環境科、浜地域農業再生研究センター		
	概要	土壌の放射性セシウム濃度及び空間線量率は、減少傾向が見られた。また、畑地及び草地の除染後農地は、2012 年と 2024 年を比較すると、未除染農地より土壌の放射性セシウムの減少率が大きい傾向にあった。
試験課題名：農地における放射性セシウム濃度深度分布の把握		**A1-1-2**
予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：環境・作物栄養科		
	概要	草地では 2017 年の調査以降、^{137}Cs の下方への移動はほとんど見られず、^{137}Cs は主に表層(0～6cm)に局在していることが確認された。
試験課題名：郡山市における大気浮遊塵及び降下物中の放射性セシウム濃度調査		**A1-1-3**
予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：環境・作物栄養科		
	概要	大気中の放射性セシウム濃度は、年々低下する傾向が見られ、2023 年 11 月から 2024 年 11 月までの ^{137}Cs 濃度は 2022 年 11 月から 2023 年 11 月までの濃度と同様に低下しており、検出限界以下になる頻度が増加していた。 放射性セシウムの大気降下量は、大気中放射性セシウム濃度と同様に年々低下する傾向が見られたが、平均風速の値が高い月に増加しており、2023 年 12 月から 2024 年の 5 月も同様に高い値を示した。なお、大気中の ^{134}Cs と異なり、大気降下物中の ^{134}Cs は検出されたが、検出頻度は 2023 年と比較して下がっていた。
試験課題名：果樹における放射性物質濃度の経年変化の把握		**A1-1-4**
予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：果樹研究所栽培科		
	概要	東京電力福島第一原子力発電所事故後の果樹園における放射性物質の分布状況を把握するため、主要果樹(モモ、ナシ、リンゴ、カキ)の成熟期における果実及び葉の ^{137}Cs 濃度を測定した結果、樹種によって多少差はあるものの、事故 2 年目以降漸減し、低い値で推移していることを明らかにした**【放射線技術情報３】**。 果樹園における土壌の ^{137}Cs 濃度の垂直分布は、事故直後は表層 3cm に多く存在し、以後徐々に下方移行が認められた。2024 年現在、砂壌土では 6cm までに 70%、重植土では 6cm までに 73%となっていた。一方、果実の ^{137}Cs 濃度は、低い状況を維持していることが明らかになった**【放射線技術情報４】**。

Ａ１－２　放射性物質の吸収抑制技術等の確立

試験課題名：基準値超過等要因解析　A1-2-2

予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

土壌の交換性カリ含量は、中通りで 25mgK_2O/100gDW 未満の土壌が増加し、低下傾向が認められた。これに対し、会津や浜通りでは検証時と 2024 年の中央値に大きな変動はなく、25mg K_2O/100gDW 以上を維持したほ場の多くで稲わらと有機物(堆肥等)が併用されていた。なお、中通りではカリ肥料の平均施用量が 5.4kg/10a と他地域より多いにもかかわらず、土壌特性や資材の違いから必ずしも交換性カリが高まらなかったと考えられた。

試験課題名：県内農地土壌の交換性塩基含量の実態解明　A1-2-3

予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

2024 年に調査した地点では、土壌の交換性カリの中央値は 2014 年以降と同程度であった。また、25mg/100g 未満であった地点数は、前回調査時点と同程度だった。

試験課題名：水稲の生産性と安全性の評価ならびに放射性物質移行抑制の実証　A1-2-8

予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：稲作科

概要

現地ほ場設置 10 年目の調査を実施した。2023 年 5 月にカリ上乗せ施用を行ったほ場の土壌の交換性カリ含量は、上乗せしないほ場とほとんど差がないレベルまで下がった。カリ上乗せ施用による土壌の交換性カリ含量の維持効果は 2 年程度であり、毎年のわらすき込みや、カリ施肥の重要性を示す結果となった。

試験課題名：　畑作物の放射性セシウム吸収に対する土壌の影響解明　A1-2-9

予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：畑作科

概要

ダイズの栽培期間中に施用する塩化カリの一部又は全量を開花期前後に施用した場合、全量基肥施用した場合と比較して、収量と子実への ^{137}Cs 移行程度に差は見られなかった。追肥に要する労力や時間を削減する観点から、カリ肥料は全量基肥施用が望ましいことが明らかになった**【放射線技術情報１】**。

ソバの放射性セシウム吸収抑制のために用いるカリ肥料は、塩化カリと硫酸カリが有効であり、ケイ酸カリの吸収抑制効果は劣った。また、塩化カリの施用により生育量や収量が減少する傾向があった一方、硫酸カリとケイ酸カリの施用ではそれらの減少は見られなかった**【放射線技術情報２】**。

試験課題名：カキ・ユズにおける放射性物質の吸収抑制技術等の確立　A1-2-10

予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所栽培科

概要

土壌からの放射性セシウムの吸収を抑制するため、植え付け前に各種土壌処理(耕うん、表土剥、表土戻)を実施して、カキ苗木を植え付けた。植え付け 10 年目までの葉及び果実の放射性セシウム濃度は、各種土壌処理の影響は認められなかったが、土壌の交換性カリ濃度が高いほ場では、土壌から果実に対する放射性セシウムの移行係数が低い傾向が見られた**【放射線技術情報５】**。

ユズ新植ほ場において土壌の交換性カリ濃度と葉及び果実の放射性セシウム濃度の関係について調査した結果、土壌の交換性カリ濃度が 30mg/100mg を超えると葉及び果実の ^{137}Cs 濃度は低かったが、相関は認められなかった。また、移行係数においても同様だった。

試験課題名：避難指示区域等における農作物中放射性セシウム吸収抑制技術の開発		A1-2-11
予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター		
概要	ハチミツについて、春蜜の収量は秋蜜より多く、放射性セシウム濃度は秋蜜の方が高い傾向にあった。秋に播種した緑肥作物３種のうち、自生のシロツメクサより早く開花したのはハゼリソウのみだが、花粉解析ではこの期間の主な蜜源植物にはなっていなかった。 もみ殻くん炭を用いた水稲ポット試験において、塩化カリと同様に籾への放射性セシウム吸収を抑制する傾向が見られたが、土壌の交換性カリ含量 25mg/100g 乾土に達するには 1t/10a を越える施用量が必要と試算された。	
試験課題名：放射性セシウム濃度低減のための野菜栽培と調理加工		**A1-2-12**
予算区分：公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団基金 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター		
概要	除染後農地３ほ場において、土壌の交換性カリ含量を調整して４種類の野菜(コマツナ、ブロッコリー、ネギ、タマネギ)を栽培した結果、ネギとタマネギは可食部への交換性放射性セシウムの移行係数が比較的低い品目であることを確認した**【放射線技術情報７】**。	
試験課題名：再浮遊物質を含む大気中の放射性セシウムの動態と農地・農作物への影響の解明		**A1-2-13**
予算区分：外部資金（放射性物質測定調査委託事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター		
概要	大熊町の帰還困難区域でコンテナ栽培した野菜類について、降下物による放射性セシウムの影響は限定的であった。	

Ａ１－３　特定復興再生拠点区域等の円滑な営農再開に向けた技術実証

試験課題名：計測ロボットを活用した放射性物質等分布実態の把握		A1-3-1
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター		
概要	放射性物質測定ロボット(KURAMA-m)の可視化単位である 2×2m メッシュ内における土壌の放射性セシウム濃度には大きなばらつきが見られる場合があり、密着線量率との有意な相関が見られた。	
試験課題名：営農再開を阻害する加害動物の行動特性や動物種把握による獣害防止策の提案		**A1-3-2**
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター		
概要	特定復興再生拠点区域におけるアライグマについて、住民帰還前の家屋や未利用水路等を利用しており、オスよりメスの生息適地はやや限定的であることが推測された。	
試験課題名：通い農業支援システム等を活用した栽培状況の可視化と評価		**A1-3-3**
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター		
概要	トルコギキョウとストック栽培での通い農業支援システムを導入した情報共有試験について、３者間(浪江町幾世橋、室原、立野)で実施しても問題なく運用できた。また、葉数(節数)自動カウントシステムにより、高精度で節数の推定が可能であった。	

試験課題名：緑肥作物等の利用による地力回復技術の開発と蜜源利用	A1-3-4
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター	
概要	秋ソバ前作の緑肥作物としての春播きヘアリーベッチは 4 月下旬、ペルシアンクローバは 3 月中旬までに播種できれば、雑草の生育を抑え、雑草単体のすき込みより投入窒素量が上回った。また、緑肥作物無植栽に比べて、ソバの収量は増加傾向にあった。 大熊町 2 地点、浪江町の 1 地点で採取したハチミツの放射性セシウム濃度の時期別推移と栽培及び自生植物の開花状況との関係について解析した。

試験課題名：効率的雑草管理技術の開発と実証	A1-3-5
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター	
概要	各種多年生雑草の優占する保全管理ほ場において、4～5 月の耕起 1 か月後に散布した塩素酸塩粒剤の防除効果は翌年も継続し、処理翌春に播種した緑肥作物の生育には影響がなかった。また、塩素酸塩粒剤散布と耕起の体系処理についても、翌春播きのヘアリーベッチを組み合わせることでよりスギナを抑えることができた。

試験課題名：特定復興再生拠点等における農作物栽培の生産性と安全性の評価	A1-3-6
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター	
概要	特定復興再生拠点区域の大熊町(3 作目)、浪江町と双葉町(初作)の計 6 ほ場で水稲を栽培した結果、収量は震災前並～並以上であり、塩化カリの上乗せ施用を実施することで玄米の放射性セシウム濃度は全地点で食品の基準値を大きく下回った。また、玄米に対する周辺環境からの放射性セシウムの影響は極めて小さかった。

試験課題名：放射性物質移行抑制技術の実証・開発と畑作物の安全性の評価	A1-3-7
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：畑作科	
概要	2023 年までのデータにより、ダイズ、ラッカセイ、ソバの子実の放射性セシウム濃度を予測するモデル 2 種を改良した。交換性放射性セシウム濃度と交換性カリ含量を説明変数とするモデル 1 の予測精度については、ダイズ子実で高く、ラッカセイとソバ子実でやや劣った。また、溶存態放射性セシウム濃度を説明変数とするモデル 2 については、ダイズ、ラッカセイで良好な正の相関関係が見られた一方、ソバはばらつきが大きかった。

試験課題名：草地における放射性セシウム吸収抑制技術の開発・実証と未除染牧草地利用可否基準の策定	A1-3-8
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：畜産研究所飼料環境科、浜地域農業再生研究センター	
概要	草地更新時に堆肥 2t+造粒金雲母 0.5t を施用すると、3 年は無カリでも移行係数が低く推移した**【放射線技術情報６】**。 営農再開地域に適したトールフェスク品種を選定するため、3 か年の収量性等を調査した結果、収量、生育特性、放射性セシウム濃度に品種間差はなく、いずれも営農再開地域で栽培できた**【営農再開技術情報１】**。 施肥時期を変えて、トールフェスク放牧利用時の 5～7 月の草量平準化を試みた。秋施肥により 5 月の草量の不足は解消できたが、6～7 月に草量が過剰になった。

試験課題名：生産現場における最適な放射性セシウム移行リスクの評価手法および圃場特性に合わせた移行低減技術の提案	A1-3-10
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：環境・作物栄養科	
概要	西郷村、伊達市ともに土壌の交換性カリの変動が見られた。西郷村では増加傾向が見られ、25mg/100g 未満の地点が減少した。伊達市では減少傾向が見られた。 玄米の ^{137}Cs 濃度は、須賀川市ではカリ施肥の有無により、カリ対策区が約 10Bq/kg、無カリ区が約 30Bq/kg と無カリ区で高い傾向が見られた。一方、西郷村及び広野町では両区とも約 10 Bq/kg 以下でほぼ同等であった。須賀川市の玄米で ^{137}Cs 濃度が高いのは、土壌の交換性 ^{137}Cs 濃度が他の地区より高いためと考えられた。10a 当たりの交換性カリ含量は、地区ごとに増減量に差が見られ、土壌によってカリ施用量の効果が異なることが確認された。さらに、カリ無施用による交換性カリ含量の減少量も、土壌によって異なることが明らかになった。 土壌の交換性カリ含量が低下したときの玄米の ^{137}Cs 濃度は、土壌によって異なる増加傾向を示した。また、交換性 ^{137}Cs 濃度を用いた移行係数は、土壌の交換性カリ含量との相関が強かった。さらに、非交換性カリ含量が 50mgK_2O/100gDW 以上でも ^{137}Cs の移行が抑制されない土壌が存在することが示唆された。

Ａ２　避難地域等の営農再開を支える技術の実証

Ａ２－１　避難地域の営農再開を支援する研究

試験課題名：避難地域等における営農再開のための支援研究	A2-1-1
予算区分：繰入金（福島県原子力災害等復興基金） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター	
概要	大熊町の特定復興再生拠点区域における土壌調査の結果、土壌の交換性カリ含量は 80%の地点で 25mg/乾土 100g を下回っていることが明らかになった**【営農再開技術情報２】**。 畦畔の雑草管理の省力化が期待できるイブキジャコウソウは、定植 1 年目は定期的な除草作業が必要で、22 時間/a/人を要したが、マニュアル並の被度を確保できた**【営農再開技術情報３】**。 排水不良ほ場でも十分な生育が見込めるマメ科緑肥作物のセスバニアについて、秋冬ブロッコリーの前作として作付けし、ブロッコリー定植 1 か月前の 7 月下旬にすき込む場合は、5 月播種が適することが示された**【営農再開技術情報４】**。 営農再開地域の果樹園では、サル被害対策に設置された複合柵のワイヤーメッシュ柵部分を中型獣がすり抜けて園内を加害する事例が見られる。複合柵の外周部へ防獣用ポリプロピレンネット及びワイヤーメッシュ用電気柵取付け用がい子を施工、通電することで、中型獣の侵入及び被害を抑制することができた**【営農再開技術情報５】**。 川俣町で栽培されている「山木屋在来ソバ」は、子実の黒化率が 70～80%の時に収穫を始めることが望ましいと考えられた**【営農再開技術情報６】**。 除染後農地におけるコムギ栽培では、幼穂形成期に追肥を行わないと減収し、幼穂形成期と出穂期に追肥を行わないと減収に加えて品質が低下することを明らかにした**【営農再開技術情報７】**。 カンショ品種の地域適性を調査した結果、田村市都路地区では「栗かぐや」と「あまはづき」、楢葉町では「あまはづき」が適すると考えられた**【営農再開技術情報８】**。 チェーンポットを用いたエゴマの簡易移植の生産性は、半自動移植機による通常移植と同等で、移植に係る労力を 2 割程度軽減できることを実証した**【営農再開技術情報９】**。

試験課題名：避難地域等における営農再開のための支援研究	A2-1-1
概要	(国研)農研機構作成の土壌管理アプリを活用して、秋播き移植タマネギの施肥窒素量について、夏播き緑肥作物のすき込み量(新鮮重)と土壌の可給態窒素量から算出して施肥した結果、施肥量を 40～60%程度削減することができたとともに、慣行施肥と同等の収量を確保できた**【営農再開技術情報１０】**。 ピーマンの新規・小規模生産者(5a 程度)向けに、安価な簡易自動かん水システムを既存製品で構築して露地栽培に導入した結果、地域の目標収量と同等の収量を確保することができた**【営農再開技術情報１１】**。 加工用ブロッコリー栽培体系の確立に向けて実施した試験において、面積当たりの花蕾重を確保するには、密植かつ花蕾肥大期間を長く取ることが有効であることを確認した。 双葉町で栽培されている秋冬ブロッコリーにおいて、食品残さ由来消化液を基肥の化成肥料に対して全量又は一部代替利用した場合でも、同等の生育・収量を得た。 楢葉町で発生が見られているユーカリの斑点性病害の発病度には品種間差があり、栽培 2 年目においても「ポリアンセモス」で被害が小さかった。また、防草シートの全面敷設による発病抑制も検討したが、１年目では効果を確認できなかった。 フザリウム立枯病が前作で多発した浪江町のトルコギキョウ栽培において、転ろ石灰による pH 矯正と、低濃度エタノールによる還元消毒を実施した結果、クロルピクリン消毒と同程度の被害軽減効果が得られた**【営農再開技術情報１２】**。 阿武隈中山間地域の飯舘村において、春播きしたイタリアンライグラスの収量は、秋播きのそれよりも大きく減収した**【営農再開技術情報１３】**。 富岡町の特定復興再生拠点区域を含む 3 地域 6 ほ場において、基肥施用時にカリ肥料を増施して飼料用トウモロコシを栽培した結果、茎葉と雌穂の放射性セシウム濃度の低下が見られた**【営農再開技術情報１４】**。 大熊町でカリ増施栽培した混播種子牧草は、放牧利用が可能であった。乾物収量は 6 月が最大で、牧草の放射性セシウム濃度は全ての月で飼料の暫定許容値を下回った**【営農再開技術情報１５】**。

【参考】 営農再開に向けた実証栽培（21 課題）

実証地区	品目	面積(a)	課　題　名	概　　要	営農再開技術情報No.
田村市 都路	野菜 (カンショ)	1	カンショ作期分散の実証	カンショの作期分散の検討に向け早生品種等の地域適性を調査する。	8
川俣町 山木屋	作物 (ソバ)	9	山木屋在来ソバの栽培実証	山木屋在来ソバの適切な収穫時期を明らかにする。	6
南相馬市 小高区	野菜 (タマネギ)	7.7	緑肥作物によるタマネギ栽培の減肥実証	タマネギ秋播き栽培において、緑肥作物活用による肥料コスト削減技術を実証する。	１０
南相馬市 鹿島区	野菜 （ブロッコリー)	5	加工用ブロッコリーの実証	加工用ブロッコリーの適品種、栽植様式を明らかにする。	－

実証地区	品目	面積(a)	課　題　名	概　　要	営農再開技術情報No.
楢葉町 上繁岡	花き (ユーカリ)	2.3	浜通り平坦地域におけるユーカリ品種の検討	浜通り平坦部において、ユーカリの病害による被害が見られるため、病害に対する抵抗性の比較及び防草シート敷設による抑制効果を調査する。	－
楢葉町 上繁岡	作物 (カンショ)	0.1	カンショ作期分散の実証	カンショの早生品種の導入により、作期分散が可能かを実証する。	8
富岡町 小良ケ浜	畜産 （飼料作物）	6	飼料用トウモロコシの放射性セシウム吸収抑制対策に基づく栽培技術実証	放射性セシウム吸収抑制対策を実施して栽培した飼料用トウモロコシの安全性について評価する。	１４
富岡町 上手岡	作物 (コムギ)	11.4	コムギ増収の実証	コムギ栽培における基本的な施肥体系を実証する。	7
富岡町 小良ヶ浜	野菜 (全般)	4.3	特定復興再生拠点等における各種野菜の安全性評価	地域で作付実績のある野菜類について、経根吸収による放射性セシウム移行と、カリ施肥による吸収抑制効果を調査する。	－
川内村 下川内	野菜 （ピーマン）	0.4	ピーマンかん水実証	露地ピーマンにおいて安価なタイマー式かん水装置の導入効果を検証する。	１１
大熊町 野上	作物 （水稲）	0.5	イブキジャコウソウによる畦畔管理	畦畔被覆による抑草効果が期待できるイブキジャコウソウの省力効果を検証する。	3
大熊町 熊	畜産 （牧草）	20	混播種子牧草の放射性セシウム吸収抑制対策による栽培実証	営農再開に向けて放射性セシウム吸収抑制対策を実施して栽培した牧草の安全性について評価する。	１５
大熊町 野上	野菜 (全般)	4.3	特定復興再生拠点等における各種野菜の安全性評価	地域で作付実績のある野菜類について、経根吸収による放射性セシウム移行とカリ施肥による吸収抑制効果を調査する。	－
大熊町	作物 （畑作物）	10	除染後農地の土壌中放射性物質の実態調査	営農再開後の栽培リスクを把握するため、特定復興再生拠点区域内の土壌の実態を明らかにする。	2
大熊町 大川原	作物 （エゴマ）	0.9	エゴマ簡易省力移植の実証	エゴマにおけるチェーンポットを用いた簡易移植技術について、生産性と必要労力を明らかにする。	9
双葉町 下羽鳥	野菜 （ブロッコリー）	12	緑肥作物セスバニアの播種適期	秋冬ブロッコリーの前作としてセスバニアを栽培する場合の播種適期を明らかにする。	4
双葉町 下羽鳥	野菜 （ブロッコリー）	2.3	ブロッコリー栽培における食品残渣由来消化液の利用実証	ブロッコリー栽培において食品残さ由来消化液の肥料代替効果と、生育への影響を明らかにする。	－

実証地区	品目	面積(a)	課　題　名	概　　要	営農再開技術情報No.
浪江町幾世橋	花き(トルコギキョウ)	2.7	トルコギキョウ栽培における低濃度エタノール消毒の実証	トルコギキョウの土壌病害解決のために、土壌還元消毒方法の効果を検証する。	１２
浪江町棚塩	鳥獣害対策	42	中型侵入防止対策の実証	既設の複合柵に侵入防止技術を組み合わせて、中型獣の被害抑制が可能かを検証する。	5
飯舘村関根	畜産（牧草）	1	阿武隈中山間地域におけるイタリアンライグラス収量向上の検討	イタリアンライグラスの品種及び播種時期による収量性の違いを明らかにする。	１３
飯舘村伊丹沢	畜産（牧草）	50	湿田におけるイタリアンライグラスの排水対策の実証	冠水後のほ場で排水対策を行い、牧草収量への影響を検討する。	－

Ａ２－２　広域エリアを対象とした大規模水田営農における生産基盤技術の確立

試験課題名：広域エリアにおける水田輪作栽培管理技術の開発・実証　A2-2-1

予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：稲作科、浜地域研究所

概要：現地(南相馬市)及び所内(郡山市)の試験ほ場において、2023 年度に設定した生育指標値の精度検証、加えて追肥効果の検証を行った。ほ場によっては目標収量に達していなかったものの、生育量、収量構成要素等のパラメータ間の関係を解析した結果、生育指標値はおおむね合っていた。また、追肥の増収効果について、時期、施用量による違いを評価した。

試験課題名：営農再開に対応した大規模水田輪作体系の実証　A2-2-2

予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：畑作科

概要：所内試験では､浅層暗きょ＋畦立同時播種を実施したほ場の生育は慣行栽培に対して優り、排水対策技術の有効性が認められた。
現地試験では、籾殻補助暗きょ施工なしのほ場で生育、収量及び百粒重が優ったが、これは、このほ場の排水性が元々悪く、湿害の影響が大きかったためと考えられた。

試験課題名：広域エリアにおける ICT を用いた省力的圃場管理技術　A2-2-3

予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：作物保護科

概要：斑点米被害予測モデルの構築と、精度検証に向けた調査を行った。
クモヘリカメムシ誘殺数に影響する周辺環境要因の抽出を行った結果、半径 1km 内の針葉樹林面積が広くなるほど、また針葉樹林からの距離が近くなるほど誘殺数が多くなる傾向にあった。

試験課題名：飼料用トウモロコシの安定多収、加工・調製技術の開発と実証		A2-2-4
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：畜産研究所飼料環境科		
	概要	子実用トウモロコシ利用拡大に向け、子実用トウモロコシに飼料用米等を混合した肉用繁殖経営向け飼料を調製し、農家実証において産褥期に給与した結果、血液性状、分娩に問題はないことを確認した。飼料の内部温度が 25℃以上の状態が 2 週間続くと変色が起こり、乳酸菌数が減る傾向にあったが、発酵品質、真菌数に問題はなかった。

試験課題名：経営管理システムを活用した経営データ分析・活用手法		A2-2-5
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：経営・農作業科		
	概要	経営管理システムのデータの収集と、収集したデータを活用した小集団活動を実施し、作業の振り返りや今後の計画などについて意見交換することで、従業員全体で栽培管理及び経営管理の意識を高められることが示された。

Ａ２－３　先端技術を活用した施設野菜・畑作物の省力高収益栽培・出荷技術の確立

試験課題名：施設果菜類の雇用労力とロボットを作業主体とした大規模経営技術の開発・実証		A2-3-1
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域研究所、野菜科、経営・農作業科		
	概要	現地実証ほ(南相馬市)において、キュウリのつる下ろし栽培と摘心栽培での作業時間、収量・品質について比較した結果、つる下ろし栽培では 1 株当たりの収穫時間が短くなったが、草姿管理に係る時間は摘心栽培より多くなった。つる下ろし栽培は病気の蔓延を防ぐことができ、収穫期間が長くなったことから作業時間も増加した。総収量は摘心栽培より多かったが、果実が下成りになったため、秀品率は低くなった。 施設夏秋キュウリ栽培において、日射量制御型遮光とミストを併用すると収量を確保しつつ施設内環境を改善できることを明らかにした**【普及成果６】**。 経済性評価に関しては、小高園芸団地の慣行パイプハウスにおける夏秋キュウリの労働時間や収益・費用を算出した。労働時間は収穫、草姿管理の割合が高かった。

試験課題名：露地野菜栽培における難防除雑草優占化機構の解明と対策技術の確立		A2-3-3
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域農業再生研究センター、野菜科		
	概要	直播栽培における除草方法について検討し、いくつかの知見は得られたものの十分な抑草はできておらず、さらなる改良が必要であることが明らかになった。 相双地域のタマネギ春播き直播栽培では、4 月中旬播種よりも 4 月上旬播種でりん茎肥大期までの生育量を多く確保でき、一球重を多く確保できると考えられた。また、播種直後にシアナジン水和剤処理、タマネギ 2 葉期にペンディメタリン乳剤、5 月下旬以降にプロスルホカルブ乳剤処理を 2 回行い、イネ科雑草にはクレトジム乳剤処理で雑草発生量を抑えられた。しかし、夏生雑草を完全に抑制することはできなかった。 秋播き移植栽培におけるノボロギク防除では、春発芽個体に対する土壌処理剤であるシアナジン水和剤の 3 月処理が有効であった。

Ａ２－４　避難地域の営農再開を促進する先端プロ技術の社会実装

試験課題名：花きの計画的安定生産技術の実証	A2-4-1
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：花き科	
概要	【キク類】 優良品種 9 品種を供試し、電照反応性や高温開花性を調査した結果、7 品種が電照による開花抑制効果が高い品種であり、うち 1 品種は消灯後の高温で開花遅延しにくい品種と考えられた。また、蓄電池を用いて電照を行う際に懸念される停電の影響について、1～2 日の停電により開花が早まる傾向が見られたが、その程度には品種間差があった。 【トルコギキョウ】 夏出荷作型における簡易作型適応処理について、不織布とポリフィルムを組み合わせた方法に改善した結果、開花期は慣行苗とほぼ同等となり、無処理苗と比較して 7～10 日程度前進した。 秋出荷作型では、処理温度について 15℃と 20℃を検討した結果、無処理も含めて 15℃で上位規格品本数が増加する傾向が見られた。また、処理中の電照時間について検討した結果、短日条件は生育にほとんど影響を及ぼさなかった。

試験課題名：早期成園化が可能な樹形によるナシ、ブドウ、モモの省力・高品質生産技術の実証	A2-4-2
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：果樹研究所栽培科、病害虫科	
概要	モモのジョイント V 字トレリス樹形の成木期以降の側枝管理を目的として、 1 樹あたりの側枝本数を制限し、側枝を水平方向に拡大する側枝育成方法を検討した結果、処理後 1 年目には収量が減少したが、2 年目には収量が回復し、果実品質には差は見られなかった**【参考成果１２】**。 果樹研究所ハウス内にある盛土式根圏制御栽培のブドウ「シャインマスカット」において、2023～2024 年に葉焼けが 3 回発生したため、発生直前の環境条件等を確認した結果、ハウス内の温度だけでなく、盛土内の水分不足により発生する可能性が認められた**【参考成果１４】**。

試験課題名：肉用牛の AI 超音波肉質診断技術の実証	A2-4-3
予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：畜産研究所肉畜科	
概要	AI-MEAT による肉質の推定の結果、19 カ月齢以上の牛について推定 BMS.No8 以上と診断された場合、現状で 5 等級となる牛を 80%以上の精度で判別できることが確認された。また、胸囲の大きさが 231 cm以上かつ BMS.No8 以上と診断される場合、5 等級となる牛を 80%以上の精度で判別できることが確認された。

Ａ２－５　農業復興を実現する先端技術の実証

試験課題名：輸出対応型果樹生産技術の開発・実証	A2-5-1
予算区分：外部資金（福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進） 開始年度：2024　　終了年度：2029 担当科所：果樹研究所栽培科、病害虫科	
概要	ナシ「甘太」、「王秋」のジョイント V 字トレリス樹形では、安定した収量を確保するための側枝更新技術の開発が課題となっている。そこで、側枝基部に環状剥皮処理をした結果、側枝更新のための新梢を確保しやすくなり、果実品質にも影響しないことが確認された**【参考成果１３】**。

試験課題名：赤外センサーを用いた高品質ブドウ栽培のスマート化技術		A2-5-2
予算区分：外部資金（福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進） 開始年度：2024　　終了年度：2027 担当科所：果樹研究所栽培科、病害虫科、流通加工科		
	概要	今後開発予定の赤外センサーを用いて、盛土式根圏制御栽培による高級ブドウをブランド化するため、果実の品質評価により慣行露地栽培と比較した。その結果、根圏制御栽培における優位性は判然としなかったものの、施設の根圏制御栽培では、果実品質のばらつきが少なかった。

試験課題名：先端技術を活用した鳥獣被害対策システムの構築・実証		A2-5-3
予算区分：外部資金（福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進） 開始年度：2024　　終了年度：2029 担当科所：企画技術科、浜地域農業再生研究センター		
	概要	町職員及び有害鳥獣捕獲隊の捕獲用務時間を把握するとともに巡回 GIS マップを作成し、さらに通信型センサーカメラの映像から地区内の主な獣種を特定した。 センサーカメラ設置後のイノシシの出没は、給餌当日～翌日に増加し、その後減少する傾向が見られた。各わなの稼働日数当たりの捕獲数は、試験わなで 0.02、慣行わなで 0.01 であった。

試験課題名：化学肥料・化学農業に頼らない耕畜連携に資する技術の開発・実証		A2-5-4
予算区分：外部資金（福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進） 開始年度：2024　　終了年度：2029 担当科所：有機農業推進室、浜地域農業再生研究センター		
	概要	WCS 用水稲栽培において、除染後農地にて牛ふん堆肥と化成肥料を施用した上で、消化液を追肥施用した結果、化成肥料で基肥のみ施用した場合と比べて、収量性及び茎葉部への放射性セシウム移行には差が見られなかった**【営農再開技術情報１６】**。

試験課題名：果菜類収穫作業の軽労化につながる協働ロボットの開発及び新たな協調作業体系の構築に関する研究		A2-5-6
予算区分：外部資金（福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進） 開始年度：2024　　終了年度：2029 担当科所：作物園芸部野菜科		
	概要	ピーマンの自動収穫に適する栽培方法の確立を目指し､仕立法の改良を図ることを目的に、令和 6 年度は既存仕立法の生産性を評価した。

B　農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進

Ｂ１　先端技術を活用した新たな農業生産技術の開発

Ｂ１－２　スマート農業技術を活用した農業生産技術の確立

試験課題名：花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート農業技術の開発		B1-2-3
予算区分：外部資金（戦略的スマート農業技術等の開発・改良） 開始年度：2022　　終了年度：2024 担当科所：果樹研究所栽培科		
	概要	リンゴの花粉採取専用品種を調査した結果、花粉採取量は「スノードリフト」が最も多く、純花粉量は「センチネル」、「メイポール」の順で多かった。純花粉採取に要する作業時間は 3 品種で大きな差はなく、花粉発芽率は「スノードリフト」、「センチネル」でやや高い傾向が見られた**【参考成果１６】**。

試験課題名：中山間地における農地・農業用施設に関するデジタル管理技術の実証		B1-2-4
	予算区分：繰入金（中山間ふるさと水と土保全基金） 開始年度：2024　　終了年度：2025 担当科所：経営・農作業科	
	概要	農業用施設位置情報を作成する地図アプリとして、利用料が無料であり、農業用施設の入力可能数にほぼ不足ないグーグルマイマップを選定した。 農業用施設の位置がわかる資料は、ため池と会津農林事務所管内の地すべり防止施設、海岸施設、また排水機場と営農飲雑用水施設の一部について確認できた。

Ｂ１－３　先端技術を活用した省力的栽培技術の確立

試験課題名：ブロッコリー選別自動収穫機の機械化栽培体系の確立		B1-3-5
	予算区分：外部資金（戦略的スマート農業技術等の開発・改良） 開始年度：2022　　終了年度：2024 担当科所：経営・農作業科、野菜科、浜地域研究所	
	概要	「アーリーキャノン」等3品種を収穫機に適した品種として選定した**【参考成果３２】**。また、セル成型苗の深植えが株傾きを軽減し、収穫機での識別株割合を高めた。 R6試作機での収穫精度は50%、ほ場作業量は4.80a/hで、目標値未達であった。試算した同機の作業負担面積は18.9haであった**【参考成果２】**。
試験課題名：ICT・IoT技術を活用した花きの新たな農業生産技術の確立		B1-3-7
	予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2024 担当科所：会津地域研究所	
	概要	新規生産者及び熟練生産者ほ場にICT機器を設置し、データ共有による新規生産者の管理技術向上を検証した結果、熟練生産者から新規生産者への助言や新規生産者自らの栽培改善に活用できると考えられた。
試験課題名：大規模酪農経営における飼養管理技術の確立		B1-3-8
	予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：畜産研究所酪農科	
	概要	つなぎ牛舎でのパイプラインから、フリーストールでの搾乳ロボットへの移行に伴う変化を調査し、今後県内生産者が搾乳ロボットの導入を検討するに当たり参考となるデータを集積、分析した。 全体の48%の牛が馴致に6日以上要した。搾乳回数の増加に伴い乳量が約1.4倍増加した。環境性及び伝染性乳房炎の発生件数は減少し、出荷乳の体細胞数は安定して低く推移した。搾乳に関わる作業時間は移動前と比較して82%減少した。

C　県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進

C１　市場ニーズに対応したオリジナル品種・系統と生産技術等の開発

C１－１　個性豊かな県オリジナル水稲、野菜・花き品種の育成

試験課題名：個性豊かな県オリジナル水稲品種の育成	C1-1-1
予算区分：寄附金（JA グループ福島寄附金）、一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：品種開発科、浜地域研究所	
概要	出穂期が「あきたこまち」～「日本晴」並の高温登熟性の優れる良質・極良食味品種、低温出芽性と伸長性があり耐倒伏性の優れる直播向け品種、高度精白可能な酒造好適米品種の育成を目標とし、169 組合せの交配を行い、168 組合せから稔実種子を得た。 県育成系統の湛水直播適性(低温出芽性、低温伸長性)を検定した結果、発芽率“優”と判定した系統は 3 系統であった。 【郡系番号の付与】 系統選抜により、一般粳米 31 系統(郡系 1481～1511)、糯米 2 系統(郡系糯 1512,1513)、酒米 6 系統(郡系酒 1514～1519)、飼料用米 3 系統(郡系飼 1520～1522)の計 42 系統に新規で郡系番号を付与した。 【福島番号の付与】 郡系から有望な系統を選抜し、一般粳米 2 系統に福島番号を付与し、次年度の生産力検定本調査、奨励品種決定基本調査に供試することとした。 【生産力検定調査】 福島番号を付与した系統について総合的な評価を行った結果、「福島 68 号」、「福島 69 号」は、比較品種よりもかなりの多収だった。「福島 65 号」、「福島 69 号」は、高温登熟性に優れ、品質が特に優れていた。「福島 64 号」、「福島 65 号」、「福島 66 号」、「福島 77 号」は、食味が優れていた。「福島酒 82 号」は、栽培特性に優れ、心白の大きさや形状が小さく、高度精白試験の砕米率も低く、精米特性も優れ特に有望であった。福島系統のうち「福島 64 号」、「福島酒 67 号」、「福島 70 号」、「福島 72 号」は特性を把握したため、試験終了とした。 福島番号系統及び郡系系統の一部、計 29 系統について高温登熟性検定を実施した結果、「強」と「やや強」と判定した系統は 15 系統であった。特に、「福島 65 号」と「福島 66 号」は、高温登熟性と食味、「福島 68 号」と「福島 69 号」は、収量性と高温登熟性に優れていたため有望とした。 【特性検定試験（耐冷性、葉いもち、穂いもち、真性抵抗性）】 耐冷性が「かなり強」以上と判定された系統は 21 系統、葉いもちが「強」以上と判定された系統は 53 系統、穂いもちが「強」以上と判定された系統は 53 系統だった。真性抵抗性は、104 系統についていもち病に対する真性抵抗性遺伝子型を明らかにした。

試験課題名：個性豊かな県オリジナル野菜の品種開発 C1-1-2

予算区分：寄附金（JA グループ福島寄附金）、国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）
一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：品種開発科

概要

【イチゴ】
収量性、果実品質、病害抵抗性に優れた交配母本を選定し、48 組合せで交配を行った。個体選抜では、28 組合せ 1,980 個体を供試し、12 組合せ 36 個体を選抜した。系統選抜では 45 系統を供試し、5 系統を選抜し、「郡系 109」、「郡系 110」、「郡系 111」、「郡系 112」、「郡系 113」を付与した。また、「福島 ST14 号」について特性検定を実施し、摘花の効果について明らかにした**【R5 秋冬作参考成果５】**。

【アスパラガス】
品質及び収量性が優れる全雄系統、又は混性品種を育成するため、17 組合せの交配を行った。組合せ検定 1 年目に、17 系統を供試した。組合せ検定 2 年目では、供試 16 系統の中で、平均茎重が重く、収量に優れた全雄系統 1 系統に「郡交 25」を付与した。生産力検定(2 年目)に、「郡交 21」、「郡交 22」、「福島交 11 号」を供試し、収量性に優れ、規格内品率も高い「郡交 22」に「福島交 12 号」を付与した。また、「福島交 11 号」の現地試験(4 年生株)において、収量調査(南会津町のみ実施)の結果、「福島交 11 号」は、「ウェルカム」、「ハルキタル」より多い傾向にあった。生育は両地域ともに 2 品種より優れていた。特定検定試験の結果、「郡交 22」の立枯病抵抗性は中であった。

試験課題名：個性豊かな県オリジナル花き品種の育成 C1-1-3

予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：品種開発科

概要

【リンドウ】
頂花咲き性が優れ需要期に採花できる青紫系品種、変わった花色や花序等の特長を持つ新規性の高い品種を育成するため、自殖 31 系統、組合せ能力検定 62 組合せの交配を行った。
組合せ能力検定(3 年目)では、育種素材として 10 系統を選抜した。培養適性検定では、交配親系統「S1914-3」を適性有と評価した。
濃桃色の花色を持つ「福島栄 24 号」の地域適応性を調査するため、県内 3 か所のリンドウ産地で現地試験を実施し、南会津地方や県北地方山間部での開花期特性(定植 3 年目)の生育は、10 月上中旬に収穫が可能で、「天の川」よりも草丈の伸びは良く、市場や農業者の評価もおおむね良好であったことから、本系統を品種化する方向とした**【普及成果４】**。

【カラー】
個体選抜(育苗・養成期検定)では自殖交配 21 系統、組合せ交配 43 組合せを供試し、開花見込み球根数(30g 以上)の割合が大きかったのは、自殖交配 2 系統、組合せ交配で 5 系統であった。

試験課題名：個性豊かな品種育成のための促進技術開発		C1-1-4
予算区分：外部資金（イノベーション創出強化研究推進事業）、国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）、一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：品種開発科		
	概要	【イネ】 DNA マーカーを用いて福島系統 1 系統、単独系統 127 系統の多型解析を行い、葉いもち抵抗性、穂いもち抵抗性、耐冷性、高温登熟性及びカドミウム低吸収性遺伝子の有無を明らかにした。 ゲノム解析により新たに推定された高温登熟性に関与する遺伝子領域の多型を調べ、遺伝子を特定した「里山のつぶ」と「福島 47 号」の交配後代 F4 個体について、高温登熟性の表現型の確認を行った結果、2 遺伝子が高温登熟性に関与していると示唆された。 岩手県及び宮城県において遺伝子集積による超多収良食味品種の育成を目的として、複数の組合せで遺伝子が集積された系統の生産力検定を行った結果、供試系統全てで目標とする 800kg/10a の収量には達しなかったが、1 系統が「ひとめぼれ」を 5%程度上回る多収となった。 【リンドウ】 白色 3 系統 6 個体の未授精胚珠培養により、各個体から胚様体が得られた。 【アスパラガス】 両性花由来実生 5 個体のうち、1 個体が超雄であった。葯培養では、置床方法に関わらず、カルス形成効率が 0%～5%と非常に低かった。また、カルスから茎が形成されなかったため、超雄株は得られなかった。

試験課題名：バイテク活用による優良原種苗の長期保存・増殖技術開発		C1-1-5
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：品種開発科		
	概要	リンドウ 2 系統の培養苗の生育に及ぼす影響について、植物成長調整剤の種類と濃度を組合せて検討し、越冬芽形成や花蕾形成の抑制に有効となる植物成長調整剤と濃度を明らかにした。また、培養苗の長期保存方法を確立するため、越冬芽の得られた 2 系統について植物成長調整剤の種類と濃度及び温度条件を組合せて、3～4.5 か月保存における生育について明らかにした。 オタネニンジン品種「かいしゅうさん」5 年生株のうち、茎数が 1 茎と 2 茎と異なる個体から展開葉を採取し、組織培養による植物体再生の可能性を検討した結果、茎数に関わらずカルス形成率は 60%程度であった。不定胚形成は 2 茎でのみ確認されたが、形成効率は非常に低かった。

Ｃ１－２　作物、野菜、花きの有望品種・系統の評価

試験課題名：奨励品種決定調査		C1-2-1
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：稲作科、畑作科、会津地域研究所、浜地域研究所		
	概要	水稲では、予備調査で「福島 68 号」(本部、会津研、浜研 3 所共通)、「山形 158 号」(会津研)をやや有望、本調査で「福島 65 号」(3 所共通)をやや有望、「福島 66 号」(3 所共通)を試験終了、「福島 69 号」をやや有望(本部、会津研)、再検討(浜研)とした。 コムギでは、予備調査で「東北 240 号」を試験終了とした。 オオムギでは、予備調査で「北陸二条 70 号」、「北陸皮 79 号」を再検討とし、「北陸皮 78 号」を試験終了とした。 ダイズでは、予備調査で「北陸 6 号」を有望、「関東 156 号」をやや有望、「東北 197 号」、「関東 155 号」、「そらみずき」を再検討、「東北 194 号」を試験終了とした。

試験課題名：麦類育成系統の地域適応性試験		C1-2-3
予算区分：外部資金（国産麦の研究開発支援事業） 開始年度：2021　　終了年度：2024 担当科所：畑作科		
	概要	育成地より配付されたコムギ 23、オオムギ 21 系統のうち、オオムギ 2 系統を有望とした。

Ｃ１－３　作物、野菜、花きの有望系統・新品種の栽培技術の確立

試験課題名：県産米の高品質化・良食味米生産のための栽培管理技術の確立		C1-3-1
予算区分：外部資金（新稲作研究会委託試験、稲民間育成品種評価委託試験）、寄附金（JA グループ福島寄附金） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：稲作科、会津地域研究所、浜地域研究所、浜地域研究所		
	概要	会津地域研究所、浜地域研究所において民間育成系統 5 系統を供試し、2 系統を基準品種より優る、2 系統を基準品種並、1 系統を基準品種より劣ると評価した。 水稲米粉用品種(パン用「ゆめふわり」、「笑みたわわ」、麺用「あみちゃんまい」、「越のかおり」)の生育、収量及び製粉特性は、前年と同様の傾向であった。 「天のつぶ」、「福笑い」のザルビオフィールドマネージャーによる生育ステージ予測について、幼穂形成始期、出穂期、成熟期では実測値と予測値がおおむね一致していた。「福笑い」の同システムによる生育診断については、生育量や収量、玄米タンパク質含有率などは、NDVI 値から推定可能であった。

試験課題名：県オリジナル酒造好適米の栽培方法の確立		C1-3-2
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：品種開発科、会津地域研究所		
	概要	酒造好適米有望系統「福島酒 67 号」、「福島酒 81 号」は、「福乃香」よりも収量が多く、整粒歩合が高い傾向であった。 酒造好適米は、高温になると消化性、千粒重、整粒歩合が低下する一方、50%精米時の砕米率が上昇する傾向が見られた。「福乃香」は、「五百万石」に比べ、どの温度帯においても消化性(Brix)が高く、高温でも高い消化性が確保できると考えられた**【R5 秋冬作参考成果４】**。

試験課題名：野菜の有望系統・新品種の栽培技術の確立		C1-3-3
予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：野菜科		
	概要	イチゴ「福島　ST14 号」について、育苗時の窒素施用量に関する試験を実施した結果、窒素施用量は 180 mg/株あれば十分な生育が確保できることを明らかにした**【R5 秋冬作参考成果７】**。また、土耕栽培における本ぽ基肥窒素施肥量に関する試験を実施した結果、13kg/10a 程度が適していることを明らかにした**【R5 秋冬作参考成果８】**。

試験課題名：花きの有望系統・新品種の栽培技術の確立	C1-3-4
予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：品種開発科、花き科、会津地域研究所、浜地域研究所	
概要	【リンドウ】 「天の川」の草丈の伸長を目的として、追肥時期や施肥量について検討した結果、4 月追肥多肥で切り花長が長く、80 ㎝出荷規格別割合が多かった。 「天の川」の挿し芽増殖における越冬芽形成技術の確立については、挿し芽部位、挿し方、鉢上げ方法等で検討したが、効果は判然としなかった。 【カラー】 県育成 3 品種(「はにかみ」「キビタンイエロー」「ミルキームーン」)については、定植時の球根重が 30g 以上あれば、おおむね開花が期待できると考えられた。また、小球の養成に適する定植期を検討した結果、7 月定植で球根の肥大が良好で軟腐病も少なかった。 培養苗の養成については、セル苗の直接定植がポット仮植苗の定植と比較して球根肥大が優れる傾向が見られた。また、培養苗を試験管内で低温処理した苗は、慣行苗と比較して球根の肥大が優れる傾向にあった。 培養苗を用いた球根養成については、現地においてプラグ苗直接定植と鉢上げ苗定植を比較したが、その差は判然としなかった。いずれも地上部を消失する株が発生し、球根の肥大は不良であった。また、30g 以下の球根を植え付けて球根の肥大を調査した結果、植付球根重が 5～10g 以上で目標とされる 30g 以上の球根重が得られる傾向が見られた(会津)。 低温処理した組織培養苗をプラスチック鉢と素焼き鉢で栽培し、慣行苗と比較したが、全てにおいて開花見込み球根はほとんど確保できなかった。また、球根重は低温処理ありのプラスチック鉢で大きくなった。 浜通りにおける切花生産を目的とした抑制栽培では、県育成 3 品種は次年度に再利用できる球根が得られることを明らかとした。

Ｃ１－４　個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成

試験課題名：個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成	C1-4-1
予算区分：寄附金（JA グループ福島寄附金）、国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)） 一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：果樹研究所栽培科、流通加工科	
概要	スモモ「メスレー」とモモ台木「筑波 9 号」の 種間雑種により育成したモモ台「2－2」について休眠枝挿し試験を実施した結果、発根率は 100%で根量が多く、 接ぎ木親和性も高いことが明らかになった。このモモ台「2－2」の活用により、実生繁殖では通常 2 年を要するモモ苗木の作成を、 1 年に短縮できることを明らかにした**【参考成果２０】**。 「モモ福島 18 号」、「モモ福島 19 号」について育成品種(系統)検討会を実施した。評価は果実外観、品質ともに高かった。 「ナシ福島 7 号」の果実を、JA の「幸水」出荷基準を用いて等級を判定した結果、短果枝の果実で正品・搬入可能限界に区別された果実の割合が高く、完全種子の割合も高いことから、短果枝を利用することで果形の良い果実を生産することができると考えられた**【参考成果２１】**。 リンゴ新品種の試食検討会の結果、「リンゴ福島 7 号」は「シナノスイート」と比較して、食べた時の香り、甘味、酸味及び総合的な食味はプラス、着色、果汁及び普及性はマイナス評価、「リンゴ福島 8 号」は「芳明つがる」と比較して、着色、外観の好み及び甘味はプラス、食べたときの香り、果汁及び甘酸バランスはマイナス評価だった。その結果、2 系統とも試作継続となった。 皮ごと食べやすい黒系ブドウの育種のため、県内の主要品種及び有望な交雑親 4 品種を選定し、パネラーによる官能評価、物性及び可溶性タンニン含有量を調査した。その結果、ブドウ果粒の物性値と、渋みの要因となる可溶性タンニン含有量を活用し、皮ごと食べやすいかを評価できることを明らかにした**【普及成果３】**。

Ｃ１－５　果樹の有望系統の評価および新品種・有望系統の栽培技術の確立

試験課題名：果樹系統適応性検定試験　C1-5-1

予算区分：外部資金（系統適応性・特性検定試験）、一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所栽培科

概要：非公開

試験課題名：県オリジナル果樹品種の安定生産・流通技術の確立　C1-5-2

予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）、一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所栽培科

概要：

モモ「はつひめ」の人工受粉の有無による結実、着果状況を調査した結果、 摘蕾と人工受粉を実施することで、大果生産が可能になることが明らかとなった。一方、人工受粉を行わないと、変形で小さな果実が多く着果し、また、 受粉なしの場合は受粉したときに比べて、果実肥大も劣った**【参考成果１９】**。

温暖化条件で経過した 2023 年及び 2024 年のリンゴ「べにこはく」の収穫適期を検討した結果、収穫の目安である糖酸比が 28 以上となり、十分な着色、蜜入りが得られるのは 11 月中旬以降であったことから、この頃から収穫が可能と判断された**【参考成果１７】**。

2023 年産「べにこはく」について、11 月下旬～12 月上旬にかけて収穫を行い、2℃で冷蔵貯蔵した結果、 収穫 4 か月後まで果肉硬度や蜜入りなどの品質が維持され、貯蔵可能であることを確認した**【参考成果１８】**。

Ｃ１－６　個性豊かな県優良家畜等の改良

試験課題名：牧草・飼料作物の優良草種・品種の選定　C1-6-1

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：畜産研究所飼料環境科

概要：

極長期利用型のイタリアンライグラス(イタリアンライグラス型フェストロリウム含む)品種を選定した結果、「アキアオバ 3」と「なつひかり(那系 37 号)」が比較品種である奨励品種より越夏性及び収量性に優れていたため、奨励品種候補として選定した**【普及成果１５】【普及成果１６】**。

試験課題名：「フクシマ L2」の開放型育種　C1-6-2

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：畜産研究所肉畜科

概要：

「フクシマ L2」種豚群に新 L2 後継豚 3 頭を組み入れることで、平均近交係数が 11.3%、平均血縁係数が 30.8%に低下した。「フクシマ L2」の長期的維持及び能力向上を図るため、家畜改良センター茨城牧場から精液を導入し、人工授精を 4 頭実施した結果 3 頭受胎した。

試験課題名：県ブランド鶏の改良と開発　C1-6-3

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：畜産研究所養鶏科

概要：

「会津地鶏」と「川俣シャモ」の雌系種鶏である「ロードアイランドレッド種 P13」系統、雄系種鶏である「大型会津地鶏」と「大型しゃも」の推定育種価は向上し、遺伝的改良は進んでいた。「会津地鶏」肉の焼調理品において呈味成分、機能性成分含量を数値化し、生産者へ情報提供した。

試験課題名：胚移植技術を活用した高能力肉用牛の効率的生産技術の確立	C1-6-4
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：畜産研究所動物工学科	
概要	2023 より休止

試験課題名：ゲノム情報を活用した家畜の育種改良技術の確立	C1-6-5
予算区分：国庫（福島牛改良基盤再生事業）、一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：畜産研究所動物工学科	
概要	県有種雄牛 12 頭(枝肉重量の推定育種価正確度 0.95 以上)の推定育種価(2023 年 9 月)と(独)家畜改良センターとの共同研究で得られたゲノム育種価(2024 年 5 月)との間においては、バラの厚さ及び脂肪交雑の項目で中程度の相関があり、ほか 4 形質(枝肉重量、ロース芯、皮下脂肪厚、歩留基準値)で高い相関が見られた。 脂肪酸(オレイン酸、MUFA)の推定育種価を持つ県有種雄牛 15 頭(枝肉重量の推定育種価正確度 0.65～0.93 以上)の推定育種価(2024 年 12 月)と、(独)家畜改良センターの共同研究で得られたゲノム育種価(2024 年 2 月)との間において、オレイン酸、MUFA で中程度の相関があった。また、県ゲノム育種価(2024 年 11 月)と(独)家畜改良センターとのゲノム育種価の相関は、やや高い傾向にあった。 2023 年に整備した福島県独自訓練群(2024 年 11 月現在 5,963 頭)により、県内繁殖雌牛 1,592 頭についてゲノミック評価し、遺伝的趨勢を確認した。県内繁殖雌牛のゲノム育種価は、基準となる肥育牛群より高かった。

Ｃ２　農産物を「ふくしま」ならではの産品にする技術の開発

Ｃ２－１　県産農産物の特性を活かした利用技術の開発

試験課題名：県産農産物の加工技術の開発	C2-1-1
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：流通加工科	
概要	圧ぺん大豆（打豆）を使用し、脱皮せずにテンペ製造が可能か、食味を考慮して調査した結果、皮が含まれていても食味の低下がなく、柔らかな食感のテンペ製造が可能であることを明らかにした**【参考成果４】**。 あんぽ柿の白粉の発生に対する原料果収穫時の押し傷、包装資材及び冷凍保存の影響を調査した結果、押し傷を除外するためにはく皮を厚くすると完成品の外観が劣り、包装資材を真空包装にするとあんぽ柿の商品価値がなくなることを明らかにした。また、専用資材で包装したあんぽ柿は、はく皮の厚さにかかわらず、解凍後 20℃で保管することで白粉の発生を防ぎ、解凍 1 か月後でも商品としての外観が維持できることを明らかにした。

試験課題名：県産農産物の品質保持技術の開発	C2-1-2
予算区分：一般財源、国庫（福島ならでは農林水産物ブランド力強化事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：流通加工科	
概要	「ゆうやけベリー」の成熟過程における果皮色と果実品質を調査した結果、着色が進むほど果皮色 G 値が低くなり、G 値と果皮硬度に相関が見られた。「とちおとめ」と同一基準の果皮色で比較した結果、「ゆうやけベリー」は糖度、酸度、糖酸比が高く、開花から収穫までの日平均積算温度が低かった**【R5 秋冬作普及成果１】**。 リンゴのプラスチック包装削減のため、紙資材や石油由来の原料を削減した資材について果実損傷に及ぼす影響を調査した結果、損傷発生果は発生しなかった。石油由来の原料を削減した資材を使用する場合、費用は高くなるが、CO_2排出量は慣行資材の 6 割程度に抑えられることが明らかとなった。 会津産アスパラガスの販売力強化及び認知度向上に向けて、出荷の実態把握に取り組むとともに、市場に流通しているアスパラガスの品質を測定し比較した結果、評価指標となり得る有効な測定データが得られた。

試験課題名：本県農産物の機能性成分の評価と利用技術の開発		C2-1-3
	予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：流通加工科	
	概要	ブロッコリーに含まれるスルフォラファングルコシノレートの含有量と局在、及びルテインの含有量について調査した結果、βカロテン及びルテインは、フローレット(花雷)に多く含まれていた。スルフォラファングルコシノレートの局在は、フローレットに多く見られ、定量結果と一致していた**【R５秋冬作参考成果２】**。 ブロッコリーに含まれるアミノ酸含有量の加熱調理による変化を調査した結果、アミノ酸含有量の加熱による変化は、“生”と比較して“蒸し”の全部位、“レンジ”のフローレット、主茎外側では少なかった。ビタミンＣ含有量の一次加工による変化を調査した結果、ペースト、粉末、チップスの順に多くなる傾向が見られた**【R５秋冬作参考成果３】**。 また、ブロッコリーの加熱調理別のルテイン含有量及び一次加工後のアミノ酸含有量の変化を調査した。

Ｃ２－２　県産農産物の輸出拡大に向けた生産・保鮮技術等の開発

試験課題名：モモせん孔細菌病に対する多目的防災網を活用した防除効果の検証		C2-2-1
	予算区分：国庫（園芸グローバル産地育成強化事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：果樹研究所病害虫科	
	概要	発芽期からの多目的防災網の設置は、モモせん孔細菌病の防除効果が高く、果実品質への影響は認められなかった。また、害虫の発生について多目的防災網を設置した場合、未設置との明確な違いは認められなかったが、雨よけ栽培においてはハダニ類の発生が多く認められた。
試験課題名：シュッコンカスミソウの輸出に向けた鮮度保持技術の開発		C2-2-3
	予算区分：繰入金（園芸グローバル産地育成強化事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：会津地域研究所	
	概要	シュッコンカスミソウの乾式輸送において、梱包前に品質保持剤と前処理剤を添加した 48 時間 25℃催花処理の日持ちが長かった。品質保持剤は慣行で使用されているが、前処理剤の追加コスト(資材費)は、切り花１本当たり 0.1 円と低額であった。
試験課題名：ナシ黒星病に対する秋期及び果実肥大後期の新防除体系の検証		C2-2-4
	予算区分：国庫（園芸グローバル産地育成強化事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：果樹研究所病害虫科	
	概要	ナシのりん片生組織露出芽率は、10 月中旬頃から高くなり、10 月下旬にピークとなった。また落葉率は、「幸水」で 11 月上旬、「豊水」で 11 月中旬までに 8 割以上となった。 果実肥大後期の新規防除体系は、菌密度が低い条件において慣行防除と同等の防除効果が認められた。

試験課題名：花き類の保鮮流通技術の開発		C2-2-6
	予算区分：繰入金（園芸グローバル産地育成強化事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：作物園芸部	
	概要	【ダリア】 　切り花の日持ち性が向上した品種「エターニティルージュ」、「エターニティロマンス」で切り前の違いによる日持ち性を調査した結果、通常の切り前と比較して蕾切りで日持ちは延長するが、開花に従い花色が薄くなる傾向を確認した。 【リンドウ】 　県育生品種「天の川」の輸出に適した切り前と前処理剤について調査した結果、STS 剤のみ、又は STS 剤と糖が含まれている前処理剤では日持ち期間は同程度であるが、STS 剤と糖の前処理剤で経費が高かった。 【トルコギキョウ】 　無花粉品種「PF ダブルスノー」について輸出を想定し、前処理剤の必要性について調査した結果、前処理剤の使用により日持ち期間が約 3 日間延長した。

Ｃ２－３　「福島牛」ブランド競争力強化技術の確立

試験課題名：「福島牛」の高付加価値生産システムの確立		C2-3-1
	予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究）、福島牛改良基盤再生事業、 　　うまい！「福島県産牛」生産・販売力強化対策事業）、一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：畜産研究所肉畜科	
	概要	牛肉のサシ形状を比較する嗜好型官能評価を実施した。同一個体の牛肉における小ザシ区と粗ザシ区の比較では、粗ザシ区で「ジューシー」、「口どけの良さ」の項目が有意に高かった。また、異個体間の牛肉における小ザシ区と粗ザシ区の比較では、粗ザシ区で「やわらかい」「ジューシー」、「口どけの良さ」、「脂がくどい」、「甘い風味」の項目が有意に高かった**【普及成果１４】**。 　ゲノム育種価と「おいしさ」の指標を活用した種雄牛造成に向け、「麓山白清」「姫芝桜」「隆之白清」の SCD 遺伝子、ゲノム育種価、推定育種価、産子枝肉成績の調査を行った。「麓山白清」のゲノム育種価は、皮下脂肪の厚さと歩留基準値を除く 4 項目で県平均より高く、SCD 遺伝子は不飽和脂肪酸合成能力の高い AA 型であった。「姫芝桜」のゲノム育種価は、枝肉 6 形質全ての項目で県平均より高かった。「隆之白清」のゲノム育種価は、枝肉重量、ばらの厚さ、BMSNo.の 3 項目で県平均より高く、SCD 遺伝子は不飽和脂肪酸合成能力の高い AA 型であった。 　酒粕給与牛と通常肥育牛において、食感及び単糖類の分析を行った。食感の分析(剪断力価)では、酒粕給与牛でやや低い傾向が見られた。牛肉中単糖類含量は、酒粕給与牛で平均値が低かった。 　県内肥育牛の枝肉画像解析値(脂肪面積割合、新細かさ指数、あらさ指数)及び脂肪酸組成(オレイン酸、MUFA)についてのゲノム育種価推定は、可能であった。また、推定育種価とゲノム育種価との相関は、枝肉画像解析値において中程度(0.4～0.6)であった。

Ｃ２－４　「ふくしま」ならではの地域特産物を活かした栽培・流通技術の確立

試験課題名：オタネニンジンの産地づくり支援に関する研究　C2-4-4

予算区分：国庫（地域特産活用産地づくり支援事業）
開始年度：2022　　終了年度：2025
担当科所：会津地域研究所、品種開発科

概要

オタネニンジンのコンテナ栽培において栽植密度や様式を変えて栽培した結果、地下部の生育は１年生苗ではコンテナ当たり点播で250粒播種が他より良好であった。一方で、高温や乾燥の影響により地下部の生育は不良であった。

種子の催芽と催芽床の水分率の関係を調査した結果、水分率40%で種子の成熟速度が速く、腐敗種子も少なかった。また、ジベレリン処理で腐敗種子の発生は増えたが、早期に催芽が完了する傾向が見られた。

オタネニンジン組織培養において、エチレン生合成阻害剤を添加した培地を用いることで、不定胚形成率を向上させる可能性が示唆された。

オタネニンジン培養苗10株を外部環境で養成した結果、2022年に定植した3個体において花芽を形成し、うち1個体から種子を2粒採種することができた。得られた種子は、催芽処理により芽切りされることも確認した。

試験課題名：エゴマ安定生産体系の確立　C2-4-5

予算区分：国庫（地域特産活用産地づくり支援事業）
開始年度：2022　　終了年度：2025
担当科所：畑作科、経営・農作業科

概要

【早生系統の生育特性】

成熟期は「田村在来(黒種)」に比べて「韓国極早生」が13～21日、「COL/SAITAMA/1988/88047」が7～15日、「五戸在来」が±0日、「下郷町在来」が7～20日早かった。成熟期から、「韓国極早生」と「下郷在来」が早く、収穫時期の分化につながると考えられた。

【播種・収穫適期】

早生系統の4月播種区でエゴマの形態が異常となり、全ての品種で収量が低下したため4月の播種は適さないと考えられた。

【栽植密度】

雑草の乾物重と開花期頃の総節数は、株間15 cm<株間30 cm<株間60 cmの順となり、株間が広がるほど雑草の発生量は多く、エゴマの総節数も多くなった。子実重や千粒重に差は見られなかった。

【追肥時期】

基肥50%+8月中旬頃の追肥50%で分枝数、総節数及び花穂数が最も多くなった。基肥で全量施用するより追肥で全量施用した方が増収した。追肥時期については、8月中旬頃の追肥により分枝数が増加し、また、8月下旬頃の追肥は花穂長が長くなり、1花穂あたりの小花数が増加し、増収したと考えられた。

県内2市村のエゴマ小規模経営体の調査の結果、それぞれの地域における生産や販売の特徴及び10a当たりの年間労働時間、収益を明らかにした。また、労働生産性は1,266円/時間であった。

Ｄ　地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進

Ｄ１　気候変動に対応し農業生産の安定化に寄与する技術の開発

Ｄ１－１　気候変動に対応した生産技術の開発

試験課題名：夏季高温条件下における良質・良食味米生産技術の確立　D1-1-1

予算区分：寄附金（JAグループ福島寄附金）
開始年度：2021　　終了年度：2026
担当科所：稲作科

概要

本年の気象条件下において「コシヒカリ」は出穂期追肥により白未熟粒は減少したが、玄米タンパク質含有率が高くなった。

また、5月上旬、中旬移植では8月上旬に出穂し、出穂後20日間の平均気温は26℃以上であったが、6月中旬移植では、安全出穂期内の8月21日に出穂し、出穂後20日間の平均気温は26℃以下となった。5月移植と比べて整粒歩合や収量に差がなかったが、籾数が多く、登熟歩合の低下、玄米タンパク質含有率及び白未熟粒が増加した。

試験課題名：主要野菜の安定生産技術の確立 D1-1-2

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：野菜科

概要

　トマト夏秋栽培において、簡易換気扇がハウス内気温、収量に及ぼす影響を調査したが、気温上昇抑制効果、増収効果は見られなかった。
　アスパラガス「ふくきたる」3 年生株において、7 月中下旬に追加立茎を行うことで、それ以降の夏どり収量は減少するが、翌年の春芽の収量が 60kg/a 以上増加することを明らかにした。また、「ふくきたる」3 年生株において、11 月中旬に早期保温すると収穫開始日は前進するが、規格内収量が減少することを明らかにした。
　タマネギ直播栽培において、土壌水分が十分な状況ではプライミング処理により 1～2 日程度出芽が早まることを明らかにした。

試験課題名：温暖化傾向に対応した花きの安定生産技術の確立 D1-1-3

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：花き科

概要

　リンドウの露地栽培において、高温障害である花弁の着色不良の発生を抑制する対策として、2023 年度はほ場を広く遮光することで効果が得られることを確認したが、2024 年度はより簡易な方法として、畦ごとに支柱を活用して遮光幕を設置することで着色不良花の発生が軽減することを明らかにした**【参考成果１１】**。

試験課題名：主要農作物生育作柄解析調査研究 D1-1-4

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：稲作科、畑作科、会津地域研究所、浜地域研究所

概要

　水稲については、6～9 月の高温により、平年に比べて幼穂形成始期、出穂期が早まる傾向が見られ、成熟期は各方部で 4～12 日早まった。玄米重(篩目 1.7㎜ 以上)は、平年対比で本部が 92～94(穂数、1 穂籾数、㎡籾数の減)、会津地域研究所が 86～92(㎡籾数、登熟歩合の減)、浜地域研究所が 94～101(1 穂籾数、㎡籾数の減)であった。品質は、平年に比べて整粒が少なく、粒厚は本部と浜地域研究所で厚く、会津地域研究所では薄かった。
　2024 年に会津地方の広範囲で発生した水稲倒伏について、要因を解析し、成果として報告した**【参考成果５】**。
　ダイズについては、本部では高温により開花までの日数及び結実日数が少なかった。収量は「タチナガハ」「あやこがね」で平年を上回ったが、「里のほほえみ」で平年を下回った。開花期～成熟期の高温、寡照により全品種とも百粒重は軽く、小粒傾向だった。会津地域研究所では、高温により生育は旺盛で、開花期は早まった。9 月以降の高温・多雨により不稔莢数が非常に多くなり、登熟が進まず、成熟期は平年より 18～24 日遅く、収量は平年比 27～47%と低かった。浜地域研究所では、高温、多照により生育は旺盛で、開花期は平年より早まった。開花期以降も高温で経過したため、登熟は緩慢となり、結実日数は平年より多かった。稔実莢数が多く、収量は平年を上回った。
　麦類については、各方部とも全生育期間中高温で経過したため生育は旺盛だった。出穂期及び成熟期は、本部では平年並、会津及び浜地域研究所では平年より早まった。有効穂数は各方部とも平年を上回り、本部及び浜地域研究所の収量は平年を上回ったが、会津地域研究所ではm^2稔実粒数が少なく、収量は平年を下回った。

試験課題名：温暖化に対応した果樹の生育予測技術及び生育障害対策技術の確立	D1-1-5
予算区分：外部資金（戦略的スマート農業技術等の開発・改良）、一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：果樹研究所栽培科、会津地域研究所	
概要	ナシ「甘太」の収穫適期を調査した結果、無袋栽培ではていあ部の地色指数 2～3 での収穫が望ましく、収穫適期は満開後 165～175 日頃、有袋栽培の収穫適期は無袋栽培と同様であることが明らかになった。無袋栽培は果実重が大きく、有袋栽培は糖度が高い傾向が見られた**【普及成果７】**。 簡便に利用できる防霜対策の指標として、6 樹種について果樹の「凍霜害警戒温度指標」を作成した。「凍霜害警戒温度指標」は、生育ステージごとに従来から利用している「安全限界温度」と、危険度 50%温度を一覧できる表形式とした**【普及成果８】**。 DVR による果樹の発芽・開花予測及びモモ「あかつき」の硬核期・収穫期予測について、観測日までは観測値を入力し、観測日以降は気象庁が提供する 1 か月予報を利用することで精度が向上した。また、任意の条件での予測も可能とした**【普及成果９】【普及成果１０】**。 会津地域における本年の生育や品質を調査した。リンゴは開花盛期が早く、着色期以降の高温により着色不良となり、収穫期が遅くなる品種が多かった。カキは、開花盛期が平年より 13 日早まった。果頂部の着色は平年並に推移したが、果底部の地色の抜けは悪かった。 南会津地域におけるリンゴの生育予測モデルを(国研)農研機構 1 km メッシュ農業気象データを用いて作成し、実用上問題ない精度であることを確認した**【普及成果１８】**。 リンゴ、カキにおいて生育予測モデルと危険度予測モデルによる霜害被害予測について検証した結果、現状の週間天気予報の精度に起因する課題が残った。

Ｄ２　環境負荷を低減する農業生産に資する研究開発

Ｄ２－２　環境と共生する病害虫防除技術の開発

試験課題名：総合的病害虫管理（IPM）による環境と共生する農業技術の確立	D2-2-1
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：作物保護科	
概要	営農管理支援ソフトを用いて、浜通り地域の農業経営体の防除実態を把握した。 水稲のいもち病について、出穂前の穂は日平均気温 25℃で出穂 6 日前(出穂始めからの有効積算温度で-90 日℃)から穂いもちを発病する危険性があり、この時期の葉耳間長はおよそ 4cm であることをことを明らかにした。 所内トマトハウスで発生したオンシツコナジラミのピリプロキシフェン感受性程度は、感受性低下～抵抗性で、ほ場でのラノーテープ設置による防除効果は、幼虫数の対無処理比 0.14 であった。 葉いもち発生予測システム BLASTAM による感染好適条件が 5 月中にも出現しており、稲体の生育ステージによっては 5 月下旬に葉いもちに感染する可能性があった。 トマトすすかび病を対象とし、安価なマイコン開発用ボードを用いた防除判断プログラム及び機器を作製し、予測精度の検証を行った。

試験課題名：果樹における生物資源等を活用した環境と共生する病害虫防除技術の開発	D2-2-2
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：果樹研究所病害虫科	
概要	福島市で採集した土着天敵ケナガカブリダニの薬剤感受性を調査した結果、ビフェナゼート、スピネトラム、クロチアニジンで影響がやや認められた。一方、ミルベメクチン、アセキノシル、アシノナピル、ダイアジノンの影響は小さかった。

Ｄ２－３　有機農産物の低投入持続型栽培技術の確立

試験課題名：有機農産物の低投入持続型栽培技術の確立　D2-3-1

予算区分：国庫（環境にやさしい農業拡大推進事業）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：有機農業推進室

概要

水稲有機栽培ほ場において、副産物(稲わら)のみを再投入して栽培を継続する「低投入持続型水稲有機栽培技術」を実証した。実証７年目である本年の収量は、低投入区１(深水管理:雑草発生量少)394kg/10a、低投入区 2(慣行水管理:雑草発生量中)365kg/10a、有機慣行区 411kg/10a となった。雑草の発生が多かった有機慣行区の収量は 2023 年(497kg/10a)より減収した一方、雑草発生がほぼなかった低投入区１は、2020 年の有機転換３年目以降、最も高い収量を確保した。

低投入区と有機慣行区において、機械除草の回数がコナギの発生消長と収量に及ぼす影響を検討した。3 回除草区、4 回除草区とも除草期間中は雑草の発生数と乾物重を低く抑えており、回数の違いによる除草効果に明確な差は認められず、収量の差も認められなかった。

事前乾燥処理を取り入れた高温温湯消毒の影響について、本県の主要水稲３品種「コシヒカリ」、「福笑い」、「天のつぶ」で調査した。水分含量を 8%以下に乾燥後、10 分間 65℃の温湯消毒を行った結果、3 品種とも発芽率はおおむね 90%以上を保ち、草丈や葉齢にも差がないことが確認された。また、発芽率は品種により異なり、割籾率が発芽に影響する可能性が示唆された**【参考成果１】**。

Ｄ２－４　環境負荷の低減に向けた技術の開発

試験課題名：温室効果ガス排出軽減技術の確立　D2-4-1

予算区分：外部資金（農地土壌炭素貯留量等基礎調査事業(農地管理技術検証)）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

秋耕及び中干しを延長することにより、水稲栽培期間中に水田から発生するメタンの削減が可能であった。

今年度の試験では、メタンの発生量に対する鉄資材を施用した効果は認められなかった。また、水稲の生育や収量、品質に与える影響は認められなかった。

試験課題名：農地における土壌管理実態調査　D2-4-2

予算区分：国庫（農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業(農地管理実態調査)）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

農地土壌炭素貯留に関する農地土壌調査事業において、県内 13 地点で土壌調査を行った。その結果、土壌の炭素貯留量は前回調査の令和２年と比較して増加していた。

水田及び施設畑の土壌深 30cm 当たりの全炭素量と全窒素量は、牛ふんオガ堆肥区が化学肥料区より高かった。また、作物の収量も牛ふんオガ堆肥区が化学肥料区より高く、連用の効果が認められた。

国内肥料資源利用拡大対策事業として県内 12 地点及び基準点５地点について土壌調査した結果、令和２年より１層目が浅くなる地点が見られるとともに、炭酸塩の反応が確認される水田が多く見られた。また、水田及び施設畑とも有機物の連用によりマンガン酸化物や炭酸塩の反応などに違いが見られた。

試験課題名：果樹園における省力的環境負荷軽減のための肥培管理技術の確立　D2-4-3

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

モモ園において、慣行の施肥量を 50%減肥した影響を調査した結果、土壌の化学性、収穫量、果実品質及び樹体生育に大きな差は見られなかった。

リンゴで肥効調節型肥料の施肥時期(9、12、3 月)による影響について、無窒素区、慣行区とともに調査した結果、樹体の生育と果実品質については処理区間に有意な差はなく、着色等にも影響はなかった。生育期間中の土壌の無機態窒素は、9 月施肥区では 10 月から 11 月にかけて大きく、12 月施肥区は施肥後に 3、8 月でわずかに上昇した。3 月施肥区は 6、8 月に上昇した。対照区は 10、11、8 月で上昇した。

試験課題名：効率的肥培管理技術の確立　D2-4-5

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

PB(6.2)法抽出法と PB(7.0)法抽出法において、2 つの抽出法は読み替え可能であることが明らかとなった。また、PB(6.2)法抽出法は、PB(7.0)法抽出法よりやや強い相関が見られた。白未熟粒の発生に関する土壌及び茎葉中のケイ酸含量の関係は判然としなかった。

今年度の試験では、資材施用による土壌の可給態ケイ酸量、茎葉中のケイ酸含量、水稲の生育、水稲の収量及び玄米品質への効果は判然としなかった。

試験課題名：家畜排せつ物堆肥の高度利用技術の開発　D2-4-6

予算区分：繰入金（産業廃棄物税基金）
開始年度：2022　　終了年度：2026
担当科所：環境・作物栄養科、畜産研究所飼料環境科

概要

市販牛糞堆肥にもみ殻、粉砕もみ殻、膨軟もみ殻を投入してペレット化し、水分調整資材としての適性を確認した。粉砕もみ殻は機械の負荷や粉化率が高く水分調整資材としては適さないが、膨軟もみ殻は少ない投入量で水分の低減が可能で、水分調整資材として有望であることがわかった。

試験水田内にステンレス枠を埋め込み堆肥の肥効特性の調査を行った結果、堆肥を施用した区は生育初期の茎数が優れていた。水稲栽培における堆肥の施用は、生育期間を通して作土中のアンモニア態窒素、可給態リン酸、交換性カリウム濃度の上昇効果が見られた。

試験課題名：農業副産物を活用した高機能バイオ炭の施用体系の確立　D2-4-7

予算区分：外部資金（グリーンイノベーション基金事業）
開始年度：2023　　終了年度：2027
担当科所：野菜科

概要

ブロッコリーについて、バイオ炭の施用上限を明らかにするため、ポット試験で体積比 0～30%のバイオ炭を施用した結果、連用 4 作目の生育は混和量増加に伴いやや抑制されることを明らかにした。また、バイオ炭の適正な施用量と連年施用による影響を明らかにするため、ほ場試験で 0～600kg/10a のバイオ炭を施用した結果、連用 2 年目における生育、収量に差はないことを明らかにした。

試験課題名：放射性物質除染後ほ場におけるバイオ炭施用の作物への影響と炭素貯留効果　D2-4-8

予算区分：外部資金（グリーンイノベーション基金事業）
開始年度：2023　　終了年度：2027
担当科所：環境・作物栄養科、浜地域農業再生研究センター

概要

除染後農地にもみ殻炭を施用した場合の一酸化二窒素の発生量は施用 1 年目のオオムギ、連用 2 年目のダイズ共に少ないことが確認された。

試験課題名：特別栽培生産拡大のための技術確立		D2-4-9
予算区分：国庫、一般財源 開始年度：2024　　終了年度：2026 担当科所：環境・作物栄養科、作物保護科、稲作科、会津地域研究所、浜地域研究所		
	概要	ほ場への堆肥の投入量(0～3t)及び化成肥料と特別栽培専用肥料における水稲の生育・収量への影響を確認した結果、堆肥投入量及び肥料の種類による差は判然としなかった。 初年度では堆肥の有無や特別栽培肥料と化成肥料による土壌化学性の明確な差は見られなかった。水稲窒素吸収量は無窒素区で低くなった。

試験課題名：切り花栽培における農業用使用済みプラスチック低減技術の確立		D2-4-10
予算区分：繰入金（産業廃棄物税基金） 開始年度：2024　　終了年度：2024 担当科所：花き科		
	概要	シュッコンカスミソウ栽培において、生分解性マルチの使用による切り花品質は、慣行のポリマルチと同等であった。また、生分解性マルチの導入費用は慣行と比べて高くなるが、片付け時間の短縮により作業の省力化が図れることが明らかとなった。

E　安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進

Ｅ１　産地や経営体において収益性を高める技術の研究開発

Ｅ１－１　水稲、畑作物の安定生産技術の確立

試験課題名：省力的な稲作栽培に適応した雑草防除技術の確立		E1-1-2
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：稲作科		
	概要	べんがら・モリブデンコーティング直播栽培は、除草剤を 2～3 回散布する体系防除が一般的となっているが、ポット試験により、テフリルトリオン・トリアファモン・フロルピラウキシフェンベンジル粒剤(商品名：ストレングス 1 キロ粒剤)はイネ 1 葉期からノビエ 4 葉期のいずれの時期においても高い除草効果が見られることを確認した。

試験課題名：畑作物の高品質・安定栽培技術の確立		E1-1-3
予算区分：外部資金（福島大学委託）、一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2024 担当科所：畑作科		
	概要	【ダイズ】 伝統的発酵食品や新たなダイズ加工食品開発に適したダイズ品種選抜のため、多様な国内外のダイズ合計 90 品種・系統を栽培した。生育ステージ・栽培特性を調査し、子実を収穫し、(国)福島大学に提供した。 【コムギ】 11 月上旬播種の「夏黄金」については、収量性や子実の外観品質、コスト削減の点で、播種量は 0.6kg/a が望ましいと考えられた。また、出穂からの積算気温が 900℃程度に達する頃から機械収穫の適期を迎えたが、1100℃程度になると子実の外観品質の低下が見られた**【参考成果７】**。 「さとのそら」の播種量については、生育量や収量の確保、コスト削減の点で、基肥-追肥＝0.7-0.6(kgN/a)の施肥体系では 0.6kg/a、基肥-追肥＝0.3-1.0(kgN/a)の施肥体系では 0.8kg/a が適していた。また、穂全体の褐変が進み、出穂からの積算気温が 900℃程度に達したころから収穫適期を迎えた**【普及成果５】**。 グリホサートカリウム塩液剤(商品名:ラウンドアップマックスロード)の散布によりネズミムギの発生が抑えられた。プロスルホカルブ乳剤(商品名:ボクサー)の散布により麦 4 葉期以降のネズミムギの発生が抑えられた。

試験課題名：マルチオミクス解析に基づく作物の安定多収に向けた栽培技術の開発		E1-1-4
	予算区分：外部資金（ムーンショット型農林水産研究開発事業） 開始年度：2018　　終了年度：2025 担当科所：畑作科	
	概要	県内のダイズ栽培ほ場における収量関連要素を明確にし、改善に向けた資材、技術を明らかにするため、関係各所から送付された 14 資材を施用して栽培し、生育データとダイズの乾物と土壌を解析担当の研究機関に提供した。

試験課題名：葉たばこ特別調査		E1-1-5
	予算区分：外部資金（日本たばこ産業株式会社） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：畑作科	
	概要	新規薬剤の葉たばこ耕作への適性を検証するため、所定量の薬剤を適期に散布後、官能試験用の原料を生産し、乾葉を提供した。

試験課題名：水稲の疎播疎植と高精度 2 段施肥体系による省力多収栽培技術の確立		E1-1-6
	予算区分：外部資金（オープンイノベーション研究・実用化推進事業） 開始年度：2023　　終了年度：2026 担当科所：稲作科	
	概要	疎播疎植と高精度 2 段階ペースト施肥を組み合わせた「天のつぶ」の収量は、慣行栽培と比べて穂数はやや少なくなるが、1 穂籾数が増えることにより、慣行栽培と同等の収量を得られることが明らかになった。側条と深層の施肥割合による収量の変化は確認されなかった。 「天のつぶ」において、緩効性肥料を用いた全量基肥一発施肥体系栽培は慣行栽培と比べて低収となることが明らかになった**【参考成果６】**。

Ｅ１－２　野菜・花きの安定生産技術の確立

試験課題名：地域特性を活かした施設花きの安定生産技術の確立		E1-2-1
	予算区分：外部資金（日本種苗協会）、一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：花き科	
	概要	【鉢花カーネーション】 電球色 LED を使用した電照栽培により、加温設定温度を下げても需要期に出荷することができ、燃油消費量を削減できることを明らかにした**【R5 秋冬参考成果９】**。 【トルコギキョウ】 各種苗メーカーの新たな品種や系統である 24 系統について開花期や品質等を評価し、優れた系統として 5 系統を選定した。それらは当地域での季咲き作型に適応性の高い系統であると考えられた。

試験課題名：ふくしまの特色ある露地花きの安定生産技術の確立		E1-2-2
予算区分：外部資金（ジャパンフラワー強化プロジェクト推進）、一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：花き科		
	概要	【リンドウ】 「ふくしまさやか」、「ふくしましおん」、「ふくしまほのか」、「天の川」の生育ステージを調査した結果、3 月の低温の影響により萌芽期は平年値と比べやや遅れたが、その後は高温の影響により早生系品種の「ふくしまさやか」では開花期が早まり、晩生系品種の「ふくしまほのか」では遅くなった。 【キク】 花蕾径計測による開花予測を行う際に必要な各品種の着色径を調査した結果、着色径の年次間差が小さく、開花予測が可能だと思われる品種については判然としなかった。また、発蕾後にジベレリン 100ppm 液を 7 日間隔で 2 回散布することによって、「精こまき」の開花が早くなったが、花首長は長くなった。 南相馬市小高地区における電照栽培を用いた現地実証ほでは、電照反応性が優れた 3 品種の消灯日別の開花日が明らかとなり、需要期出荷が可能であった。 【ユーカリ】 効果的な挿し木増殖方法について試験に取り組んだ結果、6 月挿し木において「グニー」では地際から採取した穂木で、鹿沼土及び流水管理が挿し木に適していることが示唆された。また、仕立て方法については、基部を 30 ㎝程度残してせん定することで、5 ㎝程度残した台刈りと比較して、収穫本数が多かった。

試験課題名：特産野菜の安定生産技術の確立		E1-2-3
予算区分：国庫（風評に打ち勝つ園芸産地競争力強化事業） 開始年度：2021　　終了年度：2024 担当科所：野菜科、経営・農作業科		
	概要	矮性サヤインゲンについて、「ピテナ」は倒伏しにくく機械収穫に適していることを明らかにした**【参考成果８】**。また、機械化体系において、3 回播種モデルは 23 万円の純収益増となり、慣行栽培とおおむね同等の収益性となることを明らかにした。なお、収穫時のアシストスーツ利用、選別作業テーブル面の色変更（灰色）は高評価を得た。 サヤインゲン(矮性)の機械化体系において、10a 当たりの年間労働時間は 222 時間、収益は 6 万円の純損失となったが、3 回播種モデルは 23 万円の純収益となり、慣行栽培とおおむね同等の収益性となった。 加工用ブロッコリーについて、青果用ブロッコリーよりも密植して花蕾径が大きくなってから収穫することで、面積当たりの花蕾部重量を確保できることを明らかにした。

Ｅ１－３　会津地域に適した作物、園芸品目等の生産技術の確立

試験課題名：会津地域における地場野菜等の生産技術の開発		E1-3-1
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：会津地域研究所		
	概要	休止

試験課題名：会津地域における秋ソバ「会津のかおり」の追肥の効果と作期分散		E1-3-3
予算区分：一般財源 開始年度：2023　　終了年度：2024 担当科所：会津地域研究所		
	概要	ソバ「会津のかおり」の播種時期別の収量等を調査した結果、標播が最も収量が多く、次いで晩播、早播であった。晩播の収量向上を目的に追肥の有無を試験したが、差は認められなかった。

試験課題名：小麦の高品質・安定生産技術の確立		E1-3-4
	予算区分：一般財源 開始年度：2024　　終了年度：2024 担当科所：会津地域研究所	
	概要	パン・中華めん用小麦品種「夏黄金」の会津地域における収穫適期を明らかにするため、10月上旬に播種し、現在調査中である。

試験課題名：カキ「会津身不知」の適期防除と長期保存方法の検証		E1-3-5
	予算区分：一般財源 開始年度：2024　　終了年度：2025 担当科所：会津地域研究所	
	概要	カキ「会津身不知」の防除時期を検討した結果、慣行より早期に防除することで果面障害割合が減少した。 早期収穫果実の炭酸ガス脱渋における保存性を調査した結果、脱渋後4週間程度は果実品質を保つと考えられた。

Ｅ１－４　浜通り地方に適した作物、園芸品目等の生産技術の確立

試験課題名：浜通りにおける大規模水田利用支援技術の開発		E1-4-1
	予算区分：一般財源、外部資金（植物調節剤の研究開発事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域研究所	
	概要	ダイズの生育量確保による収量増加を目指し、早播における播種時期、播種量、開花期以降の追肥を検討した結果、早播(5月下旬播種)では、標播(6月上旬播種)と比べ生育量は優ったが障害粒の発生が多く、収量は劣った。粗子実重は同程度～やや少なく、裂皮による障害粒が多かったため、精子実重及び品質は劣る傾向にあった。また、開花期以降の追肥による増収効果は見られなかった。 浜通りにおける小麦品種「さとのそら」の高品質・安定生産を実現するための栽培法を確立するため、収穫適期の簡易指標の作成及び最適な播種量について検討した結果、収穫適期は出穂後の積算気温や穂の外観から判別可能であることを確認した**【普及成果５】**。また、高温年においては、慣行の播種量 0.8kg/a より播種量を減じた 0.4～0.6kg/a でも高品質、安定生産が可能であることを確認した**【参考成果３０】**。 ノビエにおいて、実生を用いた除草剤抵抗性検定を確立するため、検定に用いる除草剤処理濃度条件について検討した結果、シハロホップブチル 1.2 ppm、ペノキススラム 0.09 ppm の処理で、ヒエ属雑草の抵抗性と感受性を容易に識別できた。さらに本検定結果は除草剤抵抗性バイオタイプとも一致した。以上から本濃度条件を抵抗性検定法の標準処理濃度とした。また、相馬市、南相馬市、新地町の3市町のノビエ残草ほ場からイヌビエ11系統、タイヌビエ1系統を採取して実生法で評価した結果、イヌビエ4系統、タイヌビエ1系統で除草剤抵抗性が確認された。ポット試験ではシハロホップブチルの結果は実生検定と一致したが、ペノキススラムでは感受性差が不明確だった。**【普及成果１９】**。 いわき市で確認されたナガエツルノゲイトウは、茎や根の断片からも再生する特性があり、刈り払いなどで分布を拡大させる恐れがあるため、本種を識別し除草剤散布など適切な防除方法を選択することが拡大防止の上で重要となる。そこで、ナガエツルノゲイトウと類似植物を識別するための形態的特徴を明らかにし、簡易識別マニュアルとしてとりまとめた**【普及成果２０】**。

試験課題名：浜通りの気候を活かした野菜・花き等生産振興支援技術の確立		E1-4-2
予算区分：科研費、一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：浜地域研究所		
	概要	カンパニュラの抽苔後摘心栽培では、茎の曲がりはないものの、側枝数が少なく、茎径も細いことから無摘心１本仕立てと比べると貧弱であり、市場の評価も低かった。 スターチス・シヌアータの電照の有無では、電照ありで採花が遅くなる傾向が見られたものの切り花品質に差はなかった。 ヤママユガ絹糸腺の調査にあたっては、幼虫を冷凍保存してから解凍、解剖して絹糸腺を取り出すことが可能であった。この方法でヤママユガ絹糸腺の発達を調査した結果、5 齢 9 日目までは発達が非常に緩やかであり、営繭直前に急激に増加することが明らかとなった。また、熟蚕の絹糸腺量は、ヤママユガで 1g を超えたことから、絹糸腺への放射性セシウム移行を調査するには、絹糸腺量の最も多い営繭直前が適していると考えられた。 ヤママユガは浜通り地方に広く生息しており、浪江町の放置された飼育林での飼育で繭を収穫することができたため、絹糸腺、繭への放射性セシウム移行の有無が明らかになった後、被災地で飼育することは可能と考えられた。

Ｅ１－５　果樹の安定生産技術の確立

試験課題名：革新的栽培技術体系による果樹の栽培管理技術の確立		E1-5-1
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：果樹研究所栽培科		
	概要	ニホンナシ「幸水」の 16 年生のジョイント樹形と新一文字樹形の特性を調査した結果、慣行樹形と同程度の収量が確保された。果実品質は、果実重が新一文字樹形で高く、糖度は慣行樹形が新一文字樹形に比較して高かった。 ニホンナシ「あきづき」の新一文字型樹形は、慣行樹形と比較して 10a 当たり収量が早期から継続して高く推移することが確認された。 ブドウ根圏制御栽培における「シャインマスカット」及び「クイーンニーナ」両品種において、盛土を追加したことによる生育期間中の生育量に違いは見られなかった。果実品質の比較では、「クイーンニーナ」で盛土を追加したとき果粒重が大きくなった。
試験課題名：モモ「あかつき」の核障害軽減対策技術の確立		**E1-5-2**
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：果樹研究所栽培科		
	概要	モモ「あかつき」の摘果強度による核障害の発生程度の違いを調査した。仕上げ摘果時点での着果量を慣行より多く設定し、修正摘果以降での着果量調整を行ったが、収穫果における障害果発生数に有意な差は見られなかった。
試験課題名：大規模経営に対応できるリンゴの省力・高品質生産技術体系の確立		**E1-5-3**
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：果樹研究所栽培科		
	概要	リンゴ「ふじ」において、摘花剤、摘果剤散布により、摘果作業時間では試験区が慣行区より約 19%削減され、予備摘果、仕上げ摘果、修正摘果及び着色管理の合計時間では試験区が慣行区より約 18%削減された。果実品質は、試験区、慣行区ともに差が見られなかった。

試験課題名：ナシの花粉確保技術の確立		E1-5-4
予算区分：一般財源 開始年度：2024　　終了年度：2024 担当科所：果樹研究所栽培科		
	概要	ニホンナシ「長十郎」、「幸水」における休眠枝を用いた花粉採取は、花粉発芽率が低いことなどを考慮すると受粉には不適であると考えられた。花粉発芽率を向上させるためには、切り枝の採取ステージや温室内の加湿の方法等について検討が必要である。

Ｅ１－６　畜産の安定生産技術の確立

試験課題名：乳牛の安定生産技術の確立		E1-6-1
予算区分：外部資金（「福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進」福島浜通り地域等の農林水産業復興に資する研究事業） 開始年度：2024　　終了年度：2025 担当科所：畜産研究所酪農科		
	概要	(国研)農研機構動物衛生研究部門で試作した黄色ブドウ球菌(SA)BM1006 株を抗原とし、ケモカインをアジュバントに用いた試作乳房炎ワクチンと、現在日本で市販されている乳房炎ワクチンを搾乳牛へ皮下投与し、それぞれのワクチンを比較・評価し、有効性を検討した。乳汁及び血清中の SA 特異的 IgG 抗体は、試作乳房炎ワクチン投与区で市販乳房炎ワクチン投与区に比べて高い傾向になることが示された。乳汁及び血清中の SA 特異的 IgA 抗体は、両区において明確な差は見られなかった。身体所見・乳質等には影響がないことが示唆された。

試験課題名：肉用牛の安定生産技術の確立		E1-6-2
予算区分：寄附金（JA グループ福島寄附金）、一般財源、国庫（農林水産省委託プロジェクト研究） 開始年度：2021　　終了年度：2026 担当科所：畜産研究所沼尻分場		
	概要	黒毛和種牛の短期肥育は、短期間に濃厚飼料を多給することにより、食い止まりや第一胃食滞などを併発しやすいため、醸造副産物を主原料とした市販の発酵飼料を活用し、短期肥育への影響を検証した。発酵飼料の給与量を全期間定量(1.0kg/日・頭)とした「給与群」、肥育前期に増量(1.5kg/日・頭)させた「強化給与群」、通常の短期肥育である「無給与群」について、採食量、体重及び肉質を比較した結果、発酵飼料の強化給与が有効であることが示唆された**【普及成果１７】**。

試験課題名：豚の安定生産・高付加価値化技術の確立		E1-6-3
予算区分：繰入金（産業廃棄物税基金）、一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：畜産研究所肉畜科		
	概要	桃皮残さと白酒ヌカを原物重量比 2:1 で混合し、約 4 日間通風乾燥することにより、桃皮残さ 800 kg、白酒ヌカ 400 kgの計 1,200 kgから、2 か月間で約 300 kg製造することができた。製造した桃飼料を肥育豚出荷前 30 日間、市販配合飼料の重量で 30%代替したところ、発育及び肉質に影響は見られなかった。また、嗜好型官能評価では、調理方法の違いで「やわらかい」の評価に違いがあることがわかり、桃飼料を給与した豚肉は「ゆで調理」に向いている可能性が示唆された。

Ｅ１－７　新たな技術・手法等の導入効果に関する経営的評価

試験課題名：GAP を活用した経営改善効果の検証		E1-7-1
予算区分：国庫（第三者認証ＧＡＰ取得等促進事業） 開始年度：2022　　終了年度：2024 担当科所：経営･農作業科		
	概要	GAP 認証取得経営体へのアンケート及び聴取調査により、衛生管理や農作業安全の意識向上について認証取得による改善効果が高いことが明らかとなった。また、法人経営体や個別出荷の経営体で、経営改善効果がより高まることが示唆された**【普及成果１】**。

Ｅ２　農産物の安定供給に寄与する鳥獣被害防止・病害虫防除等に係る研究開発

Ｅ２－１　野生鳥獣害対策技術の確立

試験課題名：中山間地におけるドローン等を活用した ICT 鳥獣対策及び被害管理技術の確立		E2-1-2
予算区分：繰入金（中山間ふるさと水と土保全基金） 開始年度：2024　　終了年度：2025 担当科所：企画技術科		
	概要	果樹園地での鳥類の出没状況を把握するために、リンゴ園地 3 か所及びナシ園 1 か所に通信型センサーカメラを設置し、日時別に鳥類の飛来羽数を集計した結果、収穫期前の 8～9 月に飛来が増加する傾向が見られた。また、園地ごとに出没の傾向が異なることが示唆された。 ドローンを用いた追払いにより、カラス、ムクドリは果樹園から離れることを確認した。 リンゴ園でカラスを午後 1 時から 1 時間ごとに 3 回追払いを行った結果、翌日以降もカラスの飛来が確認されたため、連日の実施が必要と示唆された。

Ｅ２－３　新奇病害虫・難防除病害虫防除技術の確立

試験課題名：新奇・難防除病害虫に対する防除技術の開発		E2-3-1
予算区分：一般財源 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：作物保護科		
	概要	令和 6 年度の病害虫診断依頼件数は 124 件で、前年比 93.2%であった。内訳は、作物 25 件(20.2%)、野菜 70 件(56.5%)、花き及び樹木類 29 件(23.4%)であった。診断・同定結果は、ウイルス・ウイロイド病 21 件(17.4%)、細菌病 16 件(13.2%)、糸状菌病 50 件(41.3%)、虫害 6 件(5.0%)、生理障害 9 件(7.4%)、薬害 3 件(2.5%)、不明・正常が 16 件(13.2%)であった。 クモヘリカメムシが、過去に捕獲事例のない郡山市内で確認され、今後は県中地方でも本種の発生に注意し、防除対策を講じる必要があると考えられた**【参考成果３】**。 ダイズべと病の発病度と、マルチスペクトルカメラによる空撮画像から取得した植生指標 R、G、NDVI、GNDVI、LCI、NDRE 値との間に相関が認められ、発病を識別できる可能性が示唆された。 土壌消毒実施ほ場においてトルコギキョウ立枯病が発生する要因を探るため、土壌消毒後から経時的に深度別の土壌の菌密度を調査した結果、土壌消毒後に畦の表層から再汚染されている可能性が示唆された。

Ｅ２－４　果樹の病害虫に対する防除技術の確立

試験課題名：果樹の重要な課題である病害虫に対する防除技術の確立　E2-4-1

予算区分：外部資金（安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業）、一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所病害虫科

概要

モモせん孔細菌病について、雨よけ処理を継続することで同病害を対象とした防除を削減できること、新規資材の防除効果について明らかにした。また、酸化亜鉛水和剤(商品名：ICジンク水和剤)を組み入れた防除体系が有効であることを明らかにした**【普及成果１１】**。

有機銅水和剤（商品名：ドキリンフロアブル）は、ナシ黒星病に対する７月下旬頃の防除に有効であることが明らかになった**【参考成果２４】**。また、本年は子のう胞子の飛散盛期とナシの開花期が一致していたことが明らかとなった。

試験課題名：果樹等の幼木期における安定生産技術の確立　E2-4-2

予算区分：一般財源、外部資金（農林水産研究推進事業、農林水産省委託事業）
開始年度：2020　　終了年度：2024
担当科所：環境・作物栄養科、果樹研究所病害虫科

概要

モモ胴枯細菌病(急性枯死症)多発園地において、暗きょ設置による排水対策を実施した結果、深さ 40cm の気相率の改善が確認でき、暗きょを設置することでモモ胴枯細菌病の発生を軽減できることが明らかになった**【普及成果２】**が、化学性と急性枯死との関係については判然としなかった。暗きょ及び簡易暗きょ設置により、未設置と比較して急性枯死の発生が３割以上減少することが実証された。また、発生ほ場に定植した苗木について、品種間差は判然としなかった。

試験課題名：果樹における農薬耐性、抵抗性を管理する技術確立　E2-4-4

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所病害虫科

概要

果樹に寄生するハダニ類の薬剤感受性を調査した結果、感受性が高かったのは、ナミハダニでミルベメクチン、ビフェナゼート、アシノナピル、カンザワハダニでは加えてアセキノシル、シフルメトフェン、シエノピラフェンであった。

試験課題名：果樹病害虫の防除法改善に関する試験　E2-4-5

予算区分：外部資金（オープンイノベーション研究・実用化推進事業）、一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所病害虫科

概要

リンゴ褐斑病は開花期にも感染リスクがあり**【参考成果２２】**、TPN 水和剤（商品名：パスポート顆粒水和剤）はリンゴ褐斑病の防除に有効であることが明らかとなった**【普及成果１２】**。

リンゴ黒星病の子のう胞子飛散は、展葉期～落花 20 日頃に多いことが確認された**【参考成果２３】**。

ナシマルカイガラムシ歩行幼虫の発生消長を調査し、予測とおおむね一致することが明らかになった**【普及成果１３】**。

高温年においてナシヒメシンクイ成虫の各世代誘殺盛期が前進しており**【参考成果２５】**、ナシヒメシンクイに対して防除効果が高く、残効の長い殺虫剤を明らかにした**【参考成果２６】**。

ナシ園におけるチャノキイロアザミウマの発生消長を、明らかにした**【参考成果２７】**。

試験課題名：相次いで侵入した外来カミキリムシから日本の果樹と樹木を守る総合対策手法の確立　E2-4-7

予算区分：外部資金（イノベーション創出強化研究推進事業）
開始年度：2022　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所病害虫科

概要

本県においてクビアカツヤカミキリの発生、被害は認められなかった。また、ツヤハダゴマダラカミキリが産卵したリンゴ樹の解体調査で生存虫は確認されなかったことから、リンゴ樹への寄生リスクは低いと考えられた**【参考成果２８】**。

Ｅ２－５　新農薬・新資材等の効率的利用法

試験課題名：安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化		E2-5-1
	予算区分：外部資金（新農薬等に関する試験研究事業） 開始年度：2021　　終了年度：2025 担当科所：作物保護科、環境・作物栄養科、稲作科、畑作科、野菜科、果樹研究所栽培科、病害虫科、会津地域研究所、浜地域研究所	
	概要	新農薬の実用化試験として、水稲、野菜及び果樹の殺菌剤及び殺虫剤 73 剤、水稲、畑作物及び果樹の除草剤 8 剤及び植物成長調整剤等剤、肥料・農薬等の効率的利用法として、水稲、野菜及び果樹の 24 件の試験を受託した。 水稲において減プラスチック肥料及びプラスチック不使用の有機質を含む肥料を用いて試験栽培を行った結果、側条・基肥一発施肥で慣行と同等の生育・収量を確保できた。また、県内有機物を利用し、肥料被膜にプラスチック不使用の肥料を用いて試験栽培を行った結果、側条・基肥一発施肥で慣行と同等の生育・収量を確保できた。 夏秋キュウリの隔離床養液栽培において、「ニーナ Z」のストレート型、更新型、「夏華」のストレート型の整枝方法で 26～29t/10a の収量を確保できることを明らかにした。また、「ニーナ Z」は更新型の整枝方法を用いることにより雌花着果率を高めて収穫節位を上げ、また誘引作業時間を短縮できることを明らかにした。 水稲育苗用ハウスの空き期間を活用した簡易養液栽培システムによるミニトマト栽培について検証し、品種別の収量・品質の差を明らかにした**【参考成果２９】**。 カキ「会津身不知」の果実着色促進のため、ロイシン及びコリン含有剤の効果を検証したが、効果は小さかった。

４ 試験設計・試験成績検討会の開催状況

（１）一般課題

開 催 日	検 討 会 名	会　場
令和6年 6月27日	第1回生産環境・作物園芸専門別検討会	本部、オンライン
8月28日	第2回作物園芸専門別検討会	本部、オンライン
12月11日	第3回作物園芸専門別検討会	本部、オンライン
12月23日～24日	畜産専門別検討会	畜産研究所、オンライン
令和7年 1月 8日	第1回果樹専門別検討会	果樹研究所、オンライン
1月 9日	第2回生産環境専門別検討会	本部、オンライン
1月10日	第4回作物園芸専門別検討会	本部、オンライン
2月13日	第2回果樹専門別検討会	果樹研究所、オンライン
2月20日	第3回生産環境・第5回作物園芸専門別検討会	本部、オンライン

（２）放射性物質対策

開 催 日	検 討 会 名	会　場
令和7年 1月16日	令和6年度放射性物質試験研究課題に関する検討会	本部、オンライン

５　試験研究成果の公表

（１）試験研究成果一覧

ア　普及に移しうる成果（生産者に活用され農業振興に寄与する研究成果、研究に利用できる新たな手法等の研究成果、行政施策の推進に活用できる研究成果）

（ア）令和５年度秋冬作

No.	成　　果　　名	担当部所
1	イチゴ「ゆうやけベリー」の着色基準と果実品質特性	生産環境部

（イ）令和６年度

No.	成　　果　　名	担当部所
1	ＧＡＰ認証取得により経営改善の効果が期待できる	企画経営部
2	暗渠排水設置によるモモ胴枯細菌病(急性枯死症)の発生軽減効果	生産環境部
3	ブドウの果粒の物性値と可溶性タンニン含有量を活用し「皮ごと食べやすさ」を評価できる	
4	濃桃色の花色を有する晩生リンドウ「福島栄 24 号」の育成	作物園芸部
5	小麦品種「さとのそら」の多収かつ品質を確保するために栽培暦を作成しました	作物園芸部 浜地域研究所
6	夏秋雨よけキュウリにおけるミストと日射制御型遮光の併用による高温対策	作物園芸部
7	ナシ「甘太」の収穫適期	果樹研究所
8	防霜対策のための凍霜害警戒温度指標	
9	1 か月予報気温を利用した果樹の発芽・開花予測	
10	1 か月予報気温を利用したモモ「あかつき」の硬核期・収穫期予測	
11	酸化亜鉛水和剤を組み入れた防除体系によってモモせん孔細菌病の被害を軽減できる	
12	TPN 水和剤(商品名:パスポート顆粒水和剤)はリンゴ褐斑病の防除に有効である	
13	ナシマルカイガラムシ歩行幼虫の発生消長及び発生時期の予測	
14	酒粕を給与した黒毛和種の牛肉は嗜好性の評価が高い	畜産研究所
15	イタリアンライグラス「アキアオバ 3」は 2 年以上利用できる	
16	フェストロリウム「なつひかり」は越夏後の収量が優れている	
17	和牛の短期肥育における食い止まりの防止には発酵飼料の活用がより効果的である	
18	南会津地域のリンゴ「ふじ」の発育予測は可能である	会津地域研究所
19	福島県浜通りにおけるシハロホップブチル抵抗性ノビエの発生	浜地域研究所
20	ナガエツルノゲイトウ識別のための技術情報の作成	

イ 参考となる成果(指導者の指導上の参考として適当と思われる情報)

（ア）令和５年度秋冬作

No.	成　　果　　名	担当部所
1	加工業務用ブロッコリーにおける収穫機の経済性	企画経営部
2	ブロッコリーのルテイン、スルフォラファングルコシノレート、βカロテンはフローレットに多い	生産環境部
3	ブロッコリーに含まれる機能性成分の加熱処理・一次加工後の含有量の変化	
4	「福乃香」は高温登熟年次でも高い消化性を確保できる	作物園芸部
5	イチゴ「ゆうやけベリー」は摘花によりＬ規格以上の収量が増加する	
6	大豆作でのトリフルラリン乳剤の土壌混和処理による帰化アサガオ類の防除効果	
7	イチゴ「ゆうやけベリー」の育苗時における窒素施用量	
8	イチゴ「ゆうやけベリー」の基肥窒素量	
9	鉢花カーネーションは電球色 LED を用いた電照栽培により、加温設定温度を下げても出荷できる	
10	本県育成カラー品種を浜通りで８月上・中旬に定植すると、再利用可能な球根が得られる	浜地域研究所

（イ）令和６年度

No.	成　　果　　名	担当部所
1	事前乾燥処理を取り入れた高温温湯消毒の水稲品種への影響	有機農業推進室
2	ブロッコリー選別自動収穫機の作業性能と作業負担面積	企画経営部
3	斑点米カメムシ類「クモヘリカメムシ」の発生域拡大に注意	生産環境部
4	圧ぺん大豆で脱皮せずにテンペを製造できる	
5	2024 年に会津地方で発生した水稲の倒伏要因を気象条件から解析しました	作物園芸部
6	全量基肥一発施肥による「天のつぶ」の疎植栽培(37 株/坪)は慣行栽培と比べて低収になる	
7	パン・中華麺用の小麦品種「夏黄金」の収穫適期	
8	矮性サヤインゲン品種「ピテナ」は機械による一斉収穫に適する	
9	ダリア新品種の切り花輸出を想定した切り前時期が日持ち期間に及ぼす影響	
10	トルコギキョウ無花粉品種切り花の前処理剤使用効果	
11	簡易な遮光幕の設置によりリンドウ着色不良花の発生は軽減できる	
12	モモ「あかつき」のジョイントＶ字トレリス樹形における成木期以降の側枝管理を検討しました	果樹研究所
13	ナシジョイントＶ字トレリス樹形の側枝確保技術	

No.	成　　果　　名	担当部所
14	ブドウ盛土式根圏制御栽培における葉焼け発生要因	果樹研究所
15	2024 年の高温条件下における「ふじ」着色系統の特徴	
16	リンゴ花粉採取専用品種の特性	
17	高温条件下でも、リンゴ「べにこはく」の収穫適期は 11 月中旬以降である	
18	リンゴ「べにこはく」は冷蔵(2℃)で収穫後 4 か月まで貯蔵可能である	
19	モモ「はつひめ」は人工受粉により生産性が向上する	
20	スモモ×モモ種間雑種の繁殖性と接ぎ木親和性	
21	「ナシ福島 7 号」は短果枝を利用すると果形が揃いやすい傾向がある	
22	リンゴ褐斑病は開花期にも感染リスクがある	
23	リンゴ黒星病の子のう胞子飛散は展葉期～落花 20 日後頃に多い	
24	有機銅水和剤(商品名:ドキリンフロアブル)はナシ黒星病に対する 7 月下旬頃の防除に有効である	
25	高温年におけるナシヒメシンクイの発生経過	
26	ナシヒメシンクイに対する防除効果が高く残効の長い殺虫剤	
27	ナシ園におけるチャノキイロアザミウマの発生消長	
28	ツヤハダゴマダラカミキリのリンゴ樹への寄生リスクは低い	
29	水稲育苗用ハウスの空き期間を利用した簡易養液栽培システムによるミニトマト栽培	浜地域研究所
30	高温年における小麦「さとのそら」の播種量と収量	
31	ブロッコリー選別自動収穫機開発に向けた品種選定	
32	除染後農地の土壌肥沃度ばらつき改善に向けた「肥沃度マッピング＋堆肥可変散布」技術	浜地域農業再生研究センター

ウ 放射線関連支援技術情報（農業における放射性物質対策の推進となる情報）

No.	成　　果　　名	担当部所
1	ダイズの放射性セシウム吸収抑制のためのカリ肥料は全量基肥施用するのが望ましい	作物園芸部
2	ソバの放射性セシウム吸収に対する各種カリ肥料の施用効果	
3	落葉果樹の果実及び葉の放射性セシウム濃度の経年変化	果樹研究所
4	落葉果樹における土壌及び果実の放射性セシウム濃度の経年変化	
5	カキ苗木新植時の表土処理及び土壌の交換性カリ濃度が放射性セシウム吸収に及ぼす影響	
6	草地更新時に堆肥と金雲母を施用すると更新後も移行係数が低く推移する	畜産研究所

7	タマネギ及びネギは可食部への ^{137}Cs の移行係数が比較的低い	浜地域農業再生研究センター

エ 営農再開実証技術情報（避難地域等の営農再開の推進に活用できる情報）

No.	成　果　名	担当部所
1	トールフェスク「フォーン」「ウシブエ」「よかトール」「サザンクロス」は営農再開地域で栽培できる	畜産研究所
2	特定復興再生拠点区域の除染後農地における土壌の交換性カリ含量の実態(大熊町)	浜地域農業再生研究センター
3	有機栽培ほ場の畦畔にイブキジャコウソウを導入する場合定植1年目は定期的な除草作業が必要(大熊町)	
4	秋冬ブロッコリーの前作として栽培する緑肥作物セスバニアは5月播種が適する(双葉町)	
5	複合柵設置ほ場における中型獣侵入防止対策(浪江町)	
6	「山木屋在来ソバ」の収穫開始時期における子実の黒化率は70～80%が適している(川俣町)	
7	除染後農地でのパン用小麦においても幼穂形成期及び出穂期の追肥は有効である(富岡町)	
8	営農再開地域におけるカンショ品種の地域適性の把握(田村市、楢葉町)	
9	チェーンポットと簡易移植器を用いたエゴマの育苗・移植技術(大熊町)	
10	土壌管理アプリを活用した緑肥すき込み秋播き移植タマネギの減肥栽培(南相馬市)	
11	ピーマン露地栽培における小規模生産者向けの簡易自動かん水システム(川内村)	
12	トルコギキョウ栽培における低濃度エタノールを利用した土壌還元消毒の実証(浪江町)	
13	阿武隈中山間地域での春播きイタリアンライグラスは秋播きより大きく減収する(飯舘村)	
14	飼料用トウモロコシ栽培でのカリ増施は植物体の放射性セシウム濃度をより低下させる(富岡町)	
15	カリ増施により栽培した混播種子牧草は放牧に利用できる(大熊町)	
16	牛ふん堆肥とメタン発酵消化液の活用による WCS 用稲の収量と放射性セシウム移行への影響(浪江町)	

（２）東北農業研究成果情報（東北地域の試験研究機関における顕著な研究成果）

No.	成　果　名	区分	担当部所
1	ナシ「王秋」のジョイントＶ字トレリス樹形による早期成園化	普及	果樹研究所

（３）「みどりの食料システム戦略」技術カタログ掲載
なし

６ 品種登録・職務発明

（１）品種登録

品目名	登録品種の名称	登録日	育成担当者
水稲	福乃香	令和７年１月７日	小林恭子、大寺真史、濱名健雄、朽木靖之、佐藤淳平、齋藤隆、佐々木園子、菅野史佳、江上宗信、吉田直史、川島史寛、佐藤郁恵、斎藤真一、佐藤弘一、菅野拓朗、渡邊滉士、遠藤わか菜、小林伸英
水稲	福笑い	令和７年１月７日	小林恭子、大寺真史、朽木靖之、渡邉洋一、齋藤隆、佐々木園子、菅野史佳、江上宗信、吉田直史、川島史寛、佐藤郁恵、斎藤真一、佐藤弘一、菅野拓朗、渡邊滉士、遠藤わか菜、小林伸英
リンドウ	天の川	令和６年８月１日	田中智子、野田正浩、松野香子、福田秀之

（２）品種登録出願
なし

（３）特許取得

発明の名称	出願日	登録日	発明者
画像取得装置、ランク推定装置、枝肉横断画像出力装置、画像取得方法、ランク推定方法、枝肉横断画像出力方法、およびプログラム	令和３年１月20日	令和６年11月19日	小峰央志（株式会社MIJ labo）、石川雄治、原恵、齋藤大士

（４）特許出願
なし

（５）勤務発明届

発明の名称	届出日	発明者
水稲「福島59号」	令和７年３月２４日	吉田直史、齋藤隆、佐藤園子、我妻わか菜、大野光、小林恭子、渡邉洋一、菅野拓朗、渡邊滉士、菅野史佳、大寺真史、佐藤郁恵、松崎拓真、馬上瑤子、佐藤弘一、吉川学、南隼人、川島史寛、横田佳奈子、斎藤真一
リンドウ「福島栄24号」	令和７年３月２４日	大竹智美、田中智子、松野香子、宍戸邦明、福田秀之、尾形正幸、有賀保奈美、野田正浩
ナシ「ナシ福島７号」	令和７年３月２４日	吉田小夏、額田光彦、芝祥太郎、岡田初彦、大橋義孝、佐藤守

７ 技術開発に伴う表彰・学位取得

（１）表彰

ア　「東北農業研究第 77 号」論文賞（水田作部会）［主催　東北農業試験研究協議会］
鈴木寛人、新妻和敏（作物園芸部稲作科）
「2023 年夏季高温下での出穂期追肥による玄米品質への影響」

イ　「東北農業研究第 77 号」論文賞（経営部会）［主催　東北農業試験研究協議会］
小泉拓真（企画経営部経営・農作業科）
「データベースを活用した経営シミュレーションツールの開発」

（２）学位取得　　該当なし

8 有識者懇談会の開催

技術開発、地域農業支援、先進的農業者の育成、食の安全の確保、県民との交流等の全国的な動向や、県内の農業者及び消費者のニーズを把握し、より的確かつ効果的に業務推進を図ることを目的に、外部の有識者から意見を頂く「福島県農業総合センター有識者懇談会」を開催した。

（1）有識者懇談会の開催

開催日	開催場所	テ　ー　マ
令和6年 7月3日	農業総合センター 果樹研究所	1 ほ場視察 2 農業総合センターの令和5年度事業実績と令和6年度の取組について 3 農業短期大学校の取組について 4 令和7年度以降の試験研究取組について

（2）有識者委員（敬称略）

氏名	所属・役職名等
河野　恵信	国立大学法人福島大学農学群食農学類農業経営学　教授
浦嶋　泰文	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター 農業放射線研究センター　センター長
今泉　仁寿	福島県農業協同組合中央会　常務理事
橋本　洋美	福島県指導農業士会　監事
野崎　玲子	みやぎ生協コープふくしま　地域代表理事

9 技術・研究に関する職員研修

No	研 修 名	所属・職名	氏　名	研修主催機関	研修テーマ	研修期間
1	中央畜産技術研修会(肉用牛生産技術指導者養成(1)(専門))	畜産研究所 研究員	堀江太樹	農林水産省	肉用牛管理指導を行うための技術習得	6/ 5- 6/ 7
2	和牛入門ゼミナール（講義の部）	畜産研究所 主任研究員	遠藤幸洋	(公社)全国和牛登録協会	和牛の登録、審査、検査、改良の基礎知識の習得	6/13-14
3	研究職員派遣研修	果樹研究所 研究員	佐藤寛人	(国研)農研機構果樹茶業研究部門	ナシの機械化・省力栽培技術の確立	7/ 1-/31
4	農林水産関係研究リーダー研修	会津地域研究所 所長 浜地域研究所 所長	野田正浩 齋藤 隆	農林水産省	研究リーダーとして必要な知見の習得及び能力の向上	7/ 9- 7/10
5	牛ゲノム選抜手法研修	畜産研究所 主任研究員 研究員	瀧脇広子 谷内田 柊	(公社)畜産技術協会	ゲノム解析、SNP情報抽出に必要な知識・技術の習得	7/22- 7/26
6	次世代ふくしまの畜産推進事業に係る和牛登録審査研修会	畜産研究所 主任研究員	遠藤幸洋	（公社）全国和牛登録協会福島県支部	和牛繁殖雌牛の登録審査技術の習得	7/23- 7/25
7	耕地雑草の生態と防除技術に関する研修	安全農業推進部 技師	小野祥児	(国研)農研機構植物防疫研究部門	ナガエツルノゲイトウを例とした耕地雑草の防除技術の習得	8/27- 8/28
8	中央畜産技術研修会(肉用牛生産技術指導者養成(2)(専門))	畜産研究所 研究員	小松一樹	農林水産省	肉用牛管理の指導に必要な技術習得	9/30-10/ 4

No	研 修 名	所属・職名	氏　名	研修主催機関	研修テーマ	研修期間
9	地方審査委員認定講習会	畜産研究所 主任研究員	遠藤幸洋	(公社)全国和牛登録協会	和牛の登録・審査業務を行う地方審査委員の認定	10/ 1- 4
10	研究職員派遣研修	浜地域研究所 副主任研究員	南 隼人	(国研)農研機構　中日本農業研究センター	福島県におけるコムギの発育段階モデルの開発	10/ 7-10/11
11	農林水産関係若手研究者研修	生産環境部 研究員	渡部大河	農林水産省	知的財産、研究倫理等に関する基礎知識の習得	10/10-10/11
12	中央畜産技術研修会(畜産環境保全(堆肥化処理、利用技術))	畜産研究所 副主任研究員	木村有希	農林水産省	堆肥生産・利用に必要な技術習得	10/21-10/25
13	牛ゲノム選抜手法研修	畜産研究所 主任研究員 研究員	瀧脇広子 谷内田 柊	(公社)畜産技術協会	ゲノム解析、SNP情報抽出に必要な知識・技術の習得	10/21-10/25
14	令和６年度和牛技術者養成講習会	畜産研究所 研究員	猪腰雄也	(公社)全国和牛登録協会	和牛の登記・登録業務に必要な知識・技術の習得	10/25
15	中央畜産技術研修会(畜産統計処理)(基礎)	畜産研究所 研究員	猪腰雄也	農林水産省	畜産統計処理に関する理論習得	11/11-11/15
16	研究職員派遣研修	生産環境部 副主任研究員	前原 瞳	山形大学 農学部	UAV（ドローン）による水稲・大豆各種病害の被害評価の検証	11/18-12/13
17	中央畜産技術研修会(畜産新技術)(総合)	畜産研究所 主任研究員	瀧脇広子	農林水産省	畜産の最新技術に関する理論習得	11/26-11/29
18	病害虫防除所職員等中央研修	安全農業推進部 技師	今井麻奈	農林水産省	発生予察事業等に関する基礎的知識及び技術の習得	12/17-12/20
19	中央畜産技術研修会(統計遺伝育種学)(専門)	畜産研究所 研究員	谷内田 柊	農林水産省	推定育種価およびゲノム育種価算出に関する理論習得	1/20-1/24
20	普及指導員研修	有機農業推進室 主査(ｷｬｯﾌﾟ)	木幡由美子	農林水産省	みどりの食料システム戦略研修Ⅰ(有機農業)	1/28- 1/29
21	東北地区病害虫防除所職員等研修会	安全農業推進部 技師	今井麻奈	東北農政局	チョウ目の識別法について	2/17
22	全国和牛登録協会福島県支部事務研修	畜産研究所 主任研究員	遠藤幸洋	(公社)全国和牛登録協会福島県支部	和牛の登録の実務を習得	3/14
23	農作業安全推進研修	農業短期大学校 教務	源 祐生	農林水産省	農作業安全の総合的な講義・実習を行うための知識・技術の習得	8/27- 8/30

１０　試験研究推進会議の開催

現場と密着した実用性の高い技術開発と迅速な技術移転を図ることを目的に、センター本部、会津地域研究所、浜地域研究所、果樹研究所及び畜産研究所ごとに農業者(指導農業士等)、団体、市町村を構成員とした「試験研究推進会議」を下記のとおり会議を開催した。

開 催 日	部門・開催場所	出　席　者					内　　容
		農業者	市町村	JA	県関係	関係機関	
令和6年 10月22日	本部	6	15	6	8	3	1 農業総合センターにおける試験研究成果について 2 試験研究に関する事前アンケートの結果について
令和6年 6月19日	果樹	3	5	4	15	1	1 令和6年度試験研究課題について 2 研究成果について 3 試験研究に要望する課題について
令和6年 10月31日～ 11月20日	畜産（書面開催）	4	20	5	15	13	1 試験研究課題及び成果について
令和6年 9月 3日	会津地域	1	4	4	4	0	1 会津地域研究所の取組概要について 2 地域の課題と試験研究への要望について 3 所内ほ場視察
令和6年 10月30日	浜地域 （大熊町、南相馬市）	0	13	5	12	－	1 浜地域研究所の試験研究の取組について 2 解決が必要な技術的課題と研究に関する意見・要望について

※ 浜地域農業再生研究センター業務連携会議　令和7年3月（書面開催）

１１　所内ゼミ

回	開催日	場　所	内　　容	講　　師		出席者数
1	令和６年 4月15日	大会議室*	初任者、転入者 センター職員としての心構え 試験研究の進め方 設計、成績書の書き方	所長 企画技術科長 主任研究員	小久保仁子 木幡栄子 野田智美	38名
2	5月 1日 9日	多目的ホール*	研究倫理 日本学術振興会 農林水産省	e-ラーニング	－	88名
3	5月 6日	大会議室*	統計 実験計画法 Ｒの使い方	畜産研究所主任研究員	矢内 伸佳	40名
4	6月28日	大会議室*	第67回東北農業試験研究発表会予演会	発表予定者	16名	52名
5	7月16日	多目的ホール	救命救急講習会 普通救命講習	郡山消防署日和田分署署員	4名	22名
6	10月25日	大会議室*	統計 Ｒの使い方	生産環境部作物保護科	前原 瞳	16名
7	令和7年 2月19日	多目的ホール*	研修報告会	生産環境部作物保護科 果樹研究所栽培科 浜地域研究所	前原 瞳 佐藤 寛人 南　隼人	44名
8	3月25日	多目的ホール*	先輩を囲む集い （県職員、又は研究員としての経験から得た教訓等）	主幹兼副部長兼指導・有機認証課長 果樹研究所長	仁井 智己 志村 浩雄	96 名

＊はオンライン同時開催

１２　初任者研修・新規採用職員研修

回	開催日	開催場所	内　　容	講　　師
1	令和6年 4月15日	大会議室*	センター職員としての心構え 試験研究の進め方 設計、成績書の書き方	所長 センター職員
2	令和7年 3月13日	多目的ホール*	OJTの実績報告及び自己評価を題材としたプレゼンテーション実践	―

＊はオンライン同時開催

１３　その他研修

回	開催日	開催場所	内　　容	講　　師
1	令和6年 7月4日	多目的ホール*	農林水産試験研究育成方針 研究に係る制度 外部資金管理の適正な事務他	農業振興課 主任主査　鈴木 安和 副主査　佐藤 翔平
3	12月 6日	多目的ホール*	統計基礎研修	東北大学大学院農学研究科 特任教授　池田 郁男

＊はオンライン同時開催

Ⅲ　地域農業支援

1 技術移転・技術支援

（1）技術移転セミナー

地域ごとにセミナーを開催し、普及に移しうる成果、参考となる成果、営農再開実証技術情報等の農業総合センターの試験研究成果の現地への円滑な技術移転を図るとともに、意見交換を行った。

回	月日	場所	テーマ等	内　容　、　講　師	出席者数
1	9/ 6	郡山市 (農業総合センター)	水稲高温対策	○2023年の夏季高温による水稲への影響と高温対策 作物園芸部稲作科 副主任研究員 齋藤正頼	60名
2	9/ 6	郡山市 (農業総合センター)	きゅうりのつるおろし栽培	○キュウリの「つるおろし」栽培 浜地域研究所 副主任研究員 古川鞠子	40名
3	9/12	福島市 (果樹研究所)	ナシ・ブドウ・リンゴ・モモにおける最新の栽培技術と品種紹介、病害虫防除等について	○ナシ「王秋」のJV樹形による早期成園化 果樹研究所栽培科 研究員 佐藤寛人 ○ナシ黒星病防除のための秋期落葉処理 果樹研究所病害虫科 研究員 小松健太郎 ○水稲育苗ハウスを利用したブドウの盛土式根圏制御栽培 果樹研究所栽培科 主任研究員 尾形亜希子 ○ブドウの病害防除に関する最新知見 果樹研究所病害虫科 副主任研究員 日下部翔平 ○高温年でも着色が優れるリンゴ「べにこはく」 果樹研究所栽培科 研究員 穴澤拓哉 ○「あかつき」の生育前進と生育予測システムの改良 果樹研究所栽培科 副主任研究員 髙橋尭之 ○「あかつき」とリレー販売できる「モモ福島18・19号」の育成 果樹研究所栽培科 専門員 佐久間宣昭 ○モモのカイガラムシ対策と侵入を警戒する外来カミキリムシ 果樹研究所病害虫科 研究員 髙橋佳大	160名
4	10/ 7	川内村 (コミュニティセンター)	川内村におけるピーマンの簡易かん水システムの現地検討会	○川内村におけるピーマンの簡易灌水システムの実証研究について 浜地域農業再生研究センター 研究員 小椋智文 ○ピーマンの出荷・販売実績について 福島さくら農業協同組合 ふたば統括センター 営農課 課長補佐 山田昌弘	17名
5	11/15	南相馬市 (南相馬市民情報交流センター)	相双地方における難防除雑草の発生実態と対策技術	○日本で確認された多剤抵抗性ノビエと有効除草剤について (国研)農研機構中日本農業研究センター　内野　彰 ○福島県における除草剤抵抗性ノビエの発生実態 浜地域研究所　副主任研究員　吉川　学 ○除染後畑地のスギナ防除対策 浜地域農業再生研究センター　副主任研究員　佐藤越萌 ○福島県相双地方の雑草防除における現状と課題 相双農林事務所　主査　菅野拓朗	19名

注)＊はオンライン参加者含む。

（２）成果発表会

令和６年度に当センターの試験研究で得られた各分野の最新研究成果を中心に、会場及びオンラインにより研究成果発表会を開催し、広く情報の共有を図った。

回	月日	場所	テーマ等	内　　容	出席者数
1	2/28	郡山市 （農業総合センター）	令和6年度研究成果発表（本部）	○稲作・畑作・野菜・花きに関する成果 ○作物共通に関する成果	82名 (20)
2	3/ 4	白河市 （表郷公民館）	令和6年度研究成果発表（県南）	○県南地域の稲作・畑作・野菜・花きに関する成果 ○作物共通に関する成果	36名
3	3/ 4	郡山市 （農業総合センター）	令和6年度研究成果発表（畜産）	○畜産に関する成果	24名 (12)
4	3/10	大熊町 （Linkる大熊）	令和6年度研究成果発表（浜）	○浜地域の農業、営農再開に関する成果 ○農林水産分野の先端技術展開事業の取組	65名 (23)
5	3/11	会津若松市 （会津若松市コミュニティ施設ピカリンホール）	令和6年度研究成果発表（会津）	○会津地域の稲作・畑作・果樹に関する成果	60名 (13)
6	3/12	福島市 （JA福島ビル）	令和6年度研究成果発表（果樹）	○ニホンナシ・モモ・リンゴ・ブドウに関する成果 ○晩霜害対策	133名 (25)

注)Zoom によるオンライン開催併用であり、出席者数の(　)はオンライン参加者数

（３）技術支援(鳥獣害防止対策)

内　　容	支援地方 、 実施月日	担当者
県段階活動支援 （県段階連携活動、各種研修支援等）	県全域　5回 令和6年　5/10、8/2、8/28 令和7年　2/25、2/28	企画技術科 副主任研究員 廣瀬允康
地方会議活動支援 （地方会議、モデル集落・重点支援集落活動等）	全3回 県北　6/27 県南　10/25 南会津　2/19※	
その他	個人等　1回 試験研究機関野生鳥獣関係情報交換会　3回	

※資料提供

２　指導・啓発活動

研修会の講師及び資料の作成、配付により技術の普及を図った。

（１）研修会

No	所属	担当者	内　　容	月日	主　催　者
1	－	小久保仁子	福島県の農業の現状と課題並びに展望について	2/21	白河土地改良区
2	安全農業推進部 有機農業推進室 企画経営部 作物園芸部	仁井智己 田口明広 新田耕作 本馬昌直 大竹祐一 新妻和敏	JICA 研修員研修 農業総合センターの概要 福島県の稲作の概要 品種の育成、種子生産、先進技術開発 福島県の有機農業の概要 試験研究と普及現場の連携	7/23	JICA
3	安全農業推進部 作物園芸部 果樹研究所	仁井智己 伊藤博樹 遠藤美咲 山田真孝 新妻和敏 中村　淳	福島県農薬管理指導士認定研修	11/19 － 11/20	福島県
4	安全農業推進部 生産環境部 作物園芸部 果樹研究所	遠藤美咲 山田真孝 新妻和敏 中村 淳	福島県農薬適正使用アドバイザ-認定研修	11/19 11/28	福島県
5	企画経営部 生産環境部 作物園芸部 果樹研究所 浜地域研究所	青田 聡 堀越紀夫 渡部大河 齋藤江里 成田元樹 北郷公大 佐藤寛人 小松健太郎 佐藤弘一 古川鞠子	ＪＡ福島さくら営農指導員会議	12/17	ＪＡ福島さくら
6	安全農業推進部	石川万里那 今井麻奈	令和６年度第２回南郷トマト講座	2/13	南会津農林事務所
7		小野祥児	農作物病害虫防除公開セミナー（本県で初確認された雑草ナガエツルノゲイトウの見分け方と対策）	2/18	福島県病害虫防除所
8		藤田剛輝	農作物病害虫防除公開セミナー（令和６年に確認された果樹類のカイガラムシの発生時期や発生種の変化）	2/18	福島県病害虫防除所
9		瀧田誠一郎	農作物病害虫防除公開セミナー（本県における果樹カメムシの多発生について）	2/18	福島県病害虫防除所
10		石川万里那	農作物病害虫防除公開セミナー（本県で初確認されたサツマイモ基腐病の発生と対策）	2/18	福島県病害虫防除所
11		今井麻奈	農作物病害虫防除公開セミナー（野菜・花き類のハスモンヨトウの発生について）	2/18	福島県病害虫防除所
12		菅田 充	住友化学農薬セミナー（本年度における水田病害虫の発生状況と防除対策）	2/ 6	住友化学（株）東日本営業所

No	所属	担当者	内　　容	月日	主　催　者
13	有機農業推進室	木幡由美子	令和６年度就農研修(中級)	6/ 6	農業短期大学校
14		八代祐弥	令和６年度就農研修(中級)	6/14	農業短期大学校
15		木幡由美子	令和６年度就農研修(中級)	7/30	農業短期大学校
16		木幡由美子	「夢みる給食」上映会・お話会 (有機農業・有機農産物について)	1/27	NPO法人子ども未来クラブ Good Day Market実行委員会
17	企画経営部	廣瀬允康	専門技術向上研修(GAP推進・鳥獣被害対策)	6/11	農業振興課
18		宮川貴光 作田善紀	令和６年度就農研修(中級) ブロッコリー選別自動収穫機の開発	7/11	農業短期大学校
19		青田 聡	視察研修(県内の農作業負傷事故の発生事例)	8/ 7	小美玉農業公社
20		作田善紀	視察研修(農作業事故の発生現場におけるGAP管理点の遵守状況)		
21		廣瀬允康	令和６年度就農研修(中級)	8/28	農業短期大学校
22		岡本和夫	令和６年度農業経営管理研修(基礎)	10/21 22	農業振興課
23		岡本和夫	令和６年度農業経営管理研修(応用)	10/28 29	農業振興課
24		小貫 恵	農林土木技術研修	10/31	農林技術課
25		青田 聡	視察研修(ハウス内環境を遠隔監視できる安価なシステムの導入事例)	11/ 5	富良野市農業委員会
26		小泉拓真	視察研修(データベースを活用した経営シュミレーションツール)	11/13	西条地区青年農業者連絡協議会
27		廣瀬允康	二本松市集落での獣害対策研修会	12/ 1	県北農林事務所 安達農業普及所
28		小貫 恵	農業用水利施設管理省力化ロボットの開発	12/ 5	西山地域開発協議会

No	所属	担当者	内　　容	月日	主　催　者
29	企画経営部	青田 聡	新規就農者向け園芸基礎講座(農作業安全について)	1/30	田村農業普及所
30		廣瀬允康	安達郡果樹部会でのカラス対策	2/25	安達農業普及所
31		青田 聡	視察研修(ハウス内環境を遠隔監視できる安価なシステムの導入事例)	2/25	JA はぐくみ
32		廣瀬允康	令和６年度南会津地方ソバ栽培における鳥獣被害対策研修会	2/28	南会津農林事務所
33	生産環境部	岡崎一博	原子力災害に伴う放射性物質対策について	6/ 3	海外農業開発コンサルタンツ協会（ADCA）
34		堀越紀夫	第２回花き技術情報会議(トルコギキョウ現地検討会)	6/19	農業振興課
35		渡邉ゆきの	ブルーベリー冷凍技術指導会	6/19	三春ブルーベリー倶楽部
36		岡崎一博 南 春菜	松川地区ブドウ排水対策について	6/26	JA ふくしま未来 他
37		前原 瞳 松木伸浩	専門技術向上研修(作物)	7/11	農業振興課
38		宍戸邦明	令和６年度新規就農者等と農業士交流勉強会（野菜病害防除）	7/23	県南農林事務所
39		堀越紀夫 宍戸邦明 渡邉秀明	専門技術向上研修(野菜・花き)	7/24	農業振興課
40		木村真澄	令和６年度いちご「ゆうやけベリー」栽培検討会 ※品種開発科、野菜科とともに対応	8/30	園芸課
41		堀越紀夫	第１回ひとつ、ひとつ、実現する郡山農業塾(病害虫防除編)	9/18	県中農林事務所
42		佐藤綾香	令和６年度技術交流まつり	9/20	県産品加工支援センター他
43		木村真澄	令和６年度県北地方園芸振興セミナー ※品種開発科、野菜科とともに対応	11/ 6	県北農林事務所、県北地方新たなふくしまの未来を拓く園芸振興推進会議
44		半澤勝拓	JA 新潟かがやき視察研修(カーボンニュートラルを実現する水田管理「秋耕＋長期中干し」)	11/14	JA 新潟かがやき

No	所属	担当者	内　　容	月日	主　催　者
45	生産環境部	堀越紀夫	令和６年度農薬管理指導士・福島県農薬適正使用アドバイザー認定研修(中通り)	11/19	環境保全農業課
46		松木伸浩	近年、問題となっている病害虫	11/21	福島県農薬商業協同組合
47		堀越紀夫	いちご栽培管理指導会(炭疽病対策)	11/27	ＪＡふくしま未来伊達地区いちご生産部会
48		渡邉ゆきの	ブルーベリー冷凍技術指導会	11/27	三春ブルーベリー倶楽部
49		堀越紀夫	令和６年度農薬管理指導士・福島県農薬適正使用アドバイザー認定研修(会津)	11/28	環境保全農業課
50		堀越紀夫	トマト黄化葉巻病対策研修会	11/29	県中農林事務所
51		松木伸浩	土づくり研修会(近年、問題となっている水稲病害虫)	12/ 2	JA 全農福島
52		半澤勝拓	令和６年度「土づくり研修会(水稲の高温対策と良食味に向けた稲づくり)」	12/ 2	JA 全農福島
53		堀越紀夫	ＪＡ福島さくらたむら地区園芸部会ピーマン専門部会生産者全体研修会	12/ 3	JA 福島さくら
54		半澤勝拓	令和６年度第３回南会津地方新規就農者等冬期研修会(土づくりと施肥について)	12/10	南会津農林事務所
55		半澤勝拓	令和６年度ふくしま土の会合同「土壌研修会」（南相馬市小高区）(「堆肥による土づくり」～堆肥の連用効果について～)	12/12	ふくしま土の会
56		堀越紀夫	令和６年度 南会津地方リンドウ病害対策セミナー	12/13	南会津農林事務所南郷普及所
57		宍戸邦明	トマト土壌病害対策講習会	12/13	JA 会津よつば
58		半澤勝拓	令和６年度第４回会津農林事務所新規就農者等研修会(土づくりと施肥について)	12/18	会津農林事務所
59		堀越紀夫	令和６年度いわき地方ねぎ振興セミナー	1/21	いわき農林事務所
60		宍戸邦明	飯舘村花き勉強会(トルコギキョウ立枯病対策)	1/21	飯舘村

No	所属	担当者	内　　容	月日	主　催　者
61	生産環境部	堀越紀夫	令和６年度「新規就農者向け園芸基礎講座」	1/30	県中農林事務所田村農業普及所
62		堀越紀夫	きゅうり栽培技術紹介(病害虫防除)	2/ 5	JA 全農福島
63		堀越紀夫	トマト黄化葉巻病勉強会	2/ 6	県南農林事務所
64		半澤勝拓	令和６年度第６回きゅうり基礎力アップ研修会(土壌と土づくりについて)	2/ 6	県中農林事務所須賀川農業普及所
65		松木伸浩	スマート農業等に関する稲作講習会(斑点米カメムシ類の生態と防除対策について)	2/ 7	県中農林事務所田村農業普及所
66		岡崎一博	放射性物質モニタンリング、農地除染及び放射性物質対策について	2/18	神崎稲作研究会
67		松木伸浩	農作物病害虫防除公開セミナー(斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、イネカメムシ等)の発生地域拡大に注意)	2/18	福島県病害虫防除所
68		渡邉秀明	福島県トルコギキョウ土壌病害対策セミナー(土壌病害防除における留意点)	2/18	農業振興課
69	作物園芸部	雨宮潤子	福島県生活研究グループ連絡協議会 令和６年度リーダー研修会	4/22	福島県生活研究グループ連絡協議会
70		新妻和敏	専門技術向上研修(作物)	5/27	農業振興課
71		新妻和敏	ブラジル日系社会ビジネス交流会	5/30	JICA
72		金澤優紀	水稲種子場生産者研修会	6/ 5	福島県米改良協会
73		鈴木寛人	水稲生育管理等指導講習会	7/ 1	全国肥料商連合会福島県部会
74		鈴木寛人	「福､笑い」現地検討会	7/11	水田畑作課
75		鈴木寛人	やまろく米出荷協議会視察研修会	7/12	やまろく米出荷協議会
76		新妻和敏	「福､笑い」視察研修	7/12	JA ふくしま未来安達地区営農経済部

No	所属	担当者	内　　容	月日	主　催　者
77	作物園芸部	新妻和敏	専門技術向上研修(作物)	7/18	農業振興課
78		五十嵐秀樹 大寺真史 齋藤江里	専門技術向上研修(作物)	7/24	農業振興課
79		雨宮潤子	園芸施設共済損害評価技術研修会	7/26	福島県農業共済組合
80		金澤優紀	「福、笑い」視察研修	8/26	喜多方農業普及所
81		新妻和敏	「福、笑い」視察研修	9/ 3	JA ふくしま未来安達地区営農経済部
82		新妻和敏	米穀店向け産地視察ツアー	10/ 3	農産物流通課
83		新妻和敏	専門技術向上研修(作物)	10/11	農業振興課
84		新妻和敏	下妻市農業委員会研修会	10/29	下妻市農業委員会
85		金澤優紀	石川地方農業委員会連合会研修会	10/30	石川地方農業委員会連合会
86		福田秀之	JA 会津よつばかすみ草専門部会視察研修	11/ 5	JA 会津よつばかすみ草専門部会
87		門田智絵 成田元樹	令和６年度県北地方園芸振興セミナー	11/ 6	県北農林事務所
88		福田秀之	JA 山形おきたまアルストロメリア振興部会視察研修会	11/ 6	JA 山形おきたまアルストロメリア振興部会
89		齋藤正頼	JA 新潟かがやき視察研修会	11/14	JA 新潟かがやき
90		北郷公大	令和６年度県中地方園芸振興セミナー	11/27	県中農林事務所
91		成田元樹	令和６年度須賀川・石川地方「ゆうやけベリー」栽培研修会	11/28	県中農林事務所
92		新妻和敏	土づくり研修会	12/ 2	JA 全農福島

No	所属	担当者	内　　容	月日	主　催　者
93	作物園芸部	新妻和敏	西山地域開発協議会研修会	12/ 5	西山地域開発協議会
94		成田元樹 北郷公大	JA 福島さくら営農指導員会議	12/17	JA 福島さくら
95		五十嵐秀樹	畑作物セミナー	1/21	水田畑作課
96		新妻和敏	桑折町認定農業者会研修会	2/13	桑折町認定農業者会
97		金澤優紀	「福、笑い」研究会説明会	3/13	水田畑作課
92	果樹研究所	岡田初彦	令和 6 年度農業ふれあい体験事業	5/25	福島市農業委員会
93		佐久間宣昭 小松健太郎 阿部初紀	福島大学農学群食農学類学生実習	5/30 6/ 6 6/13 6/20	福島大学農学群食農学類
94		志村浩雄 髙橋尭之 日下部翔平	全国モモ研究大会	6/ 6	JA 全農福島
95		日下部翔平	福島大学農学群食農学類学生講義	7/ 1	福島大学
96		日下部翔平 髙橋佳大	専門技術向上研修(果樹病害虫)	7/ 5	農業振興課
97		中村 淳	応用昆虫学	7/ 8	福島大学
98		岡田初彦	2024 年夏期種苗研修会	7/25	日本果樹種苗協会
99		小松健太郎	ナシ黒星病対策研修会	11/15	県南農林事務所
100		中村 淳	病害虫管理学	12/ 2	福島大学
101		志村浩雄 中村 淳	令和 6 年度飯坂東地区おうとう栽培販売反省会	12/10	JA ふくしま未来おうとう専門部会湯野班
102		中村 淳	農薬講習会	12/23	福島県農薬商業組合

No	所属	担当者	内　　容	月日	主　催　者
103		志村浩雄 岡田初彦 佐藤寛人	日本なしジョイントV字トレリス栽培現地検討会	12/25	県北農林事務所農業振興普及部
104		髙橋佳大	令和７年度版果樹栽培防除暦説明会	1/14	JAふくしま未来伊達営農センター
105		髙橋佳大	令和７年度版果樹栽培防除暦説明会	1/16	JAふくしま未来桑折営農センター
106		志村浩雄 尾形亜希子 穴澤拓哉 佐藤寛人	園友会冬季研修会	1/17	園友会
107		佐藤寛人	令和６年度スマート農業社会実装推進事業実証ほ(なし)現地検討会	1/19	相双農林事務所農業振興普及部
108		髙橋佳大	令和７年度版果樹栽培防除暦説明会	1/20	JAふくしま未来国見営農センター
109		志村浩雄 岡田初彦 穴澤拓哉	リンゴ剪定講習会	1/21	福島市園芸農産振興会
110	果樹研究所	尾形亜希子 瓜生武司 穴澤拓哉 佐藤寛人 志村浩雄 中村 淳 阿部初紀	果樹経営者研修会経営発展研修会	1/30 -31	果樹経営者研究会
111		髙橋佳大	令和７年度版果樹栽培防除暦説明会	1/30	JA夢みなみ須賀川東支店
112		中村 淳	令和６年度北福島区域農業委員・農地利用最適化推進委員、認定農業者会合同研修会	2/ 6	福島市農業委員会北福島区域協議会 福島市認定農業者会北福島支部
113		志村浩雄	富女子会せん定講習会	2/ 7	富女子会
114		佐久間宣昭	JA ふくしま未来桑折地区青果物総合反省会	2/10	JAふくしま未来桑折支店
115		阿部初紀	福島りんご研究会第55回通常総会	2/28	福島りんご研究会
116		阿部初紀	病害虫に関する講習会	3/ 6	野田果樹共同防除組合
117		阿部初紀	モモ害虫勉強会	3/10	桑折町果樹研究会

No	所属	担当者	内　　容	月日	主　催　者
118	畜産研究所	萩原 瞳 木村有希 菅野那奈	専門技術向上研修(牧草生産管理)	5/21	農業振興課
119		遠藤幸洋 齋藤美緒	専門技術向上研修(放牧及び草地管理)	6/27	農業振興課
120		遠藤幸洋	令和６年度畜産経営学科県内研修 (和牛の登録審査、和牛の見方)	7/ 5	農業短期大学校
121		鈴木浩之 吉田朋恵	専門技術向上研修(酪農)	7/11 7/12	農業振興課
122		萩原 瞳 木村有希 菅野那奈	専門技術向上研修(トウモロコシ)	8/ 1	農業振興課
123		小松一樹	セリ前ワンポイント講座「現場後代検定」	8/ 6 -7	JA 全農福島
124		古閑文哉 猪腰雄也	セリ前ワンポイント講座「福島県基幹種雄牛」	9/ 4 -5	JA 全農福島
125		佐藤妙子	令和６年度肉用鶏飼養農家研修会	9/13	県北家畜保健衛生所
126		堀江太樹 齋藤美緒	生産者育成研修会「AI を活用した超音波画像診断について」、「子牛の飼養管理について」	9/19	公益社団法人福島県畜産振興協会
127		中村フチ子 尾形賢治	専門技術向上研修(養鶏、養豚)	10/17	農業振興課
128		古閑文哉 矢内伸佳	専門技術向上研修(肉用牛)	11/ 6	農業振興課
129		齋藤美緒 遠藤幸洋	専門技術向上研修(肉用牛)	11/14	農業振興課
130		猪腰雄也	JA ふくしま未来安達地区和牛繁殖部会大玉・白沢・本宮支部合同研修会「福島県基幹種雄牛について」	1/23	JA ふくしま未来
131		佐藤妙子	やまがた地鶏の生産拡大に向けた研修会	1/28	山形県農林水産部畜産振興課
132		齋藤美緒 遠藤幸洋	セリ前ワンポイント講座「繁殖管理と子牛の育成管理のポイント」	2/ 5 － 6	JA 全農福島
133		遠藤幸洋	令和６年度畜産繁殖技術セミナー 「より良い子牛の生産技術について」	2/12	県中農林事務所田村農業普及所

No	所属	担当者	内　　容	月日	主　催　者
134	畜産研究所	小松一樹	JA グループ福島肉牛協議会全体研修会「福粕花に関する研究成果」	2/14	JA 全農福島
135		猪腰雄也	令和６年度家畜人工授精業務に係る法令研修会「県有種雄牛の紹介」	2/20	福島県家畜人工授精師協会
136		木村有希 菅野那奈	セリ前ワンポイント講座「永続性の高い牧草の紹介」	3/ 5 － 6	JA 全農福島
137	会津地域研究所	中村陽登 江川孝二	会津オタネニンジン研究会	4/23 5/28 9/17 10/22 12/10	新鶴温泉んだ
138		中村陽登	オタネニンジン栽培研修会	6/13 8/21 10/24	会津農林事務所
139		小森秀雄	水稲の生育と今後の肥培管理	7/ 4	全肥商連福島県部会会津支部会
140		小森秀雄	水稲の生育と今後の肥培管理	7/ 9	JA 会津よつば
141		小森秀雄	水稲の生育と高温対策管理	7/18	会津農林事務所
142		小森秀雄	水稲の生育と高温対策管理	8/ 8	JA 会津よつば西部稲作部会
143		佐久間祐樹 中村陽登	フレッシュ農業ガイド講座	9/12	会津農林事務所
144		小森秀雄	2024 年水稲の生育と次年度の対策	2/17	JA 会津よつば
145	浜地域研究所	佐藤弘一	水稲生育管理等現地指導講習会	7/ 3	全肥肥料商連合会福島県部会
146		吉川 学 南 隼人	小麦播種指導会	10/23	JA ふくしま未来
147		齋藤 隆	野菜・花卉園芸学特論（院）	1/27	福島大学
148		吉川 学	福島県において国内で初めて発出したナガエツルノゲイトウ特殊報について	3/ 7	農研機構
149	浜地域農業再生研究センター	小椋智文	相双地域タマネギ生産振興セミナー	12/ 5	相双農林事務所

（２）技術指導資料

No	所　　属	掲 載 資 料 名	発行月	発　　行
1	園芸課 農産物流通課 生産環境部 作物園芸部	「ゆうやけベリー」栽培の手引き(改訂版)	6.9	園芸課
2	浜地域研究所	施設キュウリの夏秋作型における簡易なつる下ろし栽培マニュアル～福島型つる下ろし栽培～（第１版）	7.3	農業総合センター
3	浜地域研究所	ナガエツルノゲイトウ識別のための技術資料	8.8	農業総合センター

（３）技術相談対応件数

部　　所		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
安全農業推進部	指導・有機認証課	22	13	18	11	5	16	14	14	9	10	8	15	155
	発生予察課	4	7	5	7	20	4	7	8	1	0	0	1	64
	分析課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	部合計	26	20	23	18	25	20	21	22	10	10	8	16	219
有機農業推進室		1	0	2	4	4	5	3	15	14	1	3	0	52
企画経営部	企画技術科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	経営・農作業科	0	4	3	1	3	2	0	0	1	0	0	0	14
	部合計	0	4	3	1	3	2	0	0	2	0	0	0	15
生産環境部	作物保護科	11	25	10	16	22	17	10	3	4	1	2	3	124
	環境・作物栄養科	2	2	3	2	2	3	2	3	2	1	2	2	26
	流通加工科	0	0	2	1	1	0	2	1	0	0	1	0	8
	部合計	13	27	15	19	25	20	14	7	6	2	5	5	158
作物園芸部	品種開発科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	稲作科	3	6	4	4	3	1	3	2	2	3	0	2	33
	畑作科	0	2	2	3	1	2	6	5	0	1	0	0	22
	野菜科	0	1	2	1	1	0	4	3	3	0	3	2	20
	花き科	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
	部合計	5	9	9	8	5	3	14	10	5	4	3	4	79
本 部 合 計		45	60	52	50	62	50	52	54	37	17	19	25	523
果樹研究所		20	27	29	32	21	16	16	11	7	11	13	7	210
畜産研究所		1	3	8	4	5	3	2	6	2	1	3	1	39
会津地域研究所		8	7	6	6	6	6	4	3	3	3	3	3	58
浜地域研究所		1	6	1	2	3	0	0	1	1	0	0	0	15
浜地域農業再生研究センター		7	5	8	9	3	7	3	4	6	5	4	2	63
農業総合センター合計		82	108	104	103	100	82	77	79	56	37	42	38	908

３ 主要農作物種子生産実績

福島県主要農作物種子生産取扱基本要綱に基づき、原原種・原種ほを設置し、優良種子を生産することにより本県主要農作物の生産性と品質向上を図った。

（１）担当者

所　属	職	氏　名	担当作物
事務部農場管理課	主任主査（兼）課長	笹川　正樹	－
作物園芸部	部　長	本馬　昌直	－
稲作科	科　長	新妻　和敏	水稲
	研究員	金澤　優紀	水稲
畑作科	科　長	五十嵐　秀樹	小麦、大豆
	副主任研究員	佐藤　郁恵	小麦、大豆
会津地域研究所	所　長	野田　正浩	－
	専門研究員	芳賀　紀之	水稲、小麦
	主任研究員	佐久間　祐樹	水稲、小麦
	主任研究員	小森　秀雄	水稲
	主任研究員	真部　武	小麦
浜地域研究所	専門研究員	佐藤　弘一	水稲

（２）原原種・原種ほ設置面積

項目		水 稲(a)	小 麦(a)	大 麦(a)	大 豆(a)
原原種	直 営	5.0	0.0	0.0	16.0
原　種	直 営	439.0	36.0	0.0	119.1
	委 託	0.0	0.0	0.0	0.0
合　計		444.0	36.0	0.0	135.1

（３）生産状況

ア 水稲

区分		品　種	生 産 地	面積(a)	生産量(kg)
原原種	直営	ふくひびき	浜地域研究所	5.0	245
		小　計		5.0	245
原　種	直営	コシヒカリ	会津地域研究所	203.0	8,274
		ひとめぼれ	会津地域研究所	40.0	1,950
		天のつぶ	会津地域研究所	101.0	4,688
		チヨニシキ	本　部	27.9	920
		福笑い	本　部	6.3	209
		こがねもち	本　部	28.0	780
		ふくひびき	本　部	19.8	730
		ふくひびき	浜地域研究所	13.0	726
		小　計		439.0	18,277
合　計				444.0	18,522

イ 小麦

区分		品　種	生 産 地	面積(a)	生産量(kg)
原原種	直営	ゆきちから	会津地域研究所	0.0	0
		小　計		0.0	0
原　種	直営	きぬあずま	本　部	8.0	280
		ゆきちから	本　部	8.0	160
		ゆきちから	会津地域研究所	20.0	300
		小　計		36.0	740
合　計				36.0	740

ウ 大豆

区分	品　種	生 産 地	面積(a)	生産量(kg)
原原種　直営	あやこがね	本　部	8.0	40
	里のほほえみ	本　部	8.0	42
	小　計		16.0	82
原　種　直営	タチナガハ	本　部	19.3	250
	ふくいぶき	本　部	12.0	93
	あやこがね	本　部	36.8	354
	里のほほえみ	本　部	51.0	600
	小　計		119.1	1,297
合　計			135.1	1,379

※大豆原種「タチナガハ」「ふくいぶき」は、選別が終了したもののみの数値である。

4 オリジナル品種（園芸作物等）種苗生産実績

福島県育成品種（園芸作物等）種苗生産取扱基本要綱に基づき、普及すべき園芸作物等の優良な品種について品質の高い種苗を安定的に供給することを目的として、種苗生産及び販売を行った。

（1）担当者

所　属	職	氏　名	担当作物
作物園芸部	部　長	本馬　昌直	－
作物園芸部	副部長兼品種開発科長	大竹　祐一	－
野菜科	科　長	雨宮　潤子	アスパラガス
	専門員	大越　聡	アスパラガス
花き科	科　長	福田　秀之	リンドウ
	副主任研究員	鈴木　保奈美	リンドウ
会津地域研究所	所長	野田　正浩	－
	専門研究員	芳賀　紀之	オタネニンジン
	研究員	中村　陽登	オタネニンジン
	専門員	江川　孝二	オタネニンジン

（2）生産量及び販売量

ア アスパラガス種子

品種名	生産量(粒)	販売量（粒）	備考
ふくきたる	88,726	34,400	令和5年産種子を販売
はるむらさきエフ	5,767	4,600	平成20年産種子を販売

イ　リンドウ苗（令和6年6、7月販売）

品種名	販売予定数（本）	備考
ふくしましおん	1,920	128穴セルトレイ16枚
ふくしまみやび	3,240	128穴セルトレイ27枚
ふくしま凜夏	600	128穴セルトレイ 5枚
ふくしまさやか	240	128穴セルトレイ 2枚
ふくしまほのか	1,200	128穴セルトレイ10枚

令和5年2月播種

ウ オタネニンジン種子

品種名	生産量（粒）	備考
かいしゅうさん	22,530	

５ オリジナル品種の親株等の供給実績

オリジナル品種について、種苗増殖するための親株等を育成し、許諾先に供給した。

作　物	品種名	規格	供給数量	供　給　先	生 産 地
イチゴ	ふくはる香 ふくあや香	原種苗	65 株 15 株	福島さくら農業協同組合	本部
	ふくはる香	原種苗	100 株	農業生産法人こもろ布引いちご園株式会社	
カラー	はにかみ	培養苗	－ 株	－	本部
ブドウ	あづましずく	穂木	10 kg	有限会社菊池園芸	果樹研究所
	あづましずく	穂木	6 kg	株式会社福島天香園	
	ふくしずく	穂木	1 kg		
	あづましずく	穂木	10 kg	株式会社植原葡萄研究所	
ソバ	会津のかおり	原原種	188.2 kg	会津のかおり種子協議会	会津地域研究所

6 家畜管理及び生産実績

（1）畜産研究所本所

ア 家畜繋養実績

（ア）種雄畜 （頭）

畜種及び品種		年度初頭数	受入 購入	受入 組替	払出 廃用その他	年度末頭数
牛	黒毛和種	16	－	4	3	17
豚	ランドレース種	5	－	2	3	4
	デュロック種	14	－	2	6	10
	大ヨークシャー種	0	－	－	－	0

（イ）基幹種雄牛（黒毛和種）

名号	生年月日 登録番号	産地	血統 父	血統 母の父	推定育種価(R5.9評価) 枝肉重量(kg)	推定育種価(R5.9評価) ロース芯面積(cm²)	推定育種価(R5.9評価) 脂肪交雑(基準値)
隆福久（たかふくひさ）	H30. 6.29 黒原6332	石川郡 平田村	隆之国	安福久	37.277	22.645	2.997
勝忠安福（かつただやすふく）	H24. 6.28 黒原5825	石川郡 古殿町	勝忠平	安福久	68.118	9.080	2.497
福平晴（ふくひらはる）	H23. 6. 3 黒原5637	耶麻郡 猪苗代町	平茂晴	平茂勝	59.468	9.750	2.704
多久実（たくみ）	H22.10. 1 黒原5638	石川郡 玉川村	安福久	安平	16.444	17.144	2.824
勝平安（かつひらやす）	H20.12.25 黒原5373	田村市	北平安	平茂勝	47.276	17.816	2.501
桜咲光（さくらさくひかり）	H20. 8. 7 黒原5302	耶麻郡 猪苗代町	第1勝光	福桜(宮崎)	45.528	11.321	2.021
高百合（たかゆり）	H20. 8.21 黒原5303	双葉郡 川内村	百合茂	安福栄	78.721	11.614	1.765
福景桜（ふくかげさくら）	H17.11.22 黒原4949	耶麻郡 猪苗代町	景東	福桜(宮崎)	39.758	15.492	2.092
勝隼茂（かつはやしげ）	H17.10.11 黒原4850	石川郡 石川町	平茂勝	第5隼福	68.746	8.351	2.373
喜多平茂（きたひらしげ）	H16.10.25 黒14188	喜多方市	平茂勝	北国7の8	63.408	9.528	2.472
第1勝光（だいかつひかり）	H15. 3.27 黒原4570	本宮市	平茂勝	東平茂	93.932	17.239	2.216

注 現在、繋養していない基幹種雄牛も含む。

（ウ）種雄豚

品種	名号（登録番号）	生年月日	血統 父	血統 母
ランドレース種（ﾌｸｼﾏL2）	ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 2 0181 証明番号LL07-A000186	R1. 8.31	ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 8 0074 証明番号LL07-A000042	ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 3 0163 証明番号LL07-A000162
	ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 1 0167 証明番号LL07-A000265	R4. 8.18	ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 4 0061 証明番号LL07-A000182	ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 3 0096 証明番号LL07-A000251
	ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 10 0078 証明番号LL07-A000277	R5. 7.28	ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 3 0013 証明番号LL07-A000190	ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 3 0103 証明番号LL07-A000183
デュロック種（ﾌｸｼﾏD桃太郎）	ﾅｶﾞﾗ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 7 0094 証明番号DD07-A000397	R3. 7.18	ﾅｶﾞﾗ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 2 0076 証明番号DD07-A000345	ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾌｸﾁｸ 1 0001 証明番号DD07-A000315
	ﾌｸｼﾏ ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 1 0106 証明番号DD07-A000398	R3. 7.22	ﾌｸｼﾏ ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 03 0191 証明番号DD07-A000314	ﾅｶﾞﾗ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 3 0090 証明番号DD07-A000373
	ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 7 0154 証明番号DD07-A000413	R3.10. 6	ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 2 0174 証明番号DD07-A000329	ﾌｸｼﾏ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 1 0011 証明番号DD07-A000347

品　種	名　号 (登録番号)	生年月日	血　　統	
			父	母
デュロック種 (ﾌｸｼﾏD桃太郎)	ﾅｶﾞﾗD ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 1 0016 証明番号DD07-A000417	R4. 1.28	ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾌｸﾁｸ 8 0152 証明番号DD07-A000350	ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 3 0130 証明番号DD07-A000387
	ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 3 0044 証明番号DD07-A000419	R4. 3.13	ﾌｸｼﾏﾃﾞｰ ﾓﾓﾀ ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 7 0297 証明番号DD07-A000303	ﾅｶﾞﾗ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 3 0092 証明番号DD07-A000375
	ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾅｶﾞﾗD 1154 ﾌｸﾁｸ 1 0050 証明番号DD07-A000420	R4. 3.19	ﾌｸｼﾏﾃﾞｰ ﾓﾓﾀ ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 7 0297 証明番号DD07-A000303	ﾅｶﾞﾗD 1154 ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 3 0107 証明番号DD07-A000380
	ﾌｸｼﾏ ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 1 0085 証明番号DD07-A000424	R4. 5.22	ﾌｸｼﾏ ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾌｸﾁｸ 2 0158 証明番号DD07-A000088	ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 3 0128 証明番号DD07-A000385
	ﾌｸｼﾏ ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 1 0086 証明番号DD07-A000425	R4. 5.22	ﾌｸｼﾏ ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾌｸﾁｸ 2 0158 証明番号DD07-A000088	ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 3 0128 証明番号DD07-A000385
	ﾅｶﾞﾗD 1154 ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 5 0179 証明番号DD07-A000442	R5.10.25	ﾅｶﾞﾗD 1154 ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 2 0168 証明番号DD07-A000357	ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 5 0167 証明番号DD07-A000390
	ﾅｶﾞﾗD ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 7 0212 証明番号DD07-A000444	R5.11.13	ﾅｶﾞﾗD ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 5 0190 証明番号DD07-A000336	ﾅｶﾞﾗ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 3 0092 証明番号DD07-A000375

イ　各家畜繋養状況

（ア）乳用牛移動表　　(頭)

区　分	年度初頭　数	増　加				減　少				年度末頭　数
		生産	組替	購入	小計	出荷	組替	その他	小計	
成雌牛	30	－	10	－	10	4	－	6	10	30
育成牛	14	－	13	3	16	－	10	－	10	20
子牛	13	34	－	－	34	5	13	9	27	20
合　計	57	34	23	3	60	9	23	15	47	70

（イ）肉用牛移動表　　(頭)

区　分	年度初頭　数	受　入				払　出				年度末頭　数
		購入	組替	その他	小計	出荷	組替	その他	小計	
基幹種雄牛	6	－	－	－	0	2	－	－	2	4
直接検定牛	8	2	6	2	10	2	5	2	9	9
待　機　牛	11	－	3	－	3	－	－	－	0	14
肥育試験牛	26	－	1	10	11	19	－	1	20	17
供　卵　牛	7	－	－	15	15	－	－	3	3	19
合　計	58	2	10	27	39	23	5	6	34	63

（ウ）豚移動表　　（頭）

区　分		年度初頭数	受入 生産	受入 導入	受入 組替	受入 小計	払出 出荷	払出 組替	払出 その他	払出 小計	年度末頭数
成豚（雄）	デュロック	14	－	－	2	2	6	－	－	6	10
	大ヨークシャー	0	－	－	－	－	－	－	－	－	0
	ランドレース	5	－	－	2	2	0	－	3	3	4
成豚（雌）	デュロック	14	－	－	12	12	5	－	0	5	21
	ランドレース	13	－	－	12	12	2	－	3	5	20
	その他	20	－	－	7	7	7	－	0	7	20
子豚	デュロック	70	248	－	－	248	0	173	75	248	70
	ランドレース	38	172	－	－	172	0	103	20	123	87
	雑種	126	547	－	－	547	0	482	87	569	104
肥育豚		95	－	－	723	723	592	－	13	605	213
合　計		395	967	－	758	1,725	612	758	201	1,571	549

※　成豚（雄）及び（雌）の出荷には払下を含む。

ウ　各種生産実績

（ア）乳生産販売状況　　(kg)

年　度	販売量
平成27年度	212,350
28年度	204,974
29年度	228,930
30年度	214,889
31年度	211,623
令和 2年度	215,047
3年度	207,329
4年度	178,515
5年度	203,444
6年度	243,122

(kg)

年月		販売量
令和6年度	4月	14,089
	5月	14,328
	6月	14,623
	7月	15,575
	8月	22,190
	9月	21,045
	10月	21,472
	11月	23,297
	12月	22,434
	1月	25,913
	2月	26,398
	3月	21,758
	合計	243,122

（イ）肉用牛精液生産実績　　（本）

		生産 生産	生産 その他	払出 売払	払出 その他	廃　棄
前年度繰越		120,326［丹治1］	－	－	－	－
令和6年	4月	486	－	125	146	1
	5月	381	－	200	232	3
	6月	441	－	107	314	－
	7月	1,134	－	40	60	－
	8月	358	－	138	115	－
	9月	80	－	97	625	1
	10月	650	－	91	110	15,803
	11月	182	－	71	394	－
	12月	78	－	123	60	－
令和7年	1月	403	－	125	500	54,604
	2月	176	－	86	162	－
	3月	469	－	109	24	－
次年度繰越		52,078	－	－	－	－

（ウ）肉用牛検定実績

ａ 直接検定実績　　（頭）

保　留	検定中
2	4

ｂ 現場後代検定実績（頭）

終　了	実施中
1	9

（エ）フクシマ L2 生産実績（維持頭数及び更新、配布状況）

		実績	内訳	
			雄	雌
種雄豚数	（頭）	4	4	－
種雌豚数	（頭）	20	－	20
分娩腹数	（腹）	18	－	18
生産子豚数	（頭）	172	93	79
離乳頭数	（頭）	63	－	－
育成率	（％）	94.8	－	－
子豚登記数	（頭）	15	0	15
自場更新数	（頭）	9	2	7
配布場所数	（戸）	1	0	1
配布頭数	（頭）	5	0	5

（オ）デュロック種「フクシマ D 桃太郎」生産実績

ａ　維持頭数及び更新、配布状況

		実績	内訳	
			雄	雌
種雄豚数	（頭）	10	10	－
種雌豚数	（頭）	21	－	21
分娩腹数	（腹）	29	－	30
生産子豚数	（頭）	237	127	110
離乳頭数	（頭）	185	－	－
育成率	（％）	78.1	－	－
子豚登記数	（頭）	14	3	11
自場更新数	（頭）	11	2	9
配布場所数	（戸）	1	1	－
配布頭数	（頭）	1	1	－

ｂ　と体形質

性別及び頭数	生体重	と体重	と体長	背腰長		と体幅	ロース		背脂肪の厚さ		
	と殺前 (kg)	冷 (kg)	(cm)	Ⅰ (cm)	Ⅱ (cm)	(cm)	長さ (cm)	断面積 (cm^2)	カタ (cm)	セ (cm)	コシ (cm)
去勢 5	117.5	74.4	94.1	79.8	70.4	37.1	60.0	21.0	4.7	2.5	3.9
(標準偏差)	4.8	3.7	2.5	2.7	2.9	1.6	3.1	3.4	0.6	0.2	0.3
雌 5	118.2	73.8	94.9	80.8	71.1	35.7	60.9	21.9	4.1	2.1	3.7
(標準偏差)	4.3	3.5	3.0	2.6	2.5	0.9	2.3	2.0	0.5	0.6	0.2

（カ）飼料作物生産実績

a　牧乾草生産量(本所)

区分	収穫期間	面積(a)	生産量(現物 kg)		乾物生産量(kg)	
			総　量	10a当り	総　量	10a当り
1番草	5/ 9 ～ 6/ 6	2,155	122,757	570	88,185	409
2番草	6/19 ～ 7/30	2,155	59,606	277	48,833	227
3番草	7/29 ～ 9/13	1,925	82,785	430	49.953	256
4番草	9/ 5 ～ 9/12	870	37,411	430	17,280	199
合計	－	－	302,559	－	204,251	－

b　トウモロコシサイレージ(本所)

ほ場No.	収穫期間	面積(a)	生産量(現物 kg)		乾物生産量(kg)	
			総　量	10a当り	総　量	10a当り
8	8/19 ～ 8/20	180	111,195	6,178	47,591	2,644
9	8/21 ～ 8/22	150	70,040	4,669	23,814	1,588
合計	－	330	181,235	10,847	71,405	4,232

注　収穫面積は、ほ場内枕地を除く実栽培面積

（キ）鶏移動表（成鶏羽数）　（羽）

区　分		年度初羽　数	受　入				払　出				年度末羽　数
			生産	導入	組替	小 計	出荷	組替	その他	小 計	
保存鶏	育成	－	640	－	－	640	－	541	99	640	－
	成鶏	625	－	－	541	541	－	－	678	678	488
育種鶏	育成	－	1,857	－	－	1,857	－	1,446	411	1,857	－
	成鶏	1,458	－	－	1,446	1,446	1,441	－	50	1,491	1,413
種　鶏	育成	700	1,417	－	－	1,417	1,206	－	232	1,438	679
	成鶏	－	－	－	－	－	－	－	－		－
実用鶏	育成	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	成鶏	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
合計		2,783	3,914	－	1,987	5,901	2,647	1,987	1,470	6,104	2,580

（ク）ふ化実績

区　分	入卵個数(個)	ふ化羽数(羽)			
			育雛	出荷	その他
保 存 鶏	2,880	2,022	640	－	1,382
育 種 鶏	4,585	3,561	1,684	－	1,877
種　　鶏	10,584	7,765	1,417	1,130	5,218
実 用 鶏	43	25	－	10	15
計	18,092	14,932	3,741	1,140	8,492

（ケ）卵の生産状況　（個）

月	産卵数	正常卵	廃棄卵	種　卵	破損卵
4月	25,946	21,071	707	3,348	820
5月	22,574	15,521	711	5,645	697
6月	18,388	11,534	623	5,612	619
7月	15	12	3	0	0
8月	1,400	1,172	177	0	51
9月	10,568	9,580	654	0	334
10月	26,244	24,669	910	0	665
11月	32,089	25,226	640	5,653	570
12月	30,559	28,086	475	1,562	436
1月	27,593	25,979	502	668	444
2月	23,976	19,369	467	3,711	429
3月	27,176	20,724	528	5,418	506
合計	246,528	202,943	6,397	31,617	5,571

（２）沼尻分場

ア 肉用牛移動表　（頭）

品種	区分	年度初頭数	受入				払出					年度末頭数
			生産	組替	その他	小計	出荷	組換	その他	死亡	小計	
黒毛和種	成牛(雌)	77	－	19	3	22	4	－	16	1	21	78
	子牛	39	63	－	2	65	12	34	12	7	65	39
	肥育試験牛	15	－	15	－	15	15	－	－	－	15	15
F1	受卵牛	0	－	－	3	3	－	－	－	－	－	3
合　計		131	63	34	8	105	31	34	28	8	101	135

※その他は所内移動

イ 産子成績　（頭）

品種	分娩頭数	（死産）	（流産）	生産頭数	ヘイ死
黒毛和種	67	(3)	(2)	63	7

注 死産及び流産は分娩頭数の内数

ウ 繁殖成績（妊娠率）

人工授精（受胎頭数/授精頭数）		受精卵移植（受胎頭数/移植頭数）	
87.8％	(65頭/74頭)	48.4％	(15頭/31頭)

エ 牧乾草生産量(沼尻分場)

区分	収穫期間	面積(a)	生産量(現物 kg)		乾物生産量(kg)	
			総　量	10a当り	総　量	10a当り
1番草	6/11 ～ 6/27	1,710	131,801	771	106,037	620
2番草	8/17 ～ 9/ 5	1,710	95,154	556	74,180	434
合計	－	－	226,955	－	180,217	－

注　沼尻分場のある猪苗代町は、国の通知に基づく永年生牧草の流通・利用自粛地域であるため、除染を実施し、モニタリング検査で利用可能となった草地においてのみ収穫した。なお、利用できない草地については維持管理のみを実施した。

（カ）飼料作物生産実績

a　牧乾草生産量(本所)

区分	収穫期間	面積(a)	生産量(現物 kg)		乾物生産量(kg)	
			総　量	10a当り	総　量	10a当り
1番草	5/ 9 ～ 6/ 6	2,155	122,757	570	88,185	409
2番草	6/19 ～ 7/30	2,155	59,606	277	48,833	227
3番草	7/29 ～ 9/13	1,925	82,785	430	49.953	256
4番草	9/ 5 ～ 9/12	870	37,411	430	17,280	199
合計	－	－	302,559	－	204,251	－

b　トウモロコシサイレージ(本所)

ほ場No.	収穫期間	面積(a)	生産量(現物 kg)		乾物生産量(kg)	
			総　量	10a当り	総　量	10a当り
8	8/19 ～ 8/20	180	111,195	6,178	47,591	2,644
9	8/21 ～ 8/22	150	70,040	4,669	23,814	1,588
合計	－	330	181,235	10,847	71,405	4,232

注　収穫面積は、ほ場内枕地を除く実栽培面積

（キ）鶏移動表（成鶏羽数）　（羽）

区　分		年度初羽　数	受　入				払　出				年度末羽　数
			生産	導入	組替	小 計	出荷	組替	その他	小 計	
保存鶏	育成	－	640	－	－	640	－	541	99	640	－
	成鶏	625	－	－	541	541	－	－	678	678	488
育種鶏	育成	－	1,857	－	－	1,857	－	1,446	411	1,857	－
	成鶏	1,458	－	－	1,446	1,446	1,441	－	50	1,491	1,413
種　鶏	育成	700	1,417	－	－	1,417	1,206	－	232	1,438	679
	成鶏	－	－	－	－	－	－	－	－		－
実用鶏	育成	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	成鶏	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
合計		2,783	3,914	－	1,987	5,901	2,647	1,987	1,470	6,104	2,580

（ク）ふ化実績

区　分	入卵個数(個)	ふ化羽数(羽)			
			育雛	出荷	その他
保 存 鶏	2,880	2,022	640	－	1,382
育 種 鶏	4,585	3,561	1,684	－	1,877
種　　鶏	10,584	7,765	1,417	1,130	5,218
実 用 鶏	43	25	－	10	15
計	18,092	14,932	3,741	1,140	8,492

（ケ）卵の生産状況　（個）

月	産卵数	正常卵	廃棄卵	種　卵	破損卵
4月	25,946	21,071	707	3,348	820
5月	22,574	15,521	711	5,645	697
6月	18,388	11,534	623	5,612	619
7月	15	12	3	0	0
8月	1,400	1,172	177	0	51
9月	10,568	9,580	654	0	334
10月	26,244	24,669	910	0	665
11月	32,089	25,226	640	5,653	570
12月	30,559	28,086	475	1,562	436
1月	27,593	25,979	502	668	444
2月	23,976	19,369	467	3,711	429
3月	27,176	20,724	528	5,418	506
合計	246,528	202,943	6,397	31,617	5,571

（２）沼尻分場

ア 肉用牛移動表　（頭）

品種	区分	年度初頭数	受入				払出					年度末頭数
			生産	組替	その他	小計	出荷	組換	その他	死亡	小計	
黒毛和種	成牛(雌)	77	－	19	3	22	4	－	16	1	21	78
	子牛	39	63	－	2	65	12	34	12	7	65	39
	肥育試験牛	15	－	15	－	15	15	－	－	－	15	15
F1	受卵牛	0	－	－	3	3	－	－	－	－	－	3
合　計		131	63	34	8	105	31	34	28	8	101	135

※その他は所内移動

イ 産子成績　（頭）

品種	分娩頭数	（死産）	（流産）	生産頭数	ヘイ死
黒毛和種	67	(3)	(2)	63	7

注 死産及び流産は分娩頭数の内数

ウ 繁殖成績（妊娠率）

人工授精（受胎頭数/授精頭数）		受精卵移植（受胎頭数/移植頭数）	
87.8％	(65頭/74頭)	48.4％	(15頭/31頭)

エ 牧乾草生産量(沼尻分場)

区分	収穫期間	面積(a)	生産量(現物 kg)		乾物生産量(kg)	
			総　量	10a当り	総　量	10a当り
1番草	6/11 ～ 6/27	1,710	131,801	771	106,037	620
2番草	8/17 ～ 9/ 5	1,710	95,154	556	74,180	434
合計	－	－	226,955	－	180,217	－

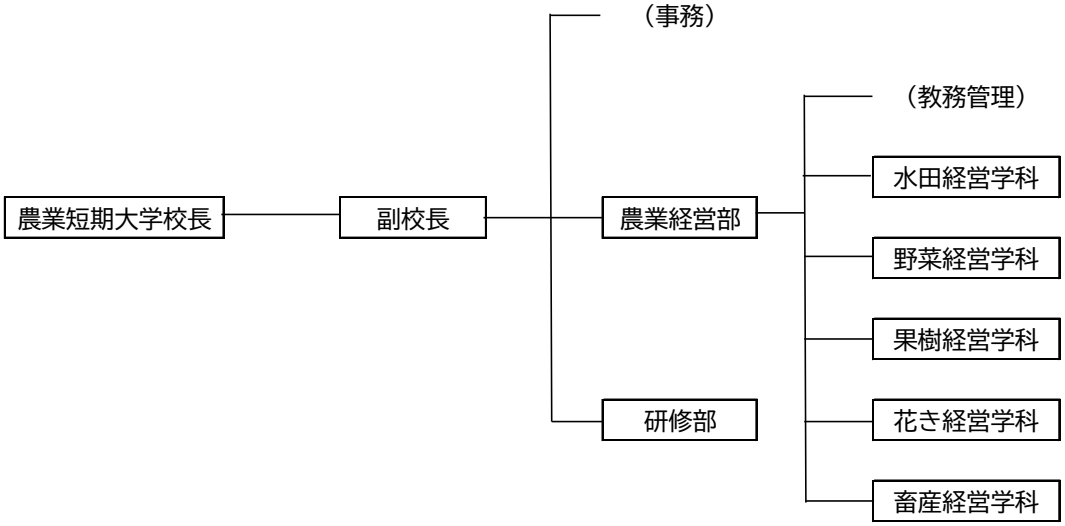
注　沼尻分場のある猪苗代町は、国の通知に基づく永年生牧草の流通・利用自粛地域であるため、除染を実施し、モニタリング検査で利用可能となった草地においてのみ収穫した。なお、利用できない草地については維持管理のみを実施した。

Ⅳ　先進的農業者育成・支援

1　農業短期大学校の業務実績

（1）概要

ア　組織



イ　施設

区　　分	主　な　施　設　内　容
教育施設	本館(教室、教養ホール、視聴覚教室、職員室、事務室、会議室、講師控室) 研究実験棟(各学科、学科教室(ゼミ室)、実験演習室、研究室、無菌室、培養室) 多目的学習棟(図書室、情報処理演習室、学生ホール) 男子寮(けやき寮)、女子寮(せんだん寮)、食堂、体育館
実習教育施設	実習教育棟、作業棟、機械格納庫、果実選果場、鉄骨ハウス等栽培施設、 乳牛舎、肉牛舎、肥育牛舎、畜産加工演習棟、堆肥舎、パドック、農産物直売所（アグリハウス万菜）
研修施設	屋外トイレ 農業機械実習棟(整備実習室)、トラクタ運転練習コース 農産加工技術センター(開発室、発酵加工室、高湿加工室、粉体加工室)

（2）農業経営部の取組

実践的な農業の技術力と優れた経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成するため、農業に関する講義や実験・演習、実習、研修などの教育を行った。

ア　学生の状況(学年毎の定員、農業経営部 60 名)

（ア）　令和 6 年 4 月現在の学生数は、1 学年 42 名、2 学年 55 名、合計 97 名(前年度 104 名)であり、定員には及ばないが、近年 1 学年 40 名以上の確保ができている状況にある。しかしながら、全国的な少子化の傾向が今後ますます進行することから、学生確保が一層厳しさを増すものとみられる。このようなことから新卒者のみならず広く学生募集を行うため、令和 6 年度より一般入校試験に新たに「社会人等」の受験区分を設けた。

学科別では、水田経営学科 17 名、野菜経営学科 30 名、果樹経営学科 18 名、花き経営学科 13 名、畜産経営学科 19 名の在籍数となっている。

出身高校別では農業課程が 50 名、普通課程 33 名、その他が 14 名であり、農業高校出身の学生が 52%となっている。

農家・非農家別では専業農家 19 名、兼業農家 16 名、非農家 62 名であり、非農家出身の学生が 6 割以上を占めている。

出身地域別では県北 25 名、県中 28 名、県南 7 名、会津 13 名、南会津 1 名、相双 6 名、いわき 7 名、県外 10 名であり、各地域からの応募がある。

（イ）　令和 6 年度の専門士(農業専門課程)の称号が付与される者(卒業生)は、53 名であった。

（ウ）　独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与者は、1 学年 8 名（1 名は令和 7 年 1 月で給付辞退)、2 学年 7 名であった。

（エ）　学生寮の令和 6 年度の入寮は、2 学年は男子 25 名、女子 7 名、1 学年は男子 14 名、女子 9 名であった。

イ　専修教育の状況

（ア）　水田経営学科

１学年は、農場実習で水稲、麦類、大豆、イモ類などの食用作物の栽培や加工を体験し、基礎的な技術、観察力などを身に付けた。また、県内・県外研修や先進農家等留学研修により、実践的な経営感覚を養った。

２学年は、卒業論文における研究対象の作物を水稲または畑作物から選択し、研究成果を就農後に活用できるような課題に取り組むとともに、作物の栽培や調査研究を通して、高度な技術と経営感覚を身につけた。

JGAP 及び FGAP については、「米（玄米)」、「そば」、「小麦」で認証を取得しており、更新審査に当たって講義や実習で新たなリスクを評価するとともに、農場施設及び帳簿の点検作業を行い、学生が主体となって受審した。

生産物の販売促進に関しては、大玉村『あだたらの里「福、笑い」栽培研究会』の一員として県オリジナル水稲品種「福、笑い」の栽培と直売イベント「福島県と安達地方の観光物産展（会場：東京都台東区浅草寺)」への参加、本校産小麦を使用した乾麺「アグリカレッジ福島のうどんだばい」の販売と矢吹町ふるさと納税返礼品としての提供、本宮市の酒造メーカー「大天狗酒造(株)」と連携して取り組んできた本校産「福乃香」を使った日本酒「青春の詩」の販売などの成果があがった。

スマート農業については、福島大学食農学類の准教授２名によるスマート農業に関する講義を受講し、最新のスマート農業の動向について知識を深めた。あわせて、スマート農業機械を操作する実践的な研修を受講した。

学生の進路については、2 年生 9 名のうち 4 名が卒業後に就農した（自家就農 2 名、雇用就農 2 名)。

（イ）　野菜経営学科

1 学年は、県内で栽培が盛んで就農時の経営の柱となるきゅうりやトマト、アスパラガス等の栽培の基礎を学び、その他多品目を組み合わせて周年で営農する農業技術や農業機械の操作などについても学習し知識・技術を高めたほか、県内先進農家において長期研修を行い優れた技術や経営について学んだ。

2 学年は、産地の課題解決や高収益生産などの卒業論文調査研究に取り組むとともに、6 回開催の直売実習などにおいて学生が生産物を消費者に直接販売するなど、高度な栽培技術の習得や経営実践力を養った。また、産地は農業者の係る優良事例について自ら企画して現地で視察・調査を行い知識や技術を高めた。

JGAP 及び FGAP の認証を取得しているトマトやきゅうりにおいて、学生によるリスク評価や管理作業及び収穫の記録作成等の実践が定着するとともに、更新審査の準備、事前の模擬審査について学びを深めた。

学生の進路については、2 年生 15 名のうち 1 名が自家就農、8 名が雇用就農した。

（ウ）　果樹経営学科

JGAP、FGAP の認証品目である「ぶどう」「かき」部門において、学生主体の実践活動が定着した。特に、経験の浅い 1 年生に対し、2 年生が分かりやすく指導、助言するなど、学生間での技術の伝承が進み、GAP に対する意識は大きく向上した。

果樹の生育状況は、春先の気温が高く、開花時期が平年より 5 日程度早まったが、適期管理により高品質果実の生産が実現できた。また、生産物の販売を学生が主体となって担うことにより、責任感を持ち、達成感を味わわせることができた。その際、いくつかの事業所を訪問しての販売活動を通して農業経営における顧客管理の重要性も体感することができた。

学生の進路については、4 名が就農（自家就農 2 名、雇用就農 2 名)、2 名が就農前研修開始した。

（エ）　花き経営学科

花き経営の基礎である栽培管理については、高温障害の影響で一部のキクに開花遅延が見られたものの、各栽培品目共に順調に生育し、計画どおりの生産・販売を行うことができた。特に夏場の早朝収穫実習や校内外の直接販売の実習など、学生自ら生産から販売まで実践し、技術力や販売力を養うことができた。

また、県内の先進農家や県外の生花店、花き関連展示会への視察研修を行うなど高度な栽培技術や先進的な経営感覚を実際に体験し、花き経営への知識を深めることができた。

GAP の一環として、令和 3 年度に取得した「花き日持ち品質管理認証」について継続認定を受けるとともに、認証シールを宿根カスミソウの販売時に貼付するなど、学生は花きの日持ち性向上の意義を認識し、実習に取り組んでいる。

学生の進路については、2 年生 8 名のうち 3 名が雇用就農した。

（オ）　畜産経営学科

講義や実習を通して乳用牛や肉用牛に関する知識や飼養管理技術の習得に努めた。特に、責任分担制の下、当番の学生による夜間の牛舎見回りや休日の飼養管理、早朝の出荷作業等を実施させることにより、学生全員が農場の共同経営者となり責任を持って管理するという意識醸成を図った。

また、本校として初めて校内産牛肉の販売実習を行い、牛を育てるだけではなく、繁殖から肥育、流通、販売までの一連の流れを実践的に学ぶことで、経営感覚の醸成を図った。

校外活動では、共進会や枝肉共励会、各種研修会への参加、乳業工場や畜産研究所等の視察研修を実施した。

学生の進路については、2年生12名のうち1名が自家就農、6名が雇用就農した。

（カ）　その他特徴的な取組

a　福島大学食農学類との連携の具現化(本校教育への支援、福大生実習受け入れ、学生の交流活動、他)

○卒業論文発表会審査委員長　　深山陽子教授

○講義(スマート農業実践)　　窪田陽介准教授、渡邊芳倫准教授

b　GAPの取組

（a）　GAP概論の開講

本校職員、環境保全農業課職員、GAP・ITサポート合同会社佐久間輝仁代表を講師としてGAP概論を実施した。講座では、GAPの基本理念や本県での取組状況の説明、グループワーク、本校農場における取組状況の見学等を行い、GAPに関する理解を深めた。

（b）　JGAP審査に向けた学生指導の強化

維持審査に向けて模擬審査を実施し、学生に審査の流れや書類の内容を把握させるとともに、農場審査に対する準備を実施させた。学生は、維持審査にも立ち会い、審査作業の補助等を行うことで、審査への理解を深めた。

（c）　JGAP認証品目

水田経営学科　米(玄米)、そば、小麦

野菜経営学科　トマト、きゅうり

果樹経営学科　ぶどう、かき　　＊更新認証日：令和5年12月4日

（d）　JGAP指導員資格取得 2学年1名、1学年4名

c　スマート農業に係る人材育成(教職員の技術習得、研修講座開設)

（a）　スマート農業実践の開講

本校職員、福島大学食農学類准教授2名によるスマート農業に関する講義と、農業機械メーカー((株) ヰセキ東北)と連携し、スマート農業機械(4機種)を操作演習する研修を実施した。

d　地域との連携

（a）　農業体験の受入(認定こども園ポプラの木、中島幼稚園、三神小学校)

（b）　矢吹町と本校との連携協定による取組「フロンティア農園」による町民との交流(5回開催、参加数延べ28名)や子供食堂への食材提供。

（c）　インターンシップの受入(郡山萌世高等学校定時制課程5名)

（d）　JA東西しらかわとの連携協定に基づくコシヒカリ100kgの受領

（e）　矢吹町広報誌への本校学生の紹介記事掲載

（f）　おもてごうマルシェへの参加

e　販売活動

（a）　直売実習

アグリハウス万菜を会場に、年間6回（6/14,7/18,8/9,9/18,10/31,11/22）の直売実習を実施した。毎回、実行委員会を開催して、販売計画や年間テーマ、PRチラシの作成を行った。

（b）　福､笑いの販売

県オリジナル水稲品種「福、笑い」を「あだたらの里『福、笑い』栽培研究会」の一員として栽培し、東京都台東区浅草寺境内で開催された「福島県と安達地方の観光物産展」で販売した。なお、本校産「福、笑い」はあだたらの里直売所でも一般販売された。

（c）　農業総合センターまつりにおける農産物販売の実施

農業総合センターまつりに2学年が参加し、水田：乾麺、小麦粉、野菜：ﾐﾆﾄﾏﾄ、ﾀﾏﾈｷﾞ、ﾆﾝﾆｸ、ﾋﾟｰﾏﾝ等、花き：ドライフラワー、切り花ミックスなどの農産物を販売した（9/6,7、販売は6日のみ)。

（d）　牛肉の販売実習

本校としては初めて本校産牛肉の販売実習をスーパーマーケットいちい3店舗で実施した（11/29)。

ｆ　情報発信

（ａ）　テレビ・ラジオによる学生募集案内

＜県政広報テレビ番組２回＞

ｉ　おしえてキビタン（6/8 放送「アグリカレッジ福島　オープンキャンパスに行こう！」）

ⅱ　キビタン Go（1/15 放送「農業研修でスキルアップ」）

＜ラジオ　10 回＞

ｉ　農家の皆さんへ（10 月、12 月）２回

ⅱ　キビタンスマイル（5 月、11 月、1 月）３回

ⅲ　テレビ・ラジオ３０秒スポット CM　５回

オープンキャンパス参加者募集（6 月）、欅隆祭開催（10 月）

一般入試前期（11 月）、一般入試後期（12 月）、長期研修生募集（１月）

（ｂ）　県の公式アプリ「ふくしまポータル」１回

欅隆祭開催(10 月)

（ｃ）　新聞広報(県からのお知らせ)4 回

オープンキャンパス参加者募集(6 月)、一般入校試験前期(11 月)

一般入校試験後期(12 月)、長期研修生募集(１月)

（ｄ）　矢吹町広報誌「広報やぶき(農短大生のひとりごと)」12 回

（ｅ）　外部講師の指導の下での学生による SNS での情報発信

（ｆ）　テレビ、雑誌による GAP の取組紹介

ｉ　福島テレビ「サタふく」 9 月 21 日放送

ⅱ　月刊誌「ＣＪ　Ｍｏｎｍｏ」10 月 25 日発行

ｇ　学生募集

（ａ）　県外(東京、千葉、埼玉、栃木ほか)への学校要覧の送付

近年は他県よりオープンキャンパスへの参加者及び受験生がいるため、隣県及び入稿した実績のある県(高校)への情報提供を行った。

（ｂ）　通信制、定時制への学校訪問

近年、通信制、定時制からの学生応募が増加しているため実施した。

（ｃ）　オープンキャンパスの時間短縮

予定どおり３回開催した。

新施設への関心の高さから、生徒及び保護者、その他を含め 191 名の参加があり、その内生徒数は 90 名と例年になく多くの生徒の参加があった。

ｈ　その他

（ａ）　今年度欅隆祭において農業関連企業、地元飲食店、農業法人、キッチンカーによる販売や企業紹介。福島明成高校による販売や光南高校による活動紹介などを行った。来場者は約 2,300 名となった。

（ｂ）　卒業記念講演

３月３日(月)に福島観光物産館の櫻田武館長による記念講演を実施した。

ｉ　統合事業関係

「令和５年度福島県特定原子力施設交付金事業」を活用して新たなパイプハウスを１棟新設し、長期就農研修生受け入れ強化を図った。

ウ　進路指導の取組

（ア）　就農への誘導

令和６年度卒業生の進路状況は、就農 28 名(53%)、農協・農業団体３名(6%)、農業関連産業９名(17%)、他産業６名(11%)、公務員４名(8%)、未定３名（5%）であり、就農率は過去最高となった。

ａ　令和３年度から就農支援サポート支援員（１名)を配置し、新規就農にかかる支援体制の充実、強化を図っている。県内の農業法人や各市町村、各農林事務所との連携を図り、親元就農に向けた準備支援や、雇用就農者を増やすための農業法人と学生とのマッチング、学生への個別相談、受け入れ可能な農業法人の掘り起こし、就農相談会、各農林事務所及び各方部の就農コーディネーターとの懇談会の開催等を行った。

ｂ　学生の就農意欲高揚のため、１学年を対象とした就農相談会「相双地域における農業法人等視察相談会」等に参加した。

ｃ　就農予定学生と農林事務所の懇談会を２回開催し、学生への情報提供を行った。

（イ）　進路に対する意識付けと支援

ａ　１学年を対象として８月に進路希望調査を実施した。

ｂ　学生の進路に対する目的意識を強く持たせるとともに、就職を希望する学生に対しては就職活動における心構えを、また、自家就農を希望する学生には雇用する立場となる経営者としての資質向上が図られるよう、就農講座、農業法人等就職講座において指導を実施した。

c　ハローワーク白河と連携し 2 学年 42 名を対象に、ジョブサポーターによる就職に向けた授業を実施した。また、ふくしま生活・就職応援センターと連携し、 1 学年 11 名を対象に個別面談を実施した。

（ウ）資格取得支援

a	大型特殊免許（農耕車に限る）	2 学年 39 名が免許を取得した。
b	けん引運転免許（農耕車に限る）	2 学年 36 人が免許を取得した。
c	毒物劇物取扱者	1 学年 1 名が資格を取得した。
d	刈払機取扱作業者安全衛生教育	1 学年 36 名、2 学年 1 名受講
e	アーク溶接業務特別教育	1 学年 32 名受講
f	家畜人工授精師	畜産経営学科 2 学年 8 名が資格を取得した。

（エ）就農準備資金の活用

a　就農準備資金は、就農を希望する青年が農業技術及び経営ノウハウの習得のための長期の研修実施を支援する制度で、交付金が年額 150 万円で最長 2 年間交付される。 本校農業経営部の学生と研修部長期研修の研修生が交付要件を満たす研修として位置づけられている。2 学年 11 名、 1 学年 10 名、長期就農研修生 4 名が受給した。

b　本制度を活用した 2 学年の就農分野は、親元就農 1 名、雇用就農 10 名であった。

エ　学生募集の取組

（ア）　募集要項等の送付

募集要項等を高校 164 校、県の 36 機関、59 市町村、16 団体に送付し、学生募集への協力を依頼した。

（イ）　高校訪問他

県内の高校 80 校を訪問し、進路担当教員に対して、本校の概要及び募集について説明するとともに生徒の進路希望状況について調査した。加えて県外高校 3 校に訪問した。

（ウ）　進路説明会への参加

高校主催の説明会 30 校延べ 39 校に参加し、本校の概要等について説明した。また、郡山、白河会場での進学相談会に参加した。

（エ）　オープンキャンパスの開催

7 月 21 日(日)、7 月 26 日(金)、8 月 3 日(土)にオープンキャンパスを開催し、本校の施設及び講義内容等について説明した。35 校 90 名の高校生等及び 107 名の保護者が参加した。案内は高校 116 校、59 市町村、農林水産部の 16 機関、2 団体に送付し、協力を依頼した。

（オ）　県広報の活用

広報課 30 秒スポット放送 5 回、キビタンスマイル(ふくしまＦＭ)3 回、農家の皆さんへ(ラジオ福島)2 回で学生募集を行った。

（カ）　学校見学の受け入れ

県立高校 9 校の生徒 52 名、教員 3 名が来校し、農業の現状に関する施設・設備の見学及び教育内容の説明を行った。

（キ）　募集結果は、推薦入校試験受験者 40 名、一般入校試験(前期)受験者 16 名、一般入校試験(後期)受験者 6 名の計 62 名が受験し、58 名が合格となった。

オ　学生数

（ア）学科別　※令和６年４月時点

学　　科	1学年			2学年			計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
水田経営学科	7	1	8	9	0	9	16	1	17
野菜経営学科	11	4	16	13	2	15	24	6	30
果樹経営学科	4	3	7	10	1	12	14	4	19
花き経営学科	1	4	5	6	2	8	7	6	13
畜産経営学科	7	0	7	6	6	12	13	6	20
計	30	12	42	44	11	55	74	23	97

（イ）農家、非農家別　※令和６年４月時点

	1学年		2学年		合計	
	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)
農家 専業	8	19	11	20	19	20
農家 兼業	9	21	7	13	16	16
農家 計	17	40	18	33	35	36
非農家	25	60	37	67	62	64
合 計	42	－	55	－	97	－

（ウ）出身高校課程別　※令和６年４月時点

	1学年		2学年		合計	
	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)
農業高校	23	55	27	49	50	52
普通高校	11	26	22	40	33	34
その他	8	19	6	11	14	14
合 計	42	－	55	－	97	－

カ　教育科目

区分		科目名	単位数	授業時間数			授業回数（時限数）			
							１学年		２学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
共通教養科目	全学科共通	生物基礎	1	15			8			
		化学基礎	1	15			8			
		数学基礎	1	15			8			
		国語表現Ⅰ	1	15			8			
		国語表現Ⅱ	1	15				8		
		国語表現Ⅲ	1	15					8	
		人間と社会	1	15					8	
		体育	4	60			10	10	3	7
		教養講座	1	15				8		
		就農講座Ⅰ 農業法人等就職講座Ⅰ	2	30				15		
		就農講座Ⅱ 農業法人等就職講座Ⅱ	1	15					8	
		❶　小計	15	225	0	0	42	41	27	7

区分		科目名	単位数	授業時間数			授業回数（時限数）			
							1学年		2学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
共通専門科目	全学科共通	農業経営	2	30					15	
		農業経営演習	2	30						15
		農業法規	2	30						15
		農業関連産業論	1	15			5	3		
		簿記概論	3	45			23			
		農業情報処理基礎	2	30				15		
		農業情報処理応用	1	15					8	
		農業情勢Ⅰ	1	15						8
		農業情勢Ⅱ	1	15						8
		土壌肥料概論	2	30			15			
		農業機械	2	30			15			
		農業機械基礎実習	1			45	6	17		
		農業機械操作実習Ⅰ	1			45			23	
		マーケティング論	1	15					8	
		マーケティング演習	2	30					4	11
		食品製造	1	15				8		
		スマート農業実践	1	15				8		
		GAP 概論	1	15			8			
		卒業論文	10	150				15	30	30
		簿記検定講座*	2	30				14		
		毒物・劇物取扱解説*	1	15			8			
		毒物劇物取扱者資格講座*	1	15			8			
		農業機械操作実習Ⅱ*	1			45			23	
		❷　小計 （*自由選択科目を除く）	37	525	0	90	72	66	88	87
専門科目	水田野菜果樹花き学科共通	農業概論	2	30			15			
		作物保護	2	30				15		
		植物生理	1	15			8			
		環境保全と農業	2	30						15
		有機農業	1	15					8	
		農産物流通	1	15						8
		農学実験	1		30		8	7		
		❸　小計	10	135	30	0	31	22	8	23
	水田経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		水田経営研修	2			90	10	12	19	4
		作物経営実習	25			1125	140	130	195	98
		水田経営基礎	2	30			15			
		水田経営応用	2	30				15		
		水田経営実践	2	30					8	7
		食品製造演習	2	30			4	11		
		❹-1　小計	40	120	0	1440	214	168	222	109
	野菜経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		野菜経営研修	2			90	10	12	19	5
		野菜経営実習	25			1125	140	130	195	98
		野菜生産概論	2	30			15			
		野菜栽培各論	2	30				15		
		野菜経営各論	2	30					8	7
		食品製造演習	2	30			4	11		
		❹-2　小計	40	120	0	1440	214	170	221	109

区分		科目名	単位数	授業時間数			授業回数（時限数）			
							1学年		2学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
専門科目	果樹経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		果樹経営研修	2			90	10	12	19	4
		果樹経営実習	25			1125	140	130	195	98
		果樹生産概論	2	30			15			
		果樹栽培各論	2	30				15		
		果樹経営各論	2	30					7	8
		食品製造演習	2	30			4	11		
		❹-3　小計	40	120	0	1440	214	168	222	109
	花き経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		花き経営研修	2			90	10	12	19	4
		花き経営実習	25			1125	140	130	195	98
		花き生産概論	2	30			15			
		花き栽培各論	2	30				15		
		花き経営各論	2	30					7	8
		フラワー装飾演習	2	30				15		
		❹-4　小計	40	120	0	1440	210	172	222	109
水田、野菜、果樹、花き経営学科共通必修科目合計（❶、❷、❸、❹）			102	1,005	30	1530	350	282	336	218
専門科目	畜産経営学科	畜産概論	1	15			8			
		家畜育種学	1	15				8		
		家畜繁殖学Ⅰ	1	15				8		
		家畜繁殖学Ⅱ	2	30					15	
		家畜栄養学	1	15			8			
		家畜衛生学	1	15					8	
		畜産環境保全	1	15						8
		家畜解剖生理学	1	15			8			
		家畜解剖実験	1		30		15			
		先進農家等留学研修	5			225	45			
		畜産経営研修	2			90	10	12	19	5
		畜産経営実習	25			1125	132	138	188	105
		乳用牛・肉用牛概論	2	30			15			
		飼料作物	1	15					7	
		食品製造演習	2	30				15		
		乳用牛飼養管理技術応用 肉用牛飼養管理技術応用	2	30				15		
		乳用牛経営 肉用牛経営	1	15						8
		❺　小計	50	255	30	1440	245	192	246	117
畜産経営学科必修科目合計（❶、❷、❺）			102	1005	30	1530	359	299	361	211

履修科目 （必修科目 102 単位、自由選択科目 5 単位の合計）	107	1065	30	1575	660	576

キ　非常勤講師一覧

科目			講師名	所属・職・機関
共通教養科目	全学科共通	化学基礎	大和田範雄	元高校教師
		国語表現Ⅰ	伊藤 晴	ベスト学院株式会社
		国語表現Ⅱ	引地彩夏	ベスト学院株式会社
		体育	水野純子	メディカルフィットネスさくら
		人間と社会	樽川千香子他	アルファ電子株式会社代表取締役社長

		科目	講師名	所属・職・機関
共通専門科目	全学科共通	農業経営	川西 学 久野雅己	税理士法人三部会計事務所 株式会社ソーシャルスピーカー代表取締役
		農業経営演習	高原一司	日本政策金融公庫
		農業法規	本庁職員	福島県庁
		農業関連産業論	清野博樹 担当職員	元気象庁職員 福島県農業協同組合中央会 福島県農業共済組合
		簿記概論	宗像春望	会計コンサルタント
		農業情報処理基礎	志間幸恵	シップスパソコンスクール
		農業情報処理応用	志間幸恵	シップスパソコンスクール
		農業情勢Ⅱ	本庁職員	福島県庁
		土壌肥料概論	大和田範雄他	元高校教師
		マーケティング論	横尾恵美	しゅふコミ代表
		マーケティング演習	横尾恵美	しゅふコミ代表
		食品製造	郡司尚子	郡山女子大学准教授
		ＧＡＰ概論	佐久間輝仁	GAP･IT サポート合同会社代表
専門科目		作物保護	草野憲二	福島県植物防疫協会
		環境保全と農業	谷口崇至	AW エンジニアリング代表取締役社長
		農産物流通	久野雅己	株式会社ソーシャルスピーカー代表取締役
		フラワー装飾演習	中村良美	フラワースタジオ POCO A POCO 主宰
		家畜育種学	國分洋一	元県職員
		家畜栄養学	土屋友充	元県職員
		家畜衛生学	担当職員	中央家畜保健衛生所
		家畜解剖生理学	二瓶由佳	元県職員
		家畜解剖実験	担当職員	中央家畜保健衛生所
		飼料作物	國分洋一	元県職員

ク　教育行事

月　　日	行　　事　　名
令和 6年 4月 9日	始業式
10日	入校式
11日	学生健康診断・オリエンテーション
30日	防災避難訓練
5月中	卒業論文設計発表会
31日	スポーツ大会
6月 5日	植付祭
6月21日～ 7月 5日	先進農家等留学研修(前期)
14日	直売実習（1回目）
7月17日	学校記念日
18日	直売実習（2回目）
21日	オープンキャンパス（1回目）
26日	オープンキャンパス（2回目）
8月 3日	オープンキャンパス（3回目）
9日	直売実習（3回目）
10日～19日	夏期休業
22日～ 9月 5日	先進農家等留学研修（後期）
9月 4日	毒物劇物取扱者資格試験
18日	直売実習（4回目）
24日～27日	前期試験（1･2学年）
10月 1日	後期授業開始
20日	欅隆祭
31日	直売実習（5回目）
11月12日	校内意見発表会（1学年）
14日～15日	球技大会(学生自治会、寮自治会主催)
15日	収穫祭、
17日	日商簿記検定試験
22日	直売実習（6回目）

月　　日	行　　事　　名
12月12日	始業式
14日～ 1月6日	入校式
	学生健康診断・オリエンテーション
令和 7年 1月15日～16日	東日本農業大学校等プロジェクト発表・交換大会
23日～24日	後期試験（2学年）
20日～ 2月21日	家畜人工授精に関する講習会
2月12日～13日	後期試験（1学年）
17日～22日	海外農業研修（タイ、ニュージーランド）
23日	日商簿記検定試験
3月 3日	卒業記念講演会
	（講師：福島観光物産館櫻田武館長）
6日	終業式
7日	卒業式
10日～ 4月 8日	春期休業

ケ　各種表彰者

月　　日	行事名	結　果
令和6年 11月12日	意見発表会	最優秀賞 「私は将来ドローンを使って牛を放牧したい」 畜産経営学科１年　門馬聖弥 優秀賞1席 「農業をもっと身近な存在に」 果樹経営学科１年　伊藤孝誠 優秀賞2席 「農業で守っていく」　野菜経営学科１年　橋本圭祐
令和6年 12月12日	卒業論文発表会	最優秀賞 「カンショ新品種『あまはづき』の品種特性について」 水田経営学科２年　大関仁之 優秀賞１席 「牧草収穫跡地における飼料用トウモロコシの不耕起栽培」 畜産経営学科２年　三浦さくら 優秀賞２席 「細霧装置使用による暑熱対策の効果」 畜産経営学科２年　安齋彩夏

コ　卒業生の進路状況

進　　路		農業経営部
就　農	自家	5
	法人	21
	研修	2
	小計	28
非就農	農協	1
	農業団体	2
	農業関連産業	9
	他産業	6
	公務員	4
	進学	0
	小計	22
未定		3
合　　計		53

（３）研修部の取組

ア　研修実施状況

就農研修は新規就農希望者や新規就農者の技術習得を目的として初級・中級コースを設け、受講希望者のレベルに応じた体系により実施した。

長期就農研修は就農希望者が就農後の農業経営を早期に安定できるよう、１年を単位とした実習主体の研修として実施した。

就農研修の初級・中級、長期就農研修の実施を通して、長期就農研修 12 名(内果樹 6 名)が新規就農した。

また、「令和 5 年度福島特定原子力施設地域交付金事業」を活用し、新たにパイプハウス 1 棟を増設して長期就農研修生受入れ強化を図った。

農産加工研修は、加工初心者を対象とした「基礎コース（全 4 回継続参加)」を年 2 回開催し農産加工に必要な講義を実施した。実際に農産加工品開発を行っている方を対象に「応用コース」を開催し、より高いレベルの商品開発につなげた。新設の「技術コース」では、加工食品の保存方法について実習を行った。

農業機械研修では、大型特殊免許及びけん引免許(いずれも農耕車限定)の取得支援を目的とした「安全運転技術総合コース」、農業機械の基本操作や点検整備、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用したスマート農業を学ぶ「技術向上コース」を実施した。

また、農業者が抱える課題解決のため、本校の施設・設備を活用する施設利用研修については就農・農産加工・農業機械の各種研修体系の中に組み入れて実施するとともに、農作業安全に関する研修については現地の要請に応じ実施した。

イ　研修実績

（ア）就農研修

ａ　初級

名　称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(ａ)春コース	［講義］・栽培のための基礎知識 ・営農に係る基礎知識 ［実習］・栽培管理実習	県内の新規就農希望者等 15名	15名	5～7月(5日) (日曜日を中心に開催)
(ｂ)秋コース	［講義］・栽培のための基礎知識 ・営農に係る基礎知識 ［実習］・栽培管理実習		10名	9～11月(5日) (日曜日を中心に開催)

ｂ　中級

名　称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(ａ) 中級	［講義、演習、見学］ 必修科目：土壌肥料 農業経営、農業機械、鳥獣害対策 選択科目：水稲、野菜、果樹、花き、畜産、有機農業	県内の新規就農希望者等 15名	15名	5～8月 (必修科目10日) (選択科目各4日) (平日開催)

ｃ　長期就農研修

名　称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間
(ａ)長期就農研修	［実習、講義］ 栽培管理実習を柱にした1年間の研修 研修科目： 施設野菜、露地野菜、果樹、花き、水稲・畑作物、畜産、有機栽培 研修場所： 農業短期大学校、果樹研究所、本部、会津地域研究所、浜地域研究所、畜産研究所	福島県内で農業により生計を立てることを目標とし、就農前に農業の知識及び技術の習得を目指す者 21名(左記の研修場所における総受入れ人数)	13名 内訳 農業短大 6名 果樹研 7名	令和6年4月 ～ 令和7年3月

（イ）農産加工研修

ａ　基礎（春コース）

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）営業許可と食品表示	・衛生管理、食品営業許可 ・栄養表示	農産物加工販売予定者15名	16名	5/16(1日)
（ｂ）殺菌と包装	・食品の殺菌方法 ・6次化に関する補助事業等の紹介			5/24(1日)
（ｃ）瓶詰め・袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法			5/31(1日)
（ｄ）事例紹介	・優良農産加工者による事例紹介 ・加工所運営			6/12(1日)

ｂ　基礎（秋コース）

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）営業許可と食品表示	・衛生管理、食品営業許可 ・栄養表示	農産物加工販売予定者15名	8名	9/11(1日)
（ｂ）殺菌と包装	・食品の殺菌方法 ・6次化に関する補助事業等の紹介			9/18(1日)
（ｃ）瓶詰め・袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法			10/ 2(1日)
（ｄ）事例紹介	・優良農産加工者による事例紹介 ・加工所運営			10/16(1日)

ｃ　応用

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）加工技術応用	・新商品づくり ・食品の殺菌方法	農産物加工販売者15名	10名	8/21(1日)

ｄ　施設利用研修

名称	主な内容	対象者	受講者数	期間(日数)
（ａ）農産加工	・行者ニンニクの加工	福島県農産物加工者連絡協議会	15名	6/13(1日)
	・水ようかんのレトルト加工	(株)ニューキムラヤ	4名	7/17(1日)
	・県産素材を使用したジェラート	県産品加工支援センター	7名	9/12(1日)
	・シイタケのオイル漬け試作	合同会社フォーユー	4名	9/13(1日)
	・金山カボチャの加工	福島県農産物加工者連絡協議会	17名	10/30(1日)
	・音波振とうした米粉のシフォン加工	ハチコシフォン	2名	1/28(1日)
	・玄米おかゆとリゾットのレトルト加工	菅原農園	3名	2/27(1日)

（ウ）農業機械研修

ａ　安全運転技術総合コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）けん引操作（農耕車限定）	・けん引免許（農耕車限定）取得に向け、公道を安全に運転ができるための技術習得	農業者等各9名	42名	第1回　5/21～ 5/23(3日) 第2回　5/28～ 5/30(3日) 第3回　6/ 4～ 6/ 6(3日) 第4回　6/11～ 6/13(3日) 第5回　6/25～ 6/27(3日) 第6回 10/ 1～10/ 3(3日) 第7回 10/ 8～10/10(3日)
（ｂ）大型特殊操作（農耕車限定）	・大型特殊免許（農耕車限定）取得に向け、公道を安全に運転ができるための技術習得	農業者等各9名	34名	第1回 10/15～10/17(3日) 第2回 10/29～10/31(3日) 第3回 11/12～11/14(3日) 第4回 11/26～11/28(3日) 第5回 12/ 3～12/ 5(3日)

ｂ　技術向上コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）初めての刈払機	・刈払機の基礎知識 ・基本操作の習得	農業者等各8名	14名	第1回　5/16（1日） 第2回　8/21（1日）
（ｂ）田植機の整備点検	・整備点検技術の習得	農業者等各10名	15名	第1回　2/ 5(1日) 第2回　2/ 6(1日)
（ｃ）初めての農機整備	・農業機械（トラクタ、刈払機管理機）の点検整備	農業者等各8名	16名	第1回　9/ 4（1日） 第2回　1/15（1日）
（ｄ）スマート農業	・ドローンの基本知識及び飛行操作体験 ・ロボット通信技術及び情報通信技術(ICT)の基礎知識	農業者等各8名	14名	第1回 12/18（1日） 第2回 12/19（1日）
（ｅ）初めてのアーク溶接	・アーク溶接の基礎知識 ・基本操作の習得	農業者等8名	7名	2/12～ 2/13(2日)
（ｆ）トラクタ操作技術向上	・トラクタの基本操作 ・ロータリ耕 ・点検整備	農業者等各8名	17名	第1回 11/ 6～11/ 7(2日) 第2回 11/20～11/21(2日)

c　農作業安全推進コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（a）現地支援研修 現地で学ぶ農作業安全	・農作業事故の現状 ・農機械の安全対策	矢吹町・弥栄地区	15名	6/ 2(1日)
		JA東西しらかわ本店	13名	7/ 9(1日)
		JA夢みなみ石川地区	30名	9/26(1日)
		県北農林事務所	16名	11/15(1日)
		南会津農林事務所	7名	12/10(1日)
		白河市農業経営アカデミー	14名	2/26(1日)

d　施設利用研修

名称	主な内容	対象者	受講者数	期　間(日数)
（a）農業機械	・農作業安全	郡山市園芸振興センター研修生	3名	5/17(1日)
	・専門技術向上研修	普及指導員	20名	6/ 7(1日)
	・農作業安全	東京農業大学生	6名	6/21(1日)
	・農作業安全	女性農業者	18名	11/ 8(1日)
	・大型特殊操作	長期就農研修生	4名	1/23～ 1/24(3日)
	・けん引操作	郡山市園芸振興センター研修生ほか	6名	1/29～ 1/31(2日)
	・大型特殊操作	長期就農研修生（果樹研研修生	3名	3/13～ 3/14(1日)

２　福島県農業総合センター農業短期大学校運営会議の開催

大学校が適切かつ円滑に運営されるよう、大学校の教育・研修等の基本的事項について、県内各層の意見を徴し、助言を求めるため設置。令和２年度からは学校教育法に基づく学校関係者評価委員会を兼ねる。

（１）　農業短期大学校運営会議の開催

開催日	開催場所	テ　ー　マ
令和7年 2月3日	農業総合センター 農業短期大学校教養ホール	1　令和６年度の教育実績 2　学校評価 3　令和７年度の教育内容 4　学生の活動紹介（映像による学校・学科紹介） 5　意見交換

（２）　運営会議委員（敬称略）

氏名	所属・役職名等
橋本　淳一	福島県指導農業士会　会長
中田　幸司	うつくしまふくしま農業法人協会　会長
鈴木　正洋	福島県農業会議　担い手・経営対策部長
宍戸　隆之	福島県農業協同組合中央会　JA総合支援部長
菅野　雅敏	就農支援センター　所長
鈴木　憲治	福島県高等学校教育研究会農業部会　部会長
高橋　秀和	福島大学　教授
志間　幸恵	大学校外来講師
中山　展夫	農業短期大学校後援会　会長
小沢　充博	農業短期大学校同窓会　会長
佐藤　周	農業担い手課　課長

Ⅴ　食の安全・環境と共生する農業支援

1　安全農業推進部の業務実績

（1）指導・有機認証課の業務

ア　農薬に関する業務

農薬取締法に基づき、農薬販売の届出受理、農薬販売者に対する立入検査等を実施した。このほか、農薬適正使用、航空防除等の指導を行った。

（ア）　農薬販売届の受理(令和7年3月31日現在)

新規届出	変更届出	廃止届出	販売者総数
63	76	95	1,205

（イ）　農薬販売者立入検査（令和7年3月31日現在）

立入検査延べ数	注意指導票による指導実件数							
		販売の制限、禁止	虚偽宣伝等の禁止	販売所の届出	帳簿の備付、記載、保管	その他(表示等)	指導延べ件数計	左のうち改善済み件数
230	15	0	0	3	27	0	30	30

（ウ）　主な農薬適正使用指導記録

月　日	内　　容	受講者数
7月8、10日	農薬危害防止講習会	291
11月19、20、28日	農薬適正使用アドバイザー認定・更新研修	111
11月19、20、28日	農薬管理指導士認定・更新研修	20

（エ）　ゴルフ場の検査・指導

農薬使用実績に基づく適正使用確認件数	35
福島県ゴルフ場農薬安全使用指導要綱に基づく立入検査	9

（オ）　航空防除（無人航空機）に関する指導　　(　)内は前年比

無人ヘリ防除実施面積	7,409.5ha(86.9%) 内訳：水稲6,810.7ha(87.3%)、大豆451.9ha(81.3%)、麦類137ha(103%)、松10ha(100%))
ﾏﾙﾁﾛｰﾀｰ計画面積(殺虫剤のみ)	6,281.6ha(129.1%) 内訳：水稲5.904.7ha(132.8%)、大豆371.0ha(94.2%)、野菜5.9ha(49.6%)
農薬事故発生状況	0件
指導対応状況	防除実施者等に対し、農薬適正使用、周辺住民等への事前情報提供、飛散防止、作業事故防止、事故発生時の報告方法等について文書で周知し、併せて防除所のホームページ等で農薬適正使用、県ガイドライン改正等を掲載、周知した。

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

（カ）　農作物病害虫防除指針掲載農薬登録変更内容の確認とホームページによる周知

防除指針掲載農薬の登録内容変更に関する情報	12 回

（キ）　農薬流通量調査

令和５年10月～令和６年９月までの期間(令和６農薬年度)を対象に、農薬卸売業者及びホームセンターから農薬販売量の報告を求め、県内の流通量を取りまとめた。

分　類	令和６農薬年度		令和５農薬年度	
	流通品目数	流通量（t、kl）	流通品目数	流通量（t、kl）
殺菌剤	282	647	293	773
殺虫剤	326	1,297	330	1,270
殺虫殺菌剤	173	814	180	902
除草剤	538	2,390	562	2,371
その他	137	4,693	139	4,417
合　計	1,456	9,841	1,504	9,733

※小数点第１位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

イ　農作物の野生鳥獣被害取りまとめ

令和５年４月～令和６年３月までの期間を対象に、各市町村から野生鳥獣による農作物の被害状況の報告を求め､県内の被害状況をとりまとめた｡令和５年度の総被害面積は令和４年度の118.6%、総被害金額は令和４年度の117.5%となった。

分　類	令和５年度		令和４年度	
	被害面積(ha)	被害金額(千円)	被害面積(ha)	被害金額(千円)
鳥害	9.06	36,014	7.92	28,385
獣害	77.59	103,579	65.13	90,463
合計	86.65	139,593	73.05	118,848

ウ　肥料に関する業務

肥料の品質の確保等に関する法律に基づき、知事登録肥料の登録申請等受理及び保証値の分析、指定混合肥料･特殊肥料･肥料販売の届出の指導や受理、生産業者等への立入検査及び収去を実施した。また、県内の肥料の生産量や県内の肥料流通量(入出荷量)の調査を実施した。

（ア）　知事登録普通肥料　登録・届出受理(令和７年３月31現在)

新規登録	登録更新	変更届出	失効届出	登録件数
0	5	17	1	46

（イ）　指定混合肥料届出受理（令和７年３月31現在）

新規届出	変更届出	廃止届出	届出件数
1	12	5	13

（ウ）　特殊肥料生産・輸入届出受理(令和７年３月31現在)

	生産(輸入)業者届出	変更届出	廃止届出	届出件数
生産	35	34	33	685
輸入	0	0	0	11

（エ）肥料販売業務開始届出受理(令和７年３月31現在)

新規届出	変更届出	廃止届出	有効届出数
38	85	42	1,119

（オ）肥料生産・販売事業場立入検査(令和７年３月31現在)

立入検査件数	収去・分析	主な検査・指導事項
104	24	表示票、帳簿、届出内容(生産業者) 内容成分(収去肥料)

（カ）肥料入荷量調査

調査対象期間は、令和５年６月～令和６年５月までとした。

総入荷量は64,096t で、前年比92%であった。うち特殊肥料、土壌改良資材等の入荷量は7,183ｔで前年比59%であった。

単位はｔ、()内は前年比(%)

窒素質	りん酸質	加里質	複　合	石灰質	有機質	副産肥料等	その他	指定混合
1,860 (80)	2,063 (87)	1,929 (120)	15,612 (103)	6,556 (89)	1,280 (93)	1,147 (104)	2,153 (102)	24,314 (102)

（キ）　肥料生産数量調査

令和６年１月～12月までの１年間を対象に、肥料の生産数量を調査し取りまとめた。

項　目	知事登録肥料	指定混合肥料	特殊肥料	輸入特殊肥料
事業者数	19　(14)	5　(4)	501　(430)	6　(1)
銘柄数	47　(33)	13　(10)	609　(503)	11　(1)
生産数量（t）	2,368	533	208,512	20

(　)内は生産・輸入実績があるもの

エ　飼料に関する業務

飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づき、製造届・輸入届の指導や、販売届の受理や業者への立入検査及び収去を実施した。また、省令等改正による鶏・豚・養魚等への牛肉骨粉使用解禁に伴う注意事項の周知を行った。

（ア）　飼料販売届出受理(令和７年３月31現在)

新規届出	変更届出	廃止届出	販売者総数
7	19	2	61

（イ）　飼料添加物販売届出受理(令和７年３月31現在)

新規届出	変更届出	廃止届出	販売業者総数
0	11	2	9

（ウ）　飼料製造・販売事業者立入検査(令和７年３月31現在)

立入検査件数	収去・分析	主な検査・指導事項
59	13	・届出事項、帳簿、表示(動物医薬品的表示は中央家保と合同での指導)、重量検査(製造業者) ・BSE対応ガイドライン、有害物ガイドライン、エコフィードガイドライン等の遵守状況 ・成分分析による栄養性及び安全性の確認(収去飼料)

オ　有機認証に関する業務

日本農林規格等に関する法律(JAS法)に基づき、登録認証機関として有機農産物生産行程管理者の認証業務を実施した。

（ア）業務経過

月　日	内　容
４月22日、７月26日、８月21日	認証書交付式
４月11日	有機認証検査員委任状交付式及び第１回認証業務担当者会議
６月　４日、５日	東北有機JAS登録認証機関合同研修会（秋田県開催）
６月12日	第１回認証業務講習会(受講者25名)
７月24日、25日	FAMICによる事業所調査
９月30日	格付実績及び面積報告(農林水産省へ)
10月　２日	第２回認証業務担当者会議
10月17日、18日	有機JAS指導員研修(基礎研修)　(講師対応)
10月24日	第１回公平性委員会
11月18日	登録認証機関内部監査
11月28日	FAMICによる実地調査の立会対応(１回目)

月　日	内　容
12月10日	第2回認証業務講習会(受講者13名)
12月16日	FAMICによる実地調査の立会対応(2回目)
2月　5日	有機認証業務担当者研修会
2月17日、19日	認証生産行程管理者全体研修会
2月19日	第3回認証業務担当者会議
2月25日	第2回公平性委員会

（イ）認証状況（令和7年3月31日現在）

申請受理件数	2 (152)	
受理後自ら申請を取り下げた件数	0 (　4)	
新たな認証生産行程管理者数	2 (138)	
認証しなかった件数	0 (　8)	
認証を取り消した件数	0 (　2)	
認証を自ら取り下げた件数	6 (82)	
認証生産行程管理者数	52	個人49、組織3、農家総数56
認証ほ場面積(令和5年度)　(a)	7,610	水田5,645、畑1,799、その他166

(　)内は業務開始からの累計

（ウ）有機農産物格付実績(kg)(令和5年度)

野菜	18,924.2
果樹	791.4
米	118,621.6
小麦	0.0
そば	0.0
大豆	0.0
その他豆類	6.6
雑穀	0.0
きのこ類	458,399.4
植物種子（ｴｺﾞﾏ）	0.0
香辛料（ﾊｰﾌﾞ）	107.5
計	596,850.7

令和6年9月に農林水産大臣へ報告

（2）発生予察課の業務

ア　病害虫発生予察事業

植物防疫法に基づき、病害虫の発生予察・診断、防除対策情報提供等を実施した。

（ア）　普通作物

水稲は定点調査22か所、巡回調査260ほ場、麦類は巡回調査36ほ場、ダイズは定点調査3か所、巡回調査36ほ場において病害虫の発生状況を定期的に調査した。また、予察灯1か所、フェロモントラップ延べ26か所で害虫の発生消長を調査した。

（イ）　果樹

リンゴで定点調査8か所、巡回調査39ほ場、モモで定点調査4か所、巡回調査23ほ場、ナシで定点調査5か所、巡回調査25ほ場、ブドウは定点調査3ほ場、カキは巡回調査7ほ場で、病害虫の発生状況を定期的に調査した。また、フェロモントラップ延べ22か所、カメムシ越冬量調査2か所で害虫の発生消長を調査した。

（ウ）　野菜・花き

野菜は、キュウリで定点調査5か所、巡回調査11ほ場、トマトで定点調査5か所、巡回調査11ほ場、イチゴで定点調査5か所、巡回調査20ほ場のほか、アスパラガス、ピーマン、ネギ、ナス、ホウレンソウの巡回調査及び定点調査と、カンショ、バレイショ、ダイコン、ホウレンソウの定点調査を実施した。花きは、キクで定点調査4か所、巡回調査11ほ場、リンドウで巡回調査6ほ場において、病害虫の発生状況を定期的に調査した。

また、フェロモントラップ延べ20か所で害虫の発生消長を調査した。

（エ）　情報の提供

病害虫発生予察情報を延べ16回発表し、各作物の防除対策資料として提供した。また、水稲斑点米カメムシ類、果樹カメムシ類、野菜類・花き類オオタバコガ、ハスモンヨトウの注意報と、ナガエツルノゲイトウ、トマトハモグリバエ、キュウリのCABYV、サツマイモ基腐病、サクセスキクイムシ、キュウリ退緑黄化病の特殊報を発表した。

さらに、麦類赤かび病で1回、水稲斑点米カメムシ類で1回、リンゴ褐斑病で2回、モモせん孔細菌病で1回、モモ灰星病（花腐れ）で1回、モモ・ナシヒメシンクイで2回、モモ・カイガラムシ類で1回、モモハモグリガで1回、ナシ黒星病で1回、ナシ・ナシヒメシンクイで2回、果樹カメムシ類で3回、トマト・トマト黄化葉巻病（TYLCV）で1回、トマト・トマトキバガで1回、花き類シロイチモジヨトウで1回、の計19回の防除情報を発表した。このほか、ホームページに各作物の病害虫発生状況、防除対策情報、BLASTAM、予察灯やフェロモントラップのデータなどの防除情報を提供した。

（オ）　国への報告事務

病害虫発生予察現況報告(13 回)、ウンカ類発生現況報告(随時)、各農作物病害虫発生面積報告(10月、3月)、その他病害虫発生情報等を報告した。

（カ）　病害虫防除員

農家79名、農協職員41名を委嘱し、予察灯やフェロモントラップの調査及び病害虫発生状況情報を定期的に収集した。

イ　病害虫診断同定

令和6年度の依頼件数は、49件であった。

診断・同定の結果	病害	23件(糸状菌9件、ウイルス14件)
	虫害	13件(チョウ目4件、カメムシ目2件等)
	その他	13件(原因不明13件)

ウ　侵入調査事業

重要病害虫の侵入に伴う農業生産の影響を防止するため、県内の未発生地域への重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施できるよう、対象病害虫の発生を調査する。

（ア）侵入警戒調査

a　イネミイラ穂病発生状況調査

水稲の予察ほ場4か所において、国内では未発生のイネミイラ穂病の発生の有無を9月に1回調査した。イネミイラ穂病は、いずれの調査ほ場においても認められなかった。

b　火傷病発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所及び令和6年度に限り中国産花粉輸入禁止措置に関連して、巡回調査ほ場からリンゴ5ほ場、ナシ5ほ場を追加して、国内では未発生の火傷病の有無を5月、10月に調査した。火傷病は、いずれの調査ほ場においても認められなかった。

c　チチュウカイミバエ発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所において、誘引剤(トリメドルア剤)をスタイナー型トラップに入れ、4～10月まで月1回誘殺数を調査した。チチュウカイミバエは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

d　コドリンガ発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査8か所において、誘引剤(コドレルア剤)をジャクソン型トラップに入れ、4～10月まで月1回誘殺数を調査した。コドリンガは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

e　ミカンコミバエ種群発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所において、誘引剤(メチルオイゲノール及びキュウルア混合剤)をスタイナー型トラップに入れ、4～10月まで月1回誘殺数を調査した。ミカンコミバエ種群は、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

f　クインスランドミバエ発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所において、誘引剤(メチルオイゲノール及びキュウルア混合剤)をスタイナー型トラップに入れ、4～10月まで月1回誘殺数を調査した。クインスランドミバエは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

g　ウリミバエ発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所において、誘引剤(メチルオイゲノール及びキュウルア混合剤)をスタイナー型トラップに入れ、4～10月まで月1回誘殺を調査した。ウリミバエは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

h　ウメ輪紋ウイルス(*Plum pox virus*)の発生状況調査

調査地点は県内4か所とし、苗生産園(母樹園)2か所(福島市、伊達市)と、本病が国内ではほぼウメでのみの発生であることから、ウメ生産地のある県中農林事務所農業振興普及部及び会津農林事務所会津坂下農業普及所管内にそれぞれ1か所を設定した。

苗生産園(母樹園)の調査は、ほ場で目視による病徴確認を行った後、病徴の有無によらず1か所当たり5樹を選定し、1樹から成葉5枚以上を採取して横浜植物防疫所に検体を送付し、検定を依頼した。生産園地の調査は、苗生産園(母樹園)と同様に目視調査及び試料採取後、イムノクロマト法によるウイルス検定を行った。

目視調査では、いずれの調査ほ場でも疑似症状は認められなかった。ウイルス検定の結果、すべての検体が陰性であり、本県でウメ輪紋ウイルスの発生は確認されなかった。

i　*Xylella fastigiosa* 発生状況調査

果樹(ブドウ、ナシ)の定点調査4か所において、国内では未発生の *Xylella fastigiosa* による症状の有無を7月に調査した。*Xylella fastigiosa* による症状は、いずれの調査ほ場においても認められなかった。

j　トマトキバガ発生状況調査

県内トマトほ場4か所(田村市、喜多方市、猪苗代町、南会津町)において、令和6年5月からフェロモントラップを設置し、5日おきに調査を行った。7月から誘殺が確認され、8月以降には、これまで本種による被害が確認されなかった会津地方の複数地点で、葉や果実の食害を確認した。

k　トマト関連センチュウ類発生状況調査

侵入警戒有害動植物であるバナナネモグリセンチュウ、コロンビアネコブセンチュウ、カンキツネモグリセンチュウの3種について、発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施した。定点調査3か所(田村市、中島村、南会津町)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査及び農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

バナナネモグリセンチュウ、コロンビアネコブセンチュウ、カンキツネモグリセンチュウの3種による被害は確認されなかった。

l　トマト関連ウイロイド類発生状況調査

ウイロイド類の侵入警戒有害動植物であるCLVd、PCFVd、 TCDVd、TASVd、PSTVdの5種について、定点調査3か所(田村市、中島村、南会津町)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査及び農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

CLVd、PCFVd、 TCDVd、TASVd、PSTVdの5種による被害は確認されなかった。

m　トマト関連ウイルス類発生状況調査

ウイルス類の侵入警戒有害動植物であるPepMV、ToBRFV、ToMMV、ToLCNDVの4種について、定点調査3か所(田村市、中島村、南会津町)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査及び農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

PepMV、ToBRFV、ToMMV、ToLCNDVの4種による被害は確認されなかった。

n　スイカ果実汚斑細菌病の発生状況調査

県内夏秋露地キュウリほ場5か所(伊達市、二本松市、須賀川市、会津坂下)を選定し、令和6年6～9月に月1回調査した。1ほ場あたり任意の100果について、発病の有無を確認した。スイカ果実汚斑細菌病の発生は確認されなかった。

o　ジャガイモがんしゅ病発生状況調査

定点調査2か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員による貯蔵調査を実施した。ジャガイモがんしゅ病の発生は確認されなかった。

p　*Thecaphora solani* 発生状況調査

ジャガイモの病害 *Thecaphora solani* の発生状況について定点調査2か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員による貯蔵調査を実施した。*Thecaphora solani* の発生は確認されなかった。

q　コロラドハムシ発生状況調査

ジャガイモのコロラドハムシの発生状況について、定点調査2か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。コロラドハムシの発生は確認されなかった。

r　ジャガイモシストセンチュウ

定点調査2か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。ジャガイモシストセンチュウの発生は確認されなかった。

(イ) 緊急防除等対象病害虫調査

a　キウイフルーツかいよう病のPsa3系統の発生状況調査

キウイフルーツ生産園地のある農林事務所農業振興普及部及び農業普及所のうち2部所に対し、各2園地程度を選定して目視による病徴確認又は生産者への聞き取り調査を依頼し

た。疑似症状が確認された際は現地調査を行い、発生程度を確認した後、農業総合センター果樹研究所に検体を持ち込み、病原細菌の同定を依頼した。

会津若松市、大熊町及び楢葉町の計 3 園地で調査が行われたが、発生は確認されなかった。

b　クビアカツヤカミキリの発生状況調査

県境に近い県内 4 か所(白河市、西郷村、いわき市 2 か所)で、調査時期はフラスの確認しやすい 4 月上旬及び夏季に調査した。1 か所当たりサクラ 100 樹程度について、フラス及び寄生(成虫、幼虫)の有無を確認した。疑わしいフラスを確認した場合は、夏季の調査時に成虫の有無を再確認した。

一部の樹体にフラスが確認されたが、カミキリムシ類によるものではなかった。また、本種をはじめカミキリムシ類の寄生は確認されなかった。

c　ジャガイモシロシストセンチュウ発生状況調査

定点調査 2 か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。ジャガイモシロシストセンチュウの発生は確認されなかった。

d　テンサイシストセンチュウ発生状況調査

定点調査 2 か所(下郷町、相馬市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回調査及び農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。テンサイシストセンチュウの発生は確認されなかった。

エ　ベトナム向け輸出なし検疫

植物防疫法に基づき、本県より輸出されるベトナム向けなしについて、海外への病害虫の侵出を防止するため、「二国間協議に係る生果実輸出検査実施要領」に基づき輸出検疫を行った。

病害虫防除所職員(4 名)が横浜植物防疫所長より栽培地検査補助員を委嘱され、輸出対象のなし生産園地(いわき市)について補助員検査を実施した。

オ　主要病害虫の発生状況

（ア）水稲

a　いもち病

本田での葉いもちの初発確認は、中通り地方で 8 月下旬、会津地方、浜通り地方で 7 月下旬だった。高温の影響によって発病が抑制され、8 月上旬の発生ほ場割合は平年より低く、すべて微発生だった。

穂いもちの初発確認日は、全域で平年並であった。9 月上旬の発生ほ場割合は、中通り地方、浜通り地方で平年より低かったが、会津地方で発病程度の高いほ場が確認された。

b　紋枯病

紋枯病の初発確認日は、全域で平年並であった。発生ほ場割合、発生程度ともに平年並みに推移したが、一部の常発地域で高温の影響によって病斑が上位葉へ進展し、穂枯れに至った株も確認された。

c　稲こうじ病

9 月上旬の発生ほ場割合は、全域で平年より低く、発病程度も低かった。

d　ごま葉枯病

9 月上旬の発生ほ場割合は、中通り地方で平年よりやや低く、浜通り地方でやや高く、会津地方では発生が確認されなかった。

e　イネミズゾウムシ

6 月下旬の発生ほ場割合は、全域で平年並～高く、浜通り地方では被害程度の高いほ場も確認された。

f　イネドロオイムシ(イネクビホソハムシ)

6 月下旬の発生ほ場割合は、中通り地方で平年より低く、会津地方、浜通り地方では発生が確認されなかった。チアメトキサム剤に対する感受性低下が確認されている地域では、薬剤の置き換えが進んでいる。

g　ニカメイガ(ニカメイチュウ)

幼虫の発生ほ場割合は、全域で平年並か低かった。

h　フタオビコヤガ(イネアオムシ)

8 月の幼虫の発生ほ場割合は、発生程度ともに平年より低く、すくい取りでも発生量は平年より少なかった。

i　イナゴ類

すくい取り調査では、8 月上旬の発生地点割合は、中通り地方、会津地方で平年並みからやや高く、浜通り地方で平年より低かった。

j　斑点米カメムシ類

畦畔雑草でのすくい取り調査では、平年より発生地点割合、発生程度が平年より高く、注意報を発表した。本田でのすくい取り調査では、発生地点割合、発生程度とも平年並だった。坪刈り調査における斑点米混入率は平年並だった。

k　イチモンジセセリ(イネツトムシ)

8月下旬の幼虫の発生ほ場割合は、中通り地方で平年より低く、会津地方、浜通り地方で平年よりやや高かった。

(イ) ムギ類(令和5年産)

a　赤かび病

6月の発病穂率は、中通り地方、浜通り地方で平年より低く、会津地方では発生が確認されなかった。

b　雪腐病類

会津地方の麦産地では、長期根雪が見られず、発生はほとんど見られなかった。

(ウ) ダイズ

a　紫斑病

子実調査の被害粒率は、中通り地方で平年よりやや高く、会津地方で高く、浜通り地方で低かった。

b　べと病

8月の発生ほ場割合は、中通り地方で平年並、会津地方、浜通り地方で平年より高かった。子実調査では、被害は全域で平年並～やや多かった。

c　吸実性カメムシ類

9月の払落し調査では、県全体で発生が平年より多かった。子実調査では、被害は全域で平年より多かった。

d　フタスジヒメハムシ

9月の払落し調査では、払落し頭数は中通り地方、浜通り地方で平年並、会津地方で多かった。子実調査では、被害は中通り地方、浜通り地方で平年並、会津地方で多かった。

e　マメシンクイガ

子実調査では、被害は全域で平年よりやや少ない～少なかった。連作初年目でも、連作ほ場が付近にあったことで被害が大きいケースが確認された。

f　ウコンノメイガ

8月の幼虫による葉巻の発生程度は、中通り地方で平年よりやや高く、会津地方で平年並、浜通り地方で平年より低かった。

(エ) リンゴ

a　斑点落葉病

新梢葉での発生は、5月下旬から確認された。発生ほ場割合は、ほぼ平年並に推移した。

b　褐斑病

5～6に果そう葉での発生が確認された。新梢葉での発生は6月から確認され、発生ほ場割合はおおむね平年並で経過した。10月には中発生のほ場が多く確認された。

c　腐らん病

5月下旬の発生ほ場割合は、平年並であった。

d　輪紋病

9月～11月の発生ほ場割合は、平年より高く推移し、県中・県南では発生程度が高い傾向であった。

e　すす点病

中通りでは、9月上旬から発生が確認され、発生ほ場割合は、平年並で推移した。

f　シンクイムシ類

ナシヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺は、4月3半旬から確認された。越冬世代、第1世代の誘殺数は平年よりも多く、それ以降は昨年と同程度であった。果実での被害は、9、10月に確認された。

g　アブラムシ類

新梢での寄生の発生ほ場割合は、5、6月とも平年より低かった。

h　ハダニ類

新梢葉の寄生が確認されたのは6月からで、8月の発生ほ場割合は平年よりやや高くなったものの、9月には平年より低くなった。

中通りではナミハダニ、会津ではリンゴハダニが優占する傾向にあった。

(オ) モモ

a　せん孔細菌病

春型枝病斑の初発確認は、3 月 22 日(参考調査「ゆうぞら」)であった。発生ほ場割合は、平年並であった。新梢葉での発生は 5 月下旬から確認され、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移したが、9 月下旬には平年並になった。果実の発生ほ場割合は、平年よりやや低かった。

b　シンクイムシ類

ナシヒメシンクイによる新梢の被害は、7 月から確認され、発生ほ場割合は平年より高く推移した。

c　モモハモグリガ

前年からの越冬量は、平年より多かった。

新梢葉の被害は、5 月上旬から確認され、発生ほ場割合は、平年よりかなり高かった。その後一斉に防除が行われ、6 月以降発生ほ場割合は低下していき、9 月には被害葉が確認されなくなった。

d　ハダニ類

新梢葉の寄生は、5 月から確認された。7～8 月は発生ほ場割合が急増し一部では寄生程度の高いほ場も見られたが、9 月には急減した。優占種は、クワオオハダニであったが、ナミハダニが確認される場合も多かった。

(カ) ナシ

a　黒星病

花そう基部病斑の初確認は、4 月 13 日であった。5 月の発生ほ場割合は、平年よりやや少なかった。新梢葉での発生は、5 月下旬から確認された。発生ほ場割合は、平年並～少なく、果実での発生は 6 月下旬から確認された。発生ほ場割合は、平年並～少なく推移した。

b　シンクイムシ類

ナシヒメシンクイによる果実被害は、8 月下旬から確認され、平年よりやや多かった。

c　ハダニ類

新梢葉の寄生は、県北では 7 月下旬に確認され、発生ほ場割合は、平年並～少なく推移した。県中・県南では、6 月下旬に確認され、発生ほ場割合は、平年並に推移した。浜通りでは、8 月下旬から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

(キ) ブドウ

a　晩腐病

収穫直前の調査で、発生が確認されたほ場があった。

(ク) カキ

a　円星落葉病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並であった。

(ケ) 果樹共通

a　果樹カメムシ類

フェロモントラップへの誘殺は 4 月 5 半旬から確認され、全ての地点で誘殺数は平年より多く推移した。9～10 月に誘殺数が増加した福島市飯坂町、国見町、鏡石町の誘殺種の主体はツヤアオカメムシであった。

リンゴの果実被害は 7 月下旬に確認され、その後発生ほ場割合は平年より高く推移した。

ナシの果実被害は、6 月下旬から確認され、8～9 月の発生ほ場割合は平年より多かった。

モモは、平年値が「0」であったが、5、7 月に果実被害が確認された。

(コ) 夏秋トマト

a　灰色かび病

7 月から発生が確認され、発生ほ場割合は生育期間を通して平年並に推移した。8 月以降、発病程度の高いほ場が多かった。

b　葉かび病

7 月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。8 月下旬の降水量が多かったことから、9 月に発生ほ場割合及び発病程度の高いほ場が多かった。

c　すすかび病

8 月から発生が確認され、発生ほ場割合は、平年並に推移した。

d　かいよう病

8 月から常発ほ場を中心に発生が確認された。

e　オオタバコガ(タバコガ類)

フェロモントラップの誘殺数は、7月に平年より早く、平年のピークを上回った。7月の被害果の発生ほ場割合は、平年より高かった。

f　コナジラミ類

6月から発生が確認され、7月以降発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。巡回調査では、複数のほ場で黄化葉巻病の発生が確認された。

g　アザミウマ類

7月から被害果(白ぶくれ果)の発生が確認されたが、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した。

(サ) 夏秋キュウリ

a　べと病

6月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

b　うどんこ病

7月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

c　炭疽病

7月から発生が確認され、以降発生量が増加した。発生ほ場割合は、平年よりやや高く推移した。

d　褐斑病

7月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した。

e　モザイク病

6月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年より高かったが、その後は平年並に推移した。

f　アブラムシ類

6月から寄生が確認され、発生ほ場割合は、平年並に推移した。

g　ハダニ類

6月から寄生が確認され、7月中旬の降水量が多かったことから、7月の発生ほ場割合は、やや低かった。8月以降は、高温のため増加し、平年並となった。

(シ) イチゴ(令和5年定植)

a　灰色かび病

果実被害は2月から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

b　うどんこ病

1月の発生ほ場割合は、平年よりやや低かったが、その後は平年並に推移した。果実被害は、1月から確認された。

c　土壌病害（炭疽病、萎黄病）

感染した苗の本圃への持ち込みにより定植直後から発生が確認され、補植しているほ場が確認された。発生ほ場割合は、平年より高く推移した。

d　アブラムシ類

定植直後から寄生が確認された。春先の温暖な気候により飛来が平年より早く、3月の発生ほ場割合は平年よりやや高かった。4月以降は平年並に推移した。

e　コナジラミ類

発生ほ場割合は、作期を通して平年よりやや低く推移した。

f　アザミウマ類

花への寄生は1月から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。4月中旬から5月上旬にかけて降水量が少なく、気温も高かったため、5月は寄生度の高いほ場が確認された。主要寄生種は、ヒラズハナアザミウマとミカンキイロアザミウマであった。

g　ハダニ類

発生ほ場割合は、平年並に推移した。カブリダニ剤の放飼により、寄生密度を抑えるほ場が多くなってきている。主要寄生種は、ナミハダニであった。

h　ハスモンヨトウ

10月から発生が確認され、10月の寄生度は、平年より高かった。フェロモントラップによる誘殺数は、8月5半旬～9月4半旬にかけて平年を大きく上回った。

(ス) キク

a　白さび病

苗床からの持ち込みと思われる感染株が5月から確認された。発生ほ場割合は、栽培期間を通してやや低かった。6月、8月は、一部ほ場で発病度の高いほ場がみられた。

b　アブラムシ類

5、6月の発生ほ場割合は、平年並であった。7月は発生が確認されなかったが、8月にかけて再び発生ほ場割合は平年並となった。

c　ハダニ類

5月から寄生を確認した。発生ほ場割合は、平年並に推移した。主要寄生種はナミハダニであった。

d　オオタバコガ(タバコガ類)

平年より早い5月から被害を確認し、7月の発生ほ場割合が平年より高くなった。8月の発生ほ場割合は平年並であったが、被害度の高いほ場が目立った。

フェロモントラップによる誘殺数は、5月1、3半旬、7月1、5半旬、8月1、5半旬に浜通り北部（新地町）、5月3～5半旬、7月2半旬、8月4半旬、9月の2半旬に会津地方(猪苗代町)、5月3～5半旬、7月1～4半旬、8月4半旬に県北地方(伊達市)で平年を大きく上回った。

e　アザミウマ類

定植直後の5月から寄生を確認した。栽培期間中の高温により、5～7月の寄生密度は平年よりやや高く推移した。一部ほ場では、クロゲハナアザミウマの寄生が確認され、葉にシルバリング症状が見られた。

f　ナモグリバエ

5月から寄生を確認した。発生ほ場割合は、平年より低く推移した。

（セ）リンドウ(例年：2015年～2022年の8年間平均)

a　葉枯病

5月から発生を確認した。発生ほ場割合は5～8月の期間を通し、やや高く推移した。

b　褐斑病

8月に発生を確認した。発生ほ場割合は例年より高く、発病程度の高いほ場も確認された。

c　ハダニ類

7月から寄生が認められた。発生ほ場割合は、5、6月は確認されなかったが、7～8月は例年並に推移した。

d　リンドウホソハマキ

例年よりやや早い5月中旬から成虫の飛来が確認された。発生ほ場割合は、栽培期間を通して平年より低かった。本種による芯折れ被害は6、7月に確認された。

（３）分析課の業務

ア　農林水産物を対象とした緊急時環境放射線モニタリングの実施

災害対策基本法及び原子力災害対策特別措置法等に基づき、農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング検査を実施した。当課は、主務課が作成したサンプリング計画に基づき農林事務所等が採取した試料の放射性物質（放射性セシウム）を測定し、測定結果を原子力災害現地対策本部に報告した。

県が公表した農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング実施状況は、以下のとおりである。

農林水産物の緊急時モニタリング実施状況

令和7年3月31日
福島県環境保全農業課

【令和6年度（出荷確認検査）※1】

食品群	品目数	基準値※2（100Bq/kg）以下点数	基準値※2（100Bq/kg）超過点数	検査結果点数	月別											
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
玄米※3	1	201	0	201	0	0	0	0	21	180	0	0	0	0	0	0
穀類（玄米除く）	6	167	0	167	0	0	12	31	17	5	28	32	35	4	3	0
野菜	164	1,448	0	1,448	159	217	213	280	149	51	94	165	66	14	15	25
果実	35	406	0	406	0	3	39	29	61	122	87	52	11	1	1	0
原乳	1	85	0	85	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
肉類	6	1,572	1※7	1,573	156	108	107	141	114	208	143	170	101	108	98	119
鶏卵	2	77	0	77	6	8	5	9	4	1	11	8	4	9	4	8
はちみつ	1	37	0	37	0	4	32	0	0	0	0	1	0	0	0	0
牧草・飼料作物	－	600	0	600	2	49	76	57	58	86	84	79	91	18	0	0
水産物（海産）※4※5	182	3,257	0	3,257	349	281	330	182	148	225	358	332	284	238	276	254
水産物（河川・湖沼）※5	13	127	0	127	18	12	16	18	7	11	12	4	1	0	0	28
水産物（内水面養殖）	5	20	0	20	4	5	2	3	1	0	0	0	2	2	1	0
山菜（野生）	17	297	2※7	299	120	139	30	2	1	0	0	0	0	0	1	6
山菜（栽培）	1	80	0	80	61	12	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0
きのこ（野生）	42	115	0	115	0	0	0	8	6	11	68	22	0	0	0	0
きのこ（栽培）	30	511	0	511	24	32	39	18	15	46	218	76	19	11	3	10
果実（野生）	1	7	0	7	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0
樹実類	3	17	0	17	1	1	0	0	1	2	5	4	3	0	0	0
合　計	510※6	9,024	3	9,027	908	878	914	786	610	955	1,122	952	624	412	409	457

※1　出荷・販売用の品目を対象に実施した検査（出荷制限等品目の解除に向けた検査を除く）
※2　食品衛生法における食品の基準値（セシウム134、セシウム137の合算値）　（一般食品）100Bq/kg、（牛乳）50Bq/kg
※3　玄米のモニタリング検査は、米の全量全袋検査を実施している8市町村を除く地域で実施
（令和6年産米の全量全袋検査実施8市町村：南相馬市、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村、川俣町（旧山木屋村））
（米の全量全袋検査の結果：ふくしまの恵み安全対策協議会　https://fukumegu.org/ok/contentsV2/）
※4　ズワイガニ（オス）、ズワイガニ（メス）はそれぞれ1品目として集計
※5　シロザケ（筋肉）、シロザケ（精巣）、シロザケ（卵巣）はそれぞれ１品目とし、「海産」と「河川・湖沼」のそれぞれにおいて集計
※6　シロザケ（筋肉）、シロザケ（精巣）、シロザケ（卵巣）は、品目数合計では「海産」と「河川・湖沼」の区別をしない
※7　基準値超過は、ねまがりたけ２点、牛肉１点

●出荷制限等品目の解除に向けた検査（令和6年度公表）

食品群	品目数	基準値（100Bq/kg）以下点数	基準値（100Bq/kg）超過点数	検査結果点数	月別											
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
野菜	6	41	0	41	0	0	0	41	0	0	0	0	0	0	0	0
果実	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水産物（海産）	1	157	0	157	52	57	24	13	4	2	5	0	0	0	0	0
水産物（河川・湖沼）	3	317	0	317	9	16	13	63	76	70	48	19	2	0	0	1
山菜（野生）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
きのこ（野生）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	10	515	0	515	61	73	37	117	80	72	53	19	2	0	0	1

●食品群の区分方法について
詳細は、「ふくしま復興情報ポータルサイト」の「これまでのモニタリング検査結果【年度別集計】」参照
（https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-monthly-report.html）

イ　その他検査の実施

出荷等制限品目の解除可否を判断する等、上記アの検査に資するため、県の自主的な検査を実施した。

検査名	検査実績	検　査　の　概　要
事前確認検査	1,176点	農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング検査の品目のうち、出荷等制限品目の解除可否を判断する検査等
その他の検査	86点	農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング検査の他に主務課が必要とし、環境保全農業課が認める品目等の検査

ウ　放射性物質測定技能試験

測定・分析の技能の維持及び向上のため、各種技能試験を実施した。

参加した精度管理	実施主体	検査項目	評価結果
IAEA-TERC-2024-01 World Wide Open Proficiency Test Exercise	国際原子力機関(IAEA)	Pb-210、Ra-226	農業総合センターで使用しているGe半導体検出器でサンプルの水を測定した。測定可能なPb-214、Bi-214の濃度を測定し、報告した。しかし、Pb-214、Bi-214は評価の対象外との結果であった。
福島県放射能分析精度管理事業	福島県環境創造センター	Cs-134、Cs-137	良好

2 有機農業推進室の業務実績

（1）有機農業推進担当者等連携会議の開催

有機農業の技術確立、普及を目的とし、次のとおり開催した。

回	開催月日	内　　容
第1回	4月10日	有機農業の推進体制について、環境にやさしい農業拡大推進事業について、有機農業担当者等連携会議の開催について、オーガニック通信の発行について
第2回	6月28日	会津地域の環境にやさしい実証ほ見学、普及活動の推進状況等について、環境にやさしい農業拡大推進事業について
第3回	8月 2日	浜通り地域の環境にやさしい実証ほ見学、環境にやさしい農業拡大推進事業について
第4回	10月 2日	中通り地域の環境にやさしい実証ほ見学、普及活動の推進状況等について、環境にやさしい農業拡大推進事業について、環境にやさしい農業セミナーについて
第5回	12月13日	環境にやさしい農業拡大推進事業について、次期普及指導計画について、次年度の試験研究、現地実証ほ等について

（2）有機農業技術実証の取組

応用的技術の実証・確立や、各地方の実態を踏まえた有機農業の推進活動を展開するため、県内6か所に有機農業実証ほを設置した。

No	作物	実証地区	担　当	実証内容	結　　果
1	水稲	郡山市	農業総合センター有機農業推進室	水稲有機栽培における屑大豆を利用した施肥の実証	実証区(屑大豆)の収量は、慣行区(無肥料)に比べ40kg/10a程度多かったが、対照区(有機質肥料)より 112kg/10a 程度少なかった。玄米のタンパク質含量は5.5%で慣行区とおおむね同程度となり、屑大豆施用による品質低下は見られなかった。
2	キャベツ	郡山市	農業総合センター有機農業推進室	キャベツ有機栽培における緑肥利用による減肥効果	緑肥クロタラリア(草丈 135 cm)をすき込み、無肥料区、50%減肥区、20%減肥区に分け、キャベツを定植した結果、50%減肥区と 20%減肥区は慣行区(緑肥なし・通常施肥)と同等の収穫日で、無肥料区で一部生育が遅れていた株も 6 日後には収穫できた。
3	水稲	昭和村	会津農林事務所農業振興普及部	山間地域における水稲紙マルチ栽培の地域適応性の検証	紙マルチ栽培は、地温の上昇を抑制させるため若干の生育遅延や収量低下が発生した。一方、食味の向上が認められた。
4	イチゴ	会津若松市	会津農林事務所農業振興普及部	イチゴの有機栽培における脂肪酸グリセリド乳剤を使用したアブラムシ類及びうどんこ病の防除法の検証	脂肪酸グリセリド乳剤を定植後から7日間隔で散布することで、アブラムシ類の密度を低下させることができ、被覆後（保温開始後）も低密度を維持した。調査期間を通して、うどんこ病の発生はなかった。
5	水稲	南相馬市	相双農林事務所双葉農業普及所	液肥「エキタン有機」追肥による収量品質確保の実証	液肥「エキタン有機」を幼穂形成期以降に2回に分けて追肥した区と、1回で追肥した区を調査した結果、収量、品質はほぼ同等であった。
6	アスパラガス	浪江町	相双農林事務所双葉農業普及所	簡易ハウスを活用したアスパラガス有機栽培の半促成長期取り実証	斑点病の発生により生産量は 300kg/10aとなったが、害虫や肥培管理による生育への影響はなかったことから、今後は予防防除を基本とした病害対策を行うことで安定した生産が期待される。

（3）各種技術研修会等の開催

有機農業技術に関する栽培技術や販路拡大の支援、実需者などの理解促進を図るため、研修会などを開催した。

回	開催月日	場　所	研修名	内　　容	参加者数
1	7月23日	福島市	福島学院大学短期大学部学生向け理解促進講座	有機農業・有機農産物の概要や本県の有機農業推進活動等に関する講義に加え、生産者より有機農業の取組について講義を行った。併せて、有機野菜の調理・試食を行った。	学生17名
2	9月7日	農業総合センター	ぼかし肥料作成体験	農業総合センターまつりで、親子を対象に有機農業の説明とぼかし肥料作成体験を行った。	親子11組33名
3	10月24日	二本松市	桜の聖母短期大学学生向け理解促進講座	有機農業・有機農産物の概要や本県の有機農業推進活動等に関する講義に加え、生産者より有機農業の取組について講義を行った。併せて、有機野菜の収穫体験を行った。	学生20名
4	11月20日	郡山市	野菜有機栽培講習会	野菜有機栽培の基本技術の講義に加え、生産者より有機農業の取組事例について講義を行った。併せて、緑肥を活用した減肥試験ほ場の見学を行った。	12名
5	1月16日	郡山市	郡山女子大学短期大学部学生向け理解促進講座	有機農業・有機農産物の概要や本県の有機農業推進活動等に関する講義に加え、生産者より有機農業の取組について講義を行った。	学生20名
6	3月7日	農業総合センター	環境にやさしい農業セミナー	講演「もうかる・誇れる有機農業」 株式会社アグリーンハート 代表取締役 佐藤拓郎氏 講演「緑肥作物の種類と使い方」 カネコ種苗株式会社 瀬音幸弘氏 試験研究成果、現地実証ほ成果報告 有機農業推進室 主査(ｷｬｯﾌﾟ) 木幡由美子 主任研究員 根本和俊	97名

（4）有機農業者組織への活動支援

有機農業者組織への活動支援を次のとおり行った。

対象組織名	支　援　内　容	活動月日
福島県有機農業ネットワーク	総会	6月4日
郡山環境保全農業研究会	第1回定例会	6月10日
	研修会（いわき市、南相馬市）	8月1日
	第2回定例会	10月28日
	総会	3月24日
オーガニックふくしま安達	相互巡回	7月26日
	出荷反省会・総会	2月4日
やまろく米出荷協議会	高温障害に対する米作り技術検討会	12月21日
	総会	1月26日
二本松ヨークベニマル出荷者	みえるらべる勉強会	1月24日
ZEROベジ	設立総会	2月27日

（5）広報誌「オーガニック通信」の発行

有機農業推進のための各種情報を掲載した広報誌を3回発行した。

第1号（ 7月　9日発行）

第2号（11月　7日発行）

第3号（ 3月24日発行）

（6）農業総合センター農業短期大学校での有機農業の講義・研修の実施

ア　本科2学年の学生43名に対して、6月から7月にかけて7回の講義を行った。

イ　就農研修（中級）有機農業講座の受講生12名に対して、研修を実施した。

6月 6日　有機農業の基礎、ぼかし肥料づくり実習(センター内)

6月14日　水稲有機栽培に関する講義・現地研修(センター内、郡山市有機現地ほ場)

7月30日　野菜有機栽培に関する講義・現地研修(センター内、郡山市有機現地ほ場)

Ⅵ　県民との交流・情報発信

1 交流事業

（1）第17回農業総合センターまつり

会　場	開催月日	入場者数	内　　容
本部	9/ 6(金)～ 7(土)	3,710人 920人(6日) 2,790人(7日)	セミナー（農業技術、家庭菜園、各種）、センターツアー、農業技術相談、研究成果ＰＲ、スマート農機実演、RTK PR、玄米･大豆100粒ピッタリ当てゲーム、県内で問題となっている病害虫の展示、体験イベント、ぼかし肥料作成体験、農業機械展示、協賛出展、畜産研究所コーナー、動物愛護コーナー、キッチンカー
果樹研究所	9/12(木)	713人	技術移転セミナー、技術・就農相談、研究成果展示、ほ場案内、農産物販売

（2）農的楽しみセミナー

家庭菜園セミナーに替えて、9月7日に実施した。

（3）子どもアグリ科学教室

開催なし

（4）イモ掘り体験学習（サツマイモ収穫体験）

月日	保育園(所)名	参加児童数
10/ 1(火)	アイグラン保育園郡山東原	10名
10/ 3(木)	きっずファーストスペース「れいるあ」	6名
10/10(木)	岡ノ城保育園	16名

（5）第15回田んぼの学校

郡山市立高倉小学校の5年生7名、6年生1名の児童を対象とした。

回	月　日	内　　容	講　師	参加人数
1	5/24	講義「米作りについて1」 実習「田植え」	作物園芸部稲作科 新妻　和敏	8名
2	6/19	講義「米作りについて2」 実習「田車による除草作業」	作物園芸部稲作科 新妻　和敏	8名
－	7/ 2	番外編～田んぼの生き物観察～	安全農業推進部指導・有機認証課 齋藤　伸考	14名*
3	10/ 2	実習「稲刈りとはせ掛け作業」	作物園芸部稲作科 新妻　和敏	8名
4	11/11	講義・実習・体験「脱穀」「お米の食べ比べ」	作物園芸部品種開発科 松崎　拓真	8名

＊1、2年生6名含む

（6）農業総合センター農業短期大学校の取組

回	月　日	内　　容	講　師	参加人数
1	5/16	サツマイモ苗の植付体験（中島村立中島幼稚園）	菅野寛人	98名
2	5/20	サツマイモ苗の植付体験（認定こども園ポプラの木）	菅野寛人	36名
3	10/24	サツマイモ苗の収穫体験（中島村立中島幼稚園）	菅野寛人	83名
4	10/11	サツマイモ苗の収穫体験（認定こども園ポプラの木）	菅野寛人	86名

回	月　日	内　　容	講　師	参加人数
5	4/17	果樹園見学（認定こども園ポプラの木）	阿部兼太郎	30 名
6	4/26	果樹園見学（認定こども園ポプラの木）	阿部兼太郎	30 名
7	7/24	果樹園見学（認定こども園ポプラの木）	阿部兼太郎	30 名
8	8/22	果樹園見学（認定こども園ポプラの木）	阿部兼太郎	30 名
9	11/14	果樹園見学（矢吹町ひかり保育園）	阿部兼太郎	25 名
10	2/26	学校見学（三神小学校）	小野浩嗣	19 名
11	3/10	果樹園見学（認定こども園ポプラの木）	阿部兼太郎	28 名
12	8 月～ 10 月	講義　矢吹町との連携 実習　フロンティア農園（野菜づくり）4 回	源祐生	49 名

2　視察見学者の受入状況

月	本部					果樹研究所					畜産研究所				
	団体数				人数	団体数				人数	団体数				人数
	県内	県外		計		県内	県外		計		県内	県外		計	
		国内	国外				国内	国外				国内	国外		
4 月	0	0	1	1	30	0	0	0	0	0	35	0	0	35	35
5 月	1	0	2	3	43	2	1	0	3	25	0	0	0	0	0
6 月	3	2	1	6	193	1	2	0	3	116	6	0	0	6	6
7 月	7	6	1	14	116	2	14	0	16	269	0	0	0	0	0
8 月	5	2	1	8	75	2	6	0	8	86	8	7	0	15	15
9 月	2	2	1	5	53	2	1	0	3	24	4	4	0	4	4
10 月	4	2	0	6	82	0	5	1	6	44	0	0	0	0	0
11 月	5	11	0	16	319	0	5	0	5	39	12	0	0	12	12
12 月	3	5	0	8	179	1	2	0	3	38	0	0	0	0	0
1 月	3	2	0	5	127	1	2	0	3	27	7	0	0	7	7
2 月	2	3	0	5	67	5	3	0	8	50	1	0	0	1	1
3 月	0	2	0	2	2	1	1	0	2	2	1	1	0	0	0
計	35	37	7	79	1,286	17	42	1	60	720	74	12	0	80	80

月	会津地域研究所					浜地域研究所					浜地域農業再生研究センター				
	団体数				人数	団体数				人数	団体数				人数
	県内	県外		計		県内	県外		計		県内	県外		計	
		国内	国外				国内	国外				国内	国外		
4 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
6 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 月	1	1	0	2	32	1	0	0	1	6	0	0	0	0	0
8 月	1	0	0	1	20	0	1	0	1	7	0	0	0	0	0
9 月	1	1	0	2	24	0	1	0	1	3	0	1	0	1	1
10 月	2	0	0	2	14	0	0	0	0	0	2	1	0	1	58
11 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	10
1 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	2	0	7	90	1	2	0	3	16	3	3	0	3	71

月	総計				
	団体数				人数
	県内	県外		計	
		国内	国外		
4月	35	0	1	36	65
5月	4	1	2	6	70
6月	10	4	1	15	315
7月	11	21	1	33	423
8月	16	16	1	33	203
9月	9	10	1	16	109
10月	8	8	1	15	198
11月	17	16	0	33	370
12月	4	8	0	12	227
1月	11	4	0	15	161
2月	8	6	0	14	118
3月	2	4	0	4	4
計	135	98	8	232	2,263

注 1）人数は個人見学者と団体見学者の合計。畜産研究所は沼尻分場を含む。
注 2）オンラインツアーへの対応含む(本部)。

３　施設の利用状況

（１）多目的ホール、大会議室

ア　件数及び利用者数

月	農業関係		一般		県関係		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4 月	6	320	3	200	7	400	16	920
5 月	7	380	6	370	3	110	16	860
6 月	8	575	13	935	4	150	25	1,660
7 月	7	340	11	1,000	11	680	29	2,020
8 月	3	210	7	520	9	340	19	1,070
9 月	3	190	6	390	3	110	12	690
10 月	4	240	16	1,500	12	685	32	2,425
11 月	4	265	7	665	10	731	21	1,661
12 月	3	170	4	250	11	455	18	875
1 月	2	200	2	110	8	470	12	780
2 月	7	485	7	700	7	290	21	1,475
3 月	3	90	7	542	5	250	15	882
合計	57	3,465	89	7,182	90	4,671	236	15,318

イ　会場別（多目的ホール）

月	農業関係		一般		県関係		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4 月	0	0	3	200	4	285	7	485
5 月	2	110	3	280	1	50	6	440
6 月	4	330	8	760	1	45	13	1,135
7 月	2	160	6	750	7	535	15	1,445
8 月	1	50	3	330	4	205	8	585
9 月	1	100	4	330	0	0	5	430
10 月	3	190	9	965	4	445	16	1,600
11 月	1	120	3	450	3	530	7	1,100
12 月	0	0	2	180	4	200	6	380
1 月	2	200	1	100	5	310	8	610
2 月	4	340	5	570	4	200	13	1,110
3 月	1	40	5	500	2	160	8	700
合計	21	1,640	52	5,415	39	2,965	112	10,020

ウ　会場別（大会議室）

月	農業関係		一般		県関係		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4 月	6	320	0	0	3	115	9	435
5 月	5	270	3	90	2	60	10	420
6 月	4	245	5	175	3	105	12	525
7 月	5	180	5	250	4	145	14	575
8 月	2	160	4	190	5	135	11	485
9 月	2	90	2	60	3	110	7	260
10 月	1	50	7	535	8	240	16	825
11 月	3	145	4	215	7	201	14	561
12 月	3	170	2	70	7	255	12	495
1 月	0	0	1	10	3	160	4	170
2 月	3	145	2	130	3	90	8	365
3 月	2	50	2	42	3	90	7	182
合計	36	1,825	37	1,767	51	1,706	124	5,298

（２）開放実験室　　（利用件数）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	1	0	0	0	1	7	26	6	6	5	2	1	55

（３）図書室

ア受入れ書籍類

項　目	冊　数
図書類	20 冊
雑誌類	171 冊
資料類	79 冊

イ県民貸出冊数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
貸出者数	7	0	4	3	0	1	0	1	6	3	4	4	33
貸出冊数	13	0	9	17	0	1	0	5	15	4	7	9	80

４　研究成果の発表

（１）　学会等研究発表

No	所　属	発表、講演者	演　　題	名　称　等	年 月
1	安全農業推進部	藤田剛輝 瀧田誠一郎	福島県県北地方における 2024 年のモモ灰星病花腐れ症状の多発要因	令和 6 年度日本植物病理学会東北部会	2024. 9
2		藤田剛輝	福島県県中地方のリンゴ園におけるリンゴモンハマキの発生消長	第 28 回農林害虫防除研究会	2024.10
3		藤田剛輝 瀧田誠一郎	福島県中通り地方における 2024 年の果樹カメムシ類の多発生とスギ・ヒノキ花粉飛散数を用いた越冬世代の発生量予測	第 78 回北日本病害虫研究発表会（ポスター発表）	2025. 2
4		藤田剛輝 瀧田誠一郎 平塚美咲	2024 年の高温条件下におけるウメシロカイガラムシの発生回数の増加と発生時期の早期化	関東東山病害虫研究会第 17 回研究発表会	2025. 2
5	企画経営部	青田 聡	福島県内における農作業負傷事故の発生事例	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
6		小泉拓真	データベースを活用した経営シミュレーションツールの開発	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
7		宮川貴光	福島県相馬地域におけるブロッコリー収穫機導入の経済性評価	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
8		作田善紀	ブロッコリー選別自動収穫機の性能評価	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
9	生産環境部	*Ken TABUCHI, Hideto YOSHIMURA,* Kouki YOSHIDA, Nobuhiro MATSUKI, Masataka YAMADA, Hitomi MAEHARA, Hideaki WATANABE	Predicting crop damage by hemipteran rice pests from land use data	XXVII International Congress of Entomology	2024. 8
10		前原 瞳 山田真孝	福島県における BLASTAM 利用開始時期の検討	第 78 回北日本病害虫研究会	2025. 2
11		松木伸浩 前原 瞳	福島県県中地方におけるクモヘリカメムシの発生域拡大	第 78 回北日本病害虫研究会	2025. 2
12		前原 瞳 *中野悠平* *菅原隆介* *小林 隆*	UAV 搭載マルチスペクトルセンサを用いたほ場でのダイズべと病の発生識別	令和 7 年度日本植物病理学会大会	2025. 3

No	所　属	発表、講演者	演　　題	名　称　等	年 月
13	生産環境部	松木伸浩 *田中一裕*	福島県におけるクモヘリカメムシの冬季生存率の推移	第 66 回日本応用動物昆虫学会大会	2025. 3
14		渡邉秀明 宍戸邦明 堀越紀夫	土壌消毒実施ほ場におけるトルコギキョウ立枯病菌の土壌深度別菌密度の推移	第 78 回北日本病害虫研究会	2025. 2
15		南 春菜 *湯田美菜子*	ナシジョイント栽培における肥効調節型肥料を利用した施肥量削減と作業性の向上	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
16		南 春菜 日下部翔平 *湯田美菜子* *七海隆之* 半澤勝拓 小松健太郎 藤田剛輝	福島県における暗渠または簡易暗渠排水施工によるモモ胴枯細菌病(急性枯死症)の発病軽減効果	第 78 回北日本病害虫研究発表会	2025. 2
17	作物園芸部	*横山亮平* *米澤千夏* *松波寿典* *高村光輝* *天谷香織* *市川 健* 齋藤正頼 新妻和敏	ドローン搭載マルチスペクトルカメラで観測した NDVI による乾田直播水稲圃場における窒素吸収量の推定と収量との関係	日本リモートセンシング学会 第 76 回（令和 6 年度春季）学術講演会	2024. 6
18		北郷公大	夏越しが可能で 20t/10a を確保できる施設キュウリの簡易な隔離床養液栽培	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
19		熊坂 京	ダリアの切り花における輸出を想定した蕾切りの検討	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
20		鈴木寛人 新妻和敏	2023 年夏季高温下での出穂期追肥による玄米品質への影響	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
21		大寺真史	カリウム肥料がソバの生育，収量及び子実の放射性セシウム吸収に及ぼす影響	日本作物学会第 258 回講演会	2024. 9
22		金澤優紀 新妻和敏 *渡邉洋一*	福島県における水稲品種「天のつぶ」の疎播疎植ペースト 2 段施肥栽培の検討	日本作物学会第 259 回講演会	2025. 3
23		*松波麻耶* *熊地智也* *及川聡子* *多田周平* *八重樫耕一* *尾形茂* *佐々木周平* *小野寺博稔* 金澤優紀 新妻和敏 *長島泰一* *山崎哲* *今須宏美* *篠遠善哉* *屋比久貴之* *松波寿典*	水稲疎播苗の苗質と温度応答	日本作物学会第 259 回講演会	2025. 3
24	果樹研究所	日下部翔平	ブドウ巻きひげの効率的な除去方法	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
25		穴澤拓哉 瓜生武司 阿部初紀	2023 年の高温条件におけるリンゴ「ふじ」、「べにこはく」の着色、蜜入りの特徴	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8

No	所　属	発表、講演者	演　　題	名　称　等	年 月
26	果樹研究所	吉田小夏 *芝祥太郎* *額田光彦*	接種試験によるナシ黒星病耐病性個体の選抜	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
27		髙橋尭之 尾形亜希子 *三田村諭* *安達義輝*	ジョイント V 字トレリス栽培における「あかつき」成木期までの果実生産性評価	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
28		志村浩雄 *安達義輝* 髙橋尭之 尾形亜希子 岡田初彦 *杉浦俊彦*	凍霜害危険期におけるモモの発育ステージ予測システムの開発	一般社団法人園芸学会令和 6 年度秋季大会	2024.11
29		日下部翔平	モモせん孔細菌病の新規防除体系と有効な防除薬剤	令和 6 年度果樹病害研究会	2025. 1
30		阿部初紀	福島県におけるナシマルカイガラムシの発生消長及び対策について	令和 6 年度果樹虫害研究会	2025. 1
31		小松健太郎 日下部翔平	福島県におけるリンゴ褐斑病の開花期の感染確認と二次感染期の TPN 水和剤の防除効果	第 78 回北日本病害虫研究発表会	2025. 2
32		髙橋佳大 中村　淳 阿部初紀	ツヤハダゴマダラカミキリの街路樹における発生消長およびリンゴに対する寄生リスク調査(第 3 報)	第 78 回北日本病害虫研究発表会	2025. 2
33		阿部初紀 髙橋佳大	福島県におけるナシヒメシンクイの発生消長および各種殺虫剤の残効性	第 78 回北日本病害虫研究発表会	2025. 2
34		中村　淳 髙橋佳大 阿部初紀	果樹におけるハスモンヨトウの発生と薬剤の防除効果	第 78 回北日本病害虫研究発表会	2025. 2
35	会津地域研究所	小森秀雄 笹川正樹	福島県会津地方でのイネ初冬直播き栽培技術	作物学会東北談話会	2024. 8
36		中村陽登 *中山秀貴*	電動小型除草機によるオタネニンジン栽培での除草作業の省力化	第 67 回東北農業試験研究発表会	2024. 8
37	浜地域研究所	*Akira YOSHIOKA, Ryotaro OKAMOTO, Hirofumi OUCHI, Jaeick JO,* Toshimasa MITAMURA, *Ken TABUCHI, Hiroyuki OGUMA*	Combining camera trapping and deep learning for labor-saving monitoring of perching Sympetrum dragonflies	XXVII International Congress of Entomology	2024.8

No	所　属	発表、講演者	演　　題	名　称　等	年 月
38	浜地域研究所	Toshimasa MITAMURA, *Yusuke YOSHIDA, Masaomi TAKAHASHI, Akihiro TOHSAKI, Zenta KAJIURA, Risako OHARA, Takayuki HONDA, Toru TAKAHASHI, Satoshi INOSE,*	How does the silk gland of Japanese oak silkmoth, *Antheraea yamamai* laravae develop? - To elucidate the concentration dynamics of radiocesium in the silk	XXVII International Congress of Entomology	2024. 8
39		*Yusuke YOSHIDA, Masaomi TAKAHASHI, Akihiro TOHSAKI,* Toshimasa MITAMURA, *Zenta KAJIURA, Risako OHARA, Takayuki HONDA, Toru TAKAHASHI, Satoshi INOSE*	Effects of Radioactive Cesium on Wildsilk Produced by Japanese oak silkmoth, *Antheraea yamamai*	XXVII International Congress of Entomology	2024. 8
40		佐藤弘一 吉川 学 南 隼人	2023 年の夏季高温年における玄米品質	日本作物学会東北談話会	2024. 8
41		吉川 学	ヒエ属雑草における除草剤抵抗性検定法の開発	第 18 回除草剤抵抗性雑草研究会	2024. 9
42		古川鞠子 *三好博子*	施設キュウリ栽培における整枝法の違いが作業性に及ぼす影響	園芸学会令和 6 年度秋季大会	2024.11
43		古川鞠子	水稲育苗用ハウスを活用した簡易隔離床養液栽培システムによるミニトマト安定生産技術の確立	園芸学会令和 7 年度春季大会	2025. 3
44		吉川 学	福島県における特定外来生物ナガエツルノゲイトウ対策：発生時の初期対応と越冬期における防除技術の開発	第 29 回東北雑草研究会	2025. 3
45		吉川 学	実生を用いたヒエ属水田雑草の除草剤抵抗性検定法の確立と福島県浜通り地方における抵抗性発生実態の解明	日本雑草学会第 64 回大会	2025. 3
46		南 隼人 吉川 学	暖冬年の福島県浜通り地方における小麦「さとのそら」の栽培特性	日本作物学会第 259 回講演会	2025. 3

No	所　属	発表、講演者	演　　題	名　称　等	年 月
47		*M.Hachinohe,* *K.Kubo,* *M.Ogihara,* *M.Yoshiyama,* T.Hirayama, H.Matsuoka, *T.Sato,* *Y.Urashima*	Research on honey production to reduce the risk of radiocesium contamination in decontaminated farmland in Fukushima	International Symposium on Food Safety and Control	2024. 5
48		松岡宏明 *久保堅司* 平山 孝	バイオ炭をカリ代替としたダイズへの放射性セシウムの移行抑制効果と生育への影響	2024 年度日本土壌肥料学会東北支部会	2024. 7
49	浜地域農業再生研究センター	平山 孝 齋藤 隆 *吉田雅貴* *浅枝諭史* 渡辺 明 *甲地重春* *横濵雅透* *三浦 進* *見城貴志* *山本晃大* *冨樫直人* *井上吉雄* *古舘正行* *丹優太郎* *星 典宏* *山下善道*	除染後農地の土壌肥沃度ばらつき改善に向けた「肥沃度マッピング＋堆肥可変散布」技術	2024 年度日本土壌肥料学会東北支部大会	2024. 7
50		渡辺 明 *吉田雅貴*	電気柵設置条件の実態調査結果	第 67 回 東北農業試験研究発表会	2024. 8
51		佐藤越萌 *三本菅猛* *菅野拓朗*	山木屋在来そばの栽培特性	第 67 回 東北農業試験研究発表会	2024. 8
52		松田祐輝 *大矢浩司*	牧草の放射性セシウム吸収抑制対策	第 67 回 東北農業試験研究発表会	2024. 8
53		佐藤越萌 *三本菅猛* *木幡裕介* *浅井元朗*	双葉町特定復興再生拠点区域の保全管理農地における多年生雑草イヌスギナの推移について	第 29 回東北雑草研究会	2025. 3
54		小椋智文 *木幡裕介* *浅井元朗*	タマネギ秋まき移植栽培におけるシアナジン水和剤の早春期処理によるノボロギク防除効果	第 29 回東北雑草研究会	2025. 3

※　斜体字は当機関外所属

（２）　シンポジウム等講演

No	所　属	講演者	内　　容	名　称　等	年 月
1	安全農業推進部	伊藤博樹	農産物・食品の放射性セシウム測定を正しく行うための知識や技術を提供する	第243回農林交流センターワークショップ 食品を対象とした放射能分析（初級者向け）	2024.11
2	企画経営部	作田善紀	ブロッコリー選別自動収穫機の性能評価	令和6年度農業機械開発改良試験研究打合せ会議	2025. 3
3	作物園芸部	鈴木保奈美	リンドウの高温対策技術	令和6年度東北農業試験研究推進会議 野菜花き推進部会 野菜花き研究会（夏期）	2024. 9

No	所　属	講演者	内　　容	名　称　等	年 月
4	作物園芸部	川俣 零	福島県におけるオタネニンジンの組織培養の取り組み	JFPPA第6回薬用機能性植物セミナー	2025. 3
5	果樹研究所	髙橋尭之	福島県農業総合センター果樹研究所におけるモモ園地および最近の研究内容の紹介	第54回全国モモ研究大会	2024. 6
6		日下部翔平	モモせん孔細菌病の防除対策について	第54回全国モモ研究大会	2024. 6
7		佐久間宣昭	福島県における果樹の品種改良	令和6年度JAふくしま未来伊達地区モモ生産部会振興大会	2024.11
8		日下部翔平	モモせん孔細菌病の総合防除	第30回植物細菌病談話会	2024.11
9		佐久間宣昭	落葉果樹に対する凍霜害の影響と対策	令和6年度落葉果樹研究会	2025. 1
10		佐久間宣昭	福島県における果樹の品種改良	令和6年度JAふくしま未来桑折地区青果物総合反省会	2025. 2
11		岡田初彦	早期成園化や省力化を目的とした福島県における主要果樹の樹形について	令和6年度 東北地域みどりの食料システム戦略推進Web セミナー	2025. 2
12	畜産研究所	矢内伸佳	家畜育種とゲノミック評価	福島大学　農学群　食農学類 講義：「畜産学概論」	2024. 7
13		萩原 瞳	福島県の飼料作物の現状と課題	福島大学　農学群　食農学類 講義：「飼料資源学」	2024. 7
14		古閑文哉	福島県の肉用牛の現状と課題	福島大学　農学群　食農学類 講義：「飼料資源学」	2024. 7
15		小松一樹	ふくしまの新しいブランド牛「福粕花」 ～酒粕を食べた牛のおいしさを科学的視点から～	ふくしま和牛シンポジウム	2025. 2
16		堀江太樹	福島県におけるAI肉質診断技術の活用について	ふくしま和牛シンポジウム in 札幌	2025. 2
17		小松一樹	出品種雄牛(桃勝晴)の紹介	令和６年度現場後代検定合同調査会	2025. 2
18	浜地域研究所	齋藤 隆	福島県版通り地方における農業研究の取り組み	第538回生存圏シンポジウム福島県への支援取り組みおよび放射線マッピング研究会2024	2024.12
19		吉川 学 *浅井元朗* *大竹裕規* 山田真孝 新妻和敏 齋藤正頼 *木田義信*	福島県におけるナガエツルノゲイトウ発生時の初期対応と効果的な防除体系技術の確立に向けた取り組み	日本雑草学会第64回大会公開シンポジウム「地域における難防除雑草対策の今後を考える～植物防疫法の改正と現場における防除の実践と課題を探る～」	2025. 3

※　斜体字は当機関外所属

（３）　学会誌等投稿

No	所　属	著　者	題　　名	発表誌名	巻(号)頁	年 月
1	安全農業推進部	藤田剛輝	ナシ黒星病の「幸水」果実感染に対するSDHI剤およびDHODHI剤の防除効果	北日本病害虫研究会報	75 : 67-71.	2024.12
2	企画経営部	青田 聡 *星 太介* 作田善紀	福島県内における農作業負傷事故の発生事例	東北農業研究	第77号 P113-114	2024.12

No	所　属	著　者	題　　名	発表誌名	巻(号)頁	年 月
3	企画経営部	小泉拓真	データベースを活用した経営シミュレーションツールの開発	東北農業研究	第 77 号 P111-112	2024.12
4		宮川貴光	福島県相馬地域におけるブロッコリー収穫機導入の経済性評価	東北農業研究	第 77 号 P109-110	2024.12
5		作田善紀	ブロッコリー選別自動収穫機の性能評価	東北農業研究	第 77 号 P99-100	2024.12
6	生産環境部	*大竹裕規* 堀越紀夫 *工藤夏実* *我妻昌彦*	夏秋トマト栽培におけるトマトかいよう病の第一次伝染源とカーバムナトリウム塩液剤の防除効果	北日本病害虫研究会報	75 : 82-92.	2024.12
7		*田渕　研* *吉村英翔* 吉田昂樹 松木伸浩 山田真孝 前原　瞳 渡邉秀明	福島県浜通り地域におけるアカスジカスミカメ被害予測モデルの適用可能性の検証	北日本病害虫研究会報	75 : 93-100.	2024.12
8		吉田昂樹 松木伸浩 前原 瞳 山田真孝 *吉村英翔* *田渕 研*	福島県浜通りにおける斑点米カメムシ類の水田内すくい取り捕獲数と斑点米被害の関係	北日本病害虫研究会報	75:104-106.	2024.12
9	作物園芸部	*松波麻耶* *佐々木修平* *渡邉洋一* 新妻和敏 *松波寿典*	疎植ペースト2段施肥における水稲の根系構造の変化	根の研究	第 33 巻 第 2 号 P58-60	2024. 6
10		鈴木寛人 新妻和敏	2023 年夏季高温下での出穂期追肥による玄米品質への影響	東北農業研究	第 77 号 P1-2	2024.12
11	果樹研究所	*Jiayi Liu*, *Sadao Komori*, Hatsuhiko Okada, *Satoshi Kubota* , *Manabu Watanabe*	Changes in Endogenous Hormones in Leaves during Phase Transition in *Malus hupehensis* Seedlings	The Horticulture Journal	94(1): 40-47	2025. 1
12		穴澤拓哉 瓜生武司 阿部初紀	2023 年の高温条件におけるリンゴ「ふじ」、「べにこはく」の着色、蜜入りの特徴	東北農業研究	第 77 号 43-43	2024.12
13		日下部翔平	ブドウ巻きひげの効率的な除去方法	東北農業研究	第 77 号 59-60	2024.12
14		岡田初彦 吉田小夏 *芝 祥太郎*	接種試験によるナシ黒星病耐病性個体の選抜	東北農業研究	第 77 号 67-68	2024.12
15		髙橋尭之 尾形亜希子 *三田村　諭* *安達義輝*	ジョイントV字トレリス栽培における「あかつき」成木期までの果実生産性評価	東北農業研究	第 77 号 71-72	2024.12

No	所　属	著　者	題　　名	発表誌名	巻(号)頁	年 月
16	果樹研究所	*佐藤(三浦)紅音* *綱島彩香* *中村　傑* 髙橋佳大 中村 淳 *糸山 享*	福島県における果樹を加害するカメムシの卵に寄生する *Trissolcus* 属卵寄生蜂の種構成	関東東山病害虫研究会報	71:66-70.	2024.12
17		*中村 傑* 髙橋佳大 中村 淳	ツヤハダゴマダラカミキリの街路樹における発生消長およびリンゴに対する寄生リスク調査（第2報）	北日本病害虫研究会報	75：123-127.	2024.12
18	浜地域研究所	佐藤弘一 吉川 学 南 隼人	2023 年の夏季高温年における玄米品質	東北作物研究	第 67 号 P17-18	2024.12
19	浜地域農業再生研究センター	*Hirofumi Tsukada,* Takashi Saito, Takashi Hirayama, Hiroaki Matsuoka, *Atsushi Nakao*	Variation of ^{137}Cs activity concentration in flooded and pore water in paddy fields and its transfer to rice	Journal of Environmental Radioactivity	Vol.278	2024. 9
20		*佐藤優平* 堀越紀夫	ユーカリ斑点落葉病に対する耐病性の種間差調査と防除薬剤の検討	北日本病害虫研究会報	第 75 号 23－29	2024.12
21		小椋智文 *木幡裕介* *浅井元朗*	福島県相双地域のタマネギ秋まき移植栽培におけるタマネギ生育期の除草剤処理によるカラシナ防除効果	東北雑草研究会会報誌「東北の雑草」	第 23 号 P25-28	2024.12
22		渡辺 明 *吉田雅貴*	電気柵設置条件の実態調査結果	東北農業研究	第 67 号 21-22	2024.12
23		佐藤越萌 *三本菅猛* *菅野拓朗*	山木屋在来そばの栽培特性	東北農業研究	第 67 号 33-34	2024.12
24		松田祐輝 *大矢浩司*	牧草の放射性セシウム吸収抑制対策	東北農業研究	第 67 号 35-36	2024.12

※　斜体字は当機関外所属

（４）　雑誌等投稿

No	所　属	著　者	題　　名	発表誌名	巻(号)頁	年 月
1	－	小久保仁子	相双地方における農林業の現状・課題と新しい産地形成に向けて	日本農学アカデミー会報	第 41 号 P1-6	2024. 6

No	所　属	著　者	題　　名	発表誌名	巻(号)頁	年 月
2	生産環境部	半澤勝拓 安田優衣	育苗箱全量施肥法における稲わら還元の影響について	農業と科学	2024 年 6 月号	2024. 6
3		*関根 綾* *佐竹大樹*	オタネニンジン‘かいしゅうさん’の組織培養技術の開発	園芸学研究	第 2 号 P91-98	2024. 6
4	果樹研究所	尾形亜希子	水稲育苗ハウスを有効活用したブドウの盛土式根圏制御栽培	施設と園芸	206 号	2024. 7
5		日下部翔平	福島県におけるモモ病害虫防除暦作成の考え方	植物防疫	Vol.78 P48-55	2024.10
6		髙橋佳大 中村 淳 *中村 傑*	福島県におけるツヤハダゴマダラカミキリの発生消長と果樹への加害リスク	植物防疫	Vol.78(12) P16-20	2024.12
7	畜産研究所	佐藤妙子	川俣シャモの種鶏更新	畜産福島	第 646 号	2024. 7
8		吉田朋恵	試作乳房炎ワクチン	畜産福島	第 647 号	2024. 9
9		齋藤美緒	市販発酵飼料給与による肉用牛の短期肥育試験について	畜産福島	第 648 号	2024.11
10		菅野那奈	水田輪作での子実トウモロコシ栽培には RM115 の品種が利用できる	畜産福島	第 649 号	2025. 1
11		小松一樹	ふくしまの新ブランド牛「福粕花」のおいしさに関する研究	畜産福島	第 650 号	2025. 3
12	浜地域農業再生研究センター	小椋智文	福島県相双地域のタマネギ秋まき移植栽培におけるカラシナ防除	植調	第 58 巻 第 8 号	2024.11
13		宗方宏之	除染後農地における緑肥作物を活用した地力回復技術の実証	作物生産と土づくり	Vol.57 No.584 P1-6	2025. 1

※　斜体字は当機関外所属

※　畜産福島、植調、作物生産と土づくりは著者名を所属として投稿

5　刊行物

刊　行　物　名	発行年月	発行部数
令和5年度農業総合センター業務年報	2024. 6	※
福島県農業総合センター研究報告第14号	2024. 6	※
令和6年度福島県農業総合センター研究成果集	2024. 3	※
ラウンド農ふくしまWeb	2024. 5 - 2025. 3	※

※　農業総合センターホームページに掲載

６　主要作物の生育情報の提供

内　　容		提供回数	月　　日
作況情報※	水稲生育状況	14	6/4、6/11、6/18、6/25、7/2、7/9、7/16、7/23、7/30 8/9、9/10、9/30
	大豆生育状況	2	9/18、3/18
	麦類生育状況	8	R6年産　12/28、2/6、3/1、3/20、4/9、5/2、9/18 R7年産　3/18
果樹の生育概況		20	R6　4/1、4/11、4/22、5/1、5/16、6/3、6/17、7/1、7/16、 8/1、8/16、9/2、9/17、10/1、10/15、11/1、12/2、 R7　3/3、3/11、3/21

※　農業総合センターホームページに掲載

７　インターネットによる情報提供

（１）農業総合センターホームページにおいて、各種技術情報、交流事業の情報等の提供を行った。
なお、令和７年２月に全面リニューアルを図った。
ホームページアクセス数(トップページアクセス数)

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
1,518	1,680	1,722	2,354	1,936	4,507	1,541	1,584	1,291	1,571	1,760	1,550	23,014

※1　ホームページのアクセス件数はボット（プログラムによる自動アクセス）を除いた数としている。

（２）農業総合センター浜地域研究所 Facebook （https://www.facebook.com/nogyocentre.hama/）において、情報発信を行った。
令和６年４月～令和６年７月　掲載記事数　7 件、リーチ数合計 474

８　マスメディアによる報道

※　媒体　新：新聞 、 雑：雑誌 、 テ：テレビ 、 イ：インターネット 、 他：その他

No	媒体	掲載・放送月日	掲載紙・報道局	報道内容	取材対応等
1	新	4/ 6	日本農業新聞	長期就農研修生1年の課程修了	果樹研究所
2	新	4/ 9	福島民報	自動搾乳機で省力化へ　県農業総合センター乳牛飼育の実証事業	畜産研究所
3	新	4/11	福島民報	農業振興へ42人入校	農業短大
4	新	4/11	日本農業新聞	凍霜害防止　あの手この手　果樹の凍霜害危険度推定シート	果樹研究所
5	新	4/11	日本農業新聞	福島の農業発展に貢献　県農短大校　県内外のり42人入校	農業短大
6	新	4/13	日本農業新聞	果樹経営の担い手に　県農業総合センター研究所7名が入所	果樹研究所
7	新	4/14	福島民友	アグリカレッジ42人入校	農業短大
8	新	4/20	日本農業新聞	搾乳ロボット実証へ　福島県畜産研　乳牛使用施設を整備	畜産研究所
9	新	4/23	福島民報新聞	米出身アンソニー・ギランさん　モモに感動　今月から研修“桑折愛”就農を決意　後継者不足「つなぎたい」	果樹研究所
10	新	4/23	日本農業新聞	王者は鈴木さんと成田さんの出品牛　福島県家畜市場で県ホルスタインショー	畜産研究所

No	媒体	掲載・放送月日	掲載紙・報道局	報道内容	取材対応等
11	テ	4/19	ＮＨＫ	コメ作りの課題は暑さ対策　暑さに強いコメの品種開発も	作物園芸部
12	テ	5/15	ＮＨＫ	“病気や暑さに強いイネを”品種開発中のイネを田植え	作物園芸部
13	新	5/17	福島民報	オリジナル米開発へ田植え　県農業総合センター	作物園芸部
14	新	5/17	日本農業新聞	水稲品種開発へ田植え　福島県農業総合センター	作物園芸部
15	新	5/19	福島民友	オリジナル品種開発　県農業センター	作物園芸部
16	新	5/24	福島民報新聞	会津の気候に合うコメ調査　県内外の29種田植え	会津地域研究所
17	新	5/31	福島民報	日本酒造り卒業研究きっかけ　「青春の詩」あす発売	農業短大
18	テ	5/31	福島テレビ	福島県でもカメムシ大発生！	安全農業推進部
19	新	6/ 6	福島民報	海外農業研修報告会	農業短大
20	新	6/ 7	福島民報	県内のカメムシ平年比3～15倍	安全農業推進部
21	新	6/ 7	福島民友	果樹カメムシ類やや多く	安全農業推進部
22	新	6/ 7	日本農業新聞	せん孔細菌病防除成果報告　福島で全国モモ研究大会	果樹研究所
23	テ	6/ 8	福島中央テレビ	おしえてキビタン アグリカレッジ福島　オープンキャンパスに行こう	農業短大
24	テ	6/13	福島放送	果樹カメムシ類の発生	安全農業推進部
25	テ	6/17	福島中央テレビ	ゴジてれChu!でオウトウの双子果を紹介	果樹研究所
26	テ	6/18	福島テレビ	「異例の数」のカメムシ発生	安全農業推進部
27	テ	6/25	福島放送	超県民参加型テレビ　シェア！」で長期就農研修生ギラン　アンソニー　ジェームスさんを紹介	果樹研究所
28	新	6/26	福島民報	県産米追肥で猛暑対策　県とＪＡ　品質維持へ技術指導　県農業センターが研究	作物園芸部
29	新	6/27	読売新聞	オタネニンジン栽培技術学ぶ　会津坂下	会津地域研究所
30	新	6/27	福島民報	オオタバコガ注意報を発令	安全農業推進部
31	新	6/27	福島民友	「オオタバコガ」発生増	安全農業推進部
32	新	6/28	日本農業新聞	オオタバコガ福島で注意報	安全農業推進部
33	新	7/ 1	福島民友	みんゆうジュニア情報局　田んぼの草取り重くて大変	企画経営部
34	新	7/ 2	日本農業新聞	オオタバコガ福島で注意報	安全農業推進部
35	新	7/ 8	福島民友	児童が田んぼの生き物観察	企画経営部
36	新	7/ 8	福島民報	県産キュウリ土使わず栽培　病気防ぎ安定生産 来年度にも県、農家に普及へ	作物園芸部
37	新	7/11	日本農業新聞	斑点米カメムシ類多発　福島県が注意報　防除呼びかけ	安全農業推進部
38	新	7/13	福島民報	須田さん(JA夢みなみ)最高賞　本宮でJA福島肉用牛共進会	畜産研究所
39	テ	7/17	福島テレビ	ＦＴＶテレポートで温暖化に対応したモモの品種開発について紹介	果樹研究所
40	新	7/19	日本農業新聞	JAグループ福島肉用牛共進会　須田さん(夢みなみ)名誉賞	畜産研究所
41	新	7/20	日本農業新聞	福島発　新技術めざす　F-REI復興へ先端研究	畜産研究所

No	媒体	掲載・放送月日	掲載紙・報道局	報道内容	取材対応等
42	新	7/21	福島民報	アグリカレッジ(矢吹)に県整備　ドローン実習場でスマート農業習得　来年度後半供用開始	農業短大
43	新	7/25	福島民報	ミニトマト収穫　アグリカレッジ福島オープンキャンパス	農業短大
44	雑	7/26	点字広報ふくしま317号	「第１７回農業総合センターまつり」開催	企画経営部
45	新	7/30	日本農業新聞	JICA研修員が視察　福島　県中地区の試験水田など	企画経営部他
46	新	7/31	福島民報	果樹カメムシ類に注意報　4年ぶり	安全農業推進部
47	新	7/31	福島民友	カメムシ注意報	安全農業推進部
48	新	7/31	日本農業新聞	果樹カメムシ多発　福島で4年ぶり注意報	安全農業推進部
49	新	8/ 1	福島NEWS WEB	周辺で被害拡大の外来カミキリムシ　チラシで被害防止呼びかけ	安全農業推進部
50	他	8/ 1	広報こおりやま8月号	県農業総合センターまつり	企画経営部
51	新	8/ 2	福島民友	農業振興へ研究成果発表	作物園芸部他
52	新	8/ 8	日本農業新聞	米の高温対策　研究多く　東北農試発表会　追肥方法など	作物園芸部他
53	ラ	8/ 8	ラジオ福島	農家の皆さんへ 農業総合センターまつりにぜひお越しください	企画経営部
54	新	8/ 9	福島民報	特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」いわきで確認、農業に影響懸念	安全農業推進部
55	新	8/ 9	福島民友	ナガエツルノゲイトウ　いわきで県内初確認　特定外来生物特殊報を発表	安全農業推進部
56	新	8/ 9	日本農業新聞	ナガエツルノゲイトウ　福島の水田で初確認　県が特殊報	安全農業推進部
57	テ	8/13	ＮＨＫ	周辺で被害拡大の外来カミキリムシ　チラシで被害防止呼びかけ	安全農業推進部
58	新	8/20	日本農業新聞	外来カミキリの通報を呼びかけ	安全農業推進部
59	新	8/21	日本農業新聞	経営試算ソフト開発　福島県　営農計画策定に便利	企画経営部
60	新	8/23	リビング郡山	第１７回農業総合センターまつり	企画経営部
61	ラ	8/23	ふくしまFM	キビタンスマイル おいでよ、農業総合センターまつり	企画経営部
62	新	8/27	福島民報	試験栽培の酒米　生育状況を確認　郡山で県が中間検討会	作物園芸部
63	新	8/27	福島民友	大吟醸　酒米開発へ　県着手　27年度登録申請目指す	作物園芸部
64	新	8/28	福島民友	環境考察第4部「農業新時代」1 暑さに強いコメを昨年猛暑　開発機運高まる	作物園芸部
65	新	8/29	福島民報	県農業総合センター　6､7日「まつり」来て	企画経営部
66	新	8/30	福島民友	県産モモ、品種開発進む　「暑い」時期逃さない	果樹研究所
67	新	8/30	福島民友	環境考察第4部「農業新時代」3 「熱い」時期逃さない　県産モモ、品種開発進む	果樹研究所
68	テ	9/ 2	福島放送	超県民参加型テレビ　シェア！ 長期就農研修生ギラン　アンソニー　ジェームスさんのモモ「あかつき」の収穫を紹介	果樹研究所
69	新	9/ 3	朝日新聞	ナガエツルノゲイトウ「最悪の侵略植物」東北上陸	安全農業推進部
70	新	9/ 5	福島民友	あすと7日「まつり」　県農業総合センター	企画経営部

No	媒体	掲載・放送月日	掲載紙・報道局	報道内容	取材対応等
71	テ	9/ 6	ＮＨＫ	県農業総合センターで特産品の直売や最新研究成果を紹介	企画経営部
72	新	9/ 7	福島民友	環境考察第4部「農業新時代」9 中干し延長メタン減	生産環境部
73	新	9/ 7	福島民報	農業総合センターまつり	企画経営部
74	新	9/ 7	福島民友	農業総合センターきょうまでまつり　農産物販売や相談会	企画経営部
75	新	9/10	日本農業新聞	県農短大校思いはせ	農業短大
76	新	9/11	福島民友	農業短期大学校生が相双の農業法人視察　ナシ選果など体験	農業短大
77	新	9/12	福島民友	県農業総合センター果樹研究所参観デーのイベント情報	果樹研究所
78	新	9/12	福島民友	第17回農業総合センターまつり果樹研究所参観デーの日程及び技術移転セミナーの紹介	果樹研究所
79	新	9/12	日本農業新聞	「まつり」で研究成果解説　福島県農業センター	企画経営部
80	新	9/16	日本農業新聞	担い手“繁殖力最悪”どう防ぐ？ナガエツルノゲイトウ	安全農業推進部
81	新	9/17	日本農業新聞	和牛　優秀な県代表を　全共向け農家ら決起集会　全農福島	畜産研究所
82	新	9/19	福島民報	農業総合センターまつり　果樹研究所参観デーを紹介	果樹研究所
83	新	9/19	日本農業新聞	「あかつき」誕生　動画に　品種改良27年努力伝え	果樹研究所
84	新	9/20	福島民報	郡山で農業塾開校　新規就農者ら基礎など学ぶ	生産環境部
85	新	9/20	福島民報	害虫ハスモンヨトウ発生で県注意報発令	安全農業推進部
86	新	9/20	福島民友	ハスモンヨトウ　野菜や花卉の害虫　県内全域に注意報	安全農業推進部
87	新	9/20	日本農業新聞	ハスモンヨトウ急増　福島で注意報　薬剤散布呼びかけ	安全農業推進部
88	テ	9/21	福島テレビ	サタふく ＧＡＰに係る取組紹介および代表学生による座談会	農業短大
89	テ	9/25	福島放送	シェア！ふくしまここが知りたいデス 農業の魅力再発見！第17回農業総合センターまつり	企画経営部
90	新	9/26	福島民友	サスティナるアクトで温暖化に対応した品種開発「需要ピーク」逃さない	果樹研究所
91	テ	10/ 2	ＮＨＫ	小学生がみずから栽培したブランド米「福、笑い」稲刈り　郡山	企画経営部
92	テ	10/ 4	福島テレビ	野菜や花を食い荒らす「ハスモンヨトウ」	安全農業推進部
93	新	10/ 4	福島民友	黄金色の「福、笑い」収穫　郡山・高倉小児童が体験	企画経営部
94	新	10/21	日本農業新聞	“クビアカ”キーホルダー発売　特徴覚えて早期発見　福島県　害獣イノシシ皮生かす	安全農業推進部
95	新	10/25	福島民報	トマトハモグリバエ被害	安全農業推進部
96	新	10/25	福島民友	カスミソウに有害ハエ	安全農業推進部
97	新	10/25	日本農業新聞	トマトハモグリバエ注意　宿根カスミソウで国内初確認	安全農業推進部
98	雑	10/25	CJ Monmo	代表学生によるGAP座談会	農業短大
99	新	10/26	福島民友	ユニオンデール農水大臣賞輝く　県ホルスタイン共進会	畜産研究所

No	媒体	掲載・放送月日	掲載紙・報道局	報道内容	取材対応等
100	新	10/26	日本農業新聞	クビアカツヤカミキリ防除対策徹底呼びかけ　福島県南農林事務所セミナー	安全農業推進部
101	新	11/ 8	日本農業新聞	イチゴ「ゆうやけベリー」管理指導　福島県	作物園芸部
102	テ	11/11	ＮＨＫ	県のブランド米と一般の新米を児童が食べ比べ郡山で体験会	企画経営部
103	新	11/14	福島民報	キュウリに感染　ウイルス初確認	安全農業推進部
104	新	11/14	福島民友	中通りでキュウリ病原ウイルス確認	安全農業推進部
105	新	11/14	日本農業新聞	キュウリCABYV確認	安全農業推進部
106	新	11/16	福島民友	環境考察第5部「警告」2 カメムシ大量発生　農作物食害に県内警戒	安全農業推進部
107	テ	11/17	ＮＨＫ	クビアカツヤカミキリから樹木を守れ	安全農業推進部
108	イ	11/25	株式会社食文化	うまいもんドットコムで本県オリジナルリンゴ品種「べにこはく」を紹介	果樹研究所
109	新	12/ 1	福島民報	根本さん(南相馬)最高賞　県鉢花品評会	作物園芸部
110	新	12/ 3	福島民報	アグリカレッジ福島　初の牛肉販売実習	農業短大
111	新	12/ 5	福島民報	県内初確認　南会津で「サツマイモ基腐病」	安全農業推進部
112	新	12/ 5	福島民友	サツマイモ基腐病　県内で初めて確認	安全農業推進部
113	新	12/ 5	日本農業新聞	サツマイモ基腐病　福島県で特殊報	安全農業推進部
114	新	12/ 7	日本農業新聞	福島県農短大校生　出荷した牛肉販売　県内のスーパー	農業短大
115	テ	12/11	ＮＨＫ	酒かす×福島牛 極上肉「福粕花」デビュー	畜産研究所
116	新	12/13	日本農業新聞	銘柄米100キロを県農短大校に	農業短大
117	新	12/25	福島民報	ナシとキュウリで県内初の病害虫	安全農業推進部
118	新	12/25	福島民友	キュウリ退緑黄化病中通りで県内初確認　ナシは害虫被害	安全農業推進部
119	新	12/25	日本農業新聞	キュウリ退緑黄化病　確認	安全農業推進部
120	新	12/29	福島民報	新しい農業の未来、福島から始まる（長期就農研修生・学生募集）	農業短大
121	新	12/29	福島民友	新しい農業の未来、福島から始まる（長期就農研修生・学生募集）	農業短大
122	ラ	12/31	ラジオ福島	農家の皆さんへ 新しい農業の未来、福島から始まる（長期就農研修生募集）	農業短大
123	ラ	1/ 7	ふくしまＦＭ	キビタンスマイル アグリカレッジ福島で就農の夢を実現しよう！（長期就農研修生募集）	農業短大
124	新	1/12	福島民報	2024年など農作物の病害虫　県内6件初確認	安全農業推進部
125	テ	1/15	福島テレビ	キビタンＧＯ 農業研修でスキルアップを目指そう！	
126	テ	1/16	ＴＵＦ	福島牛の価格向上に期待 新ブランド“福粕花”の魅力	畜産研究所
127	新	1/25	読売新聞	県　外来カミキリ防除案	安全農業推進部
128	テ	2/1-28		令和6年度農業総合センター研究成果発表会	企画経営部
129	新	2/ 4	日本農業新聞	畑作物の動向紹介　福島県講座　大豆の高温対策など	作物園芸部

No	媒体	掲載・放送月日	掲載紙・報道局	報道内容	取材対応等
130	新	2/ 7	日本農業新聞	福島県米改良協会　設立50周年祝う　良質種子供給へ決意	作物園芸部
131	テ	2/10	ＮＨＫ	ブロッコリーに含まれるアミノ酸の局在	生産環境部
132	新	2/12	福島民報	「福粕花」の研究結果報告　福島で和牛シンポ	畜産研究所
133	新	2/12	福島民友	ブランド牛福粕花研究者が特長解説　福島で和牛シンポ	畜産研究所
134	新	2/12	日本農業新聞	福島牛の研究成果披露　県や福島大の開発グループ　シンポで新銘柄解説	畜産研究所
135	新	2/19	福島民報	県、リンドウ新品種開発　年内に登録へ　晩生で濃い桃色が特徴　県内各地で成果発表	企画経営部
136	新	2/19	福島民報	病害虫防除員研修会公開セミナー	安全農業推進部
137	新	2/19	福島民友	県産リンドウに新品種　収穫遅く濃い桃色　八つ目、農業総合センター開発　県内5会場で研究成果発表	企画経営部
138	ラ	2/19	ふくしまFM	キビタンスマイル 福島県農業総合センター令和6年度研究成果発表会開催	企画経営部
139	新	2/23	日本農業新聞	リンドウ　仏前以外も　福島県新品種25年度登録めざす　濃い桃色咲く晩生	企画経営部
140	新	2/25	日本農業新聞	トマト黄化葉巻病の対策学ぶ　福島県やJAが勉強会	生産環境部
141	新	2/26	日本農業新聞	本年度農作物の病害虫防除説明	安全農業推進部
142	新	2/26	日本農業新聞	果樹の生育予測改良　凍霜害防止や適期作業へ福島県農業総合センター	果樹研究所
143	新	2/26	日本農業新聞	県農業センター研究成果発表会　福島、今月末から	企画経営部
144	ラ	2/26	ラジオ福島	「農家の皆さんへ」令和6年度福島県農業総合センター研究成果発表会を開催します	企画経営部
145	新	2/26	日本農業新聞	本年度農作物の病害虫防除説明　福島県植物防疫協など	安全農業推進部
146	新	3/ 5	農業共済新聞	桑折町とモモにほれ込み再来日　「世界一を目標に」　アンソニー・ギランさん　就農目指して研修中　農家手伝い積極的に	果樹研究所
147	新	3/ 8	福島民友	農業研修　新施設が完成　県短期大学校来月から使用	農業短大
148	新	3/ 8	日本農業新聞	農業発展へ活躍期待　福島県農業短期大学校卒業式	農業短大
149	新	3/12	福島民報	農業の担い手53人が巣立つ　アグリカレッジ福島	農業短大
150	新	3/13	日本農業新聞	スマート理解へ施設整備　福島県農短大校　大型講義・研修、宿泊可能に	農業短大
151	新	3/14	福島民報	工事完了の新施設内覧　アグリカレッジ福島　知事ら参加	農業短大
152	新	3/19	日本農業新聞	キュウリ特集「施設キュウリの簡易な隔離床養液栽培」	作物園芸部
153	新	3/25	日本農業新聞	果樹栽培を習得　福島県農業センター	果樹研究所
154	ラ	3/25	ラジオ福島	「ふくしまチャレンジ通信」農業総合センター試験研究成果発表会を開催	企画経営部

９　福島県インターンシップの受入れ

インターンシップを開催し、学生の受入れを行った。

形式	受入部所	受入月日	大学名
インターンシップ	生産環境部	9/ 3- 9/17	福島大学
	生産環境部	9/ 9- 9/13	山形大学
	生産環境部	9/ 9- 9/20	新潟大学
	作物園芸部	8/28- 8/30	宮城大学
	作物園芸部	9/18- 9/20	秋田県立大学 福島大学
	果樹研究所	8/19- 8/20	東京農業大学
	浜地域農業再生研究センター	9/ 2- 9/13	日本獣医生命科学大学

Ⅶ　職員・財産

1 職員数

（令和６年４月１日現在）

職　種	本　部	果　樹 研究所	畜　産 研究所	沼尻 分場	会津地域 研究所	浜地域 研究所	浜地域農業 再生研究センター	農業短期 大学校	計
行政職	39(30)	2	3	1	1	1	1	34(29)	82(59)
研究職	73	15	19	3	10	6	9	0	135
技能労務職	17	7	15	4	4	2	0	7	56
計	129(30)	24	37	8	15	9	10	41(29)	273(59)

（ ）は技術職員の内数

2 施設・ほ場の面積及び飼養家畜数

（１）施設・ほ場の面積

区　分	建物		宅 地	田	畑	山 林	原 野	その他
	棟数	面積(㎡)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)
農業総合センター	67	28,886.54	12.1	12.5	19.2	3.2	0.3	5.2
(内訳)								
交流棟	1	2,594.49						
管理研究棟・実験棟	1	7,039.93						
付属施設(建物)	65	19,252.12						
果樹研究所	28	4,749.41	1.9		8.1			
(内訳)								
庁舎	1	1,680.86						
付属施設(建物)	27	3,068.55						
畜産研究所	78	20,406.18	19.1		40.4	2.7		
(内訳)								
庁舎	1	1,166.48						
付属施設(建物)	73	16,876.04						
沼尻分場	26	6,548.72	8.6		114.9	121.6		3.3
(内訳)								
庁舎	1	132.68						
付属施設(建物)	25	6,416.04						
会津地域研究所	18	6,828.75	4.6	9.7	5.5			1.3
(内訳)								
庁舎	1	2,442.59						
付属施設(建物)	17	4,386.16						
浜地域研究所	15	1,508.52	0.6	2.4	1.0			
(内訳)								
庁舎	1	472.50						
付属施設(建物)	14	1,036.02						
浜地域農業再生研究センター	2	692.51	0.3					
(内訳)								
庁舎	1	478.01						
作業所棟	1	214.50						
農業短期大学校	56	16,812.33	5.7	5.1	23.3	9.8	3.0	5.0
(内訳)								
校舎	1	2,002.36						
附属施設(建物)	55	14,809.97						

（２）飼養家畜数

ア 牛、豚及び鶏の飼養頭（羽）数

区　分	乳用牛			肉用牛								豚				鶏		
	経産牛	育成牛	子牛	種雄牛	雌牛	育成牛	子牛	直検牛	待機牛	供卵牛	肥育牛	種雄豚	種雌豚	子豚	肥育豚	保存鶏	育種鶏	種鶏
畜産研究所	30	20	20	4	10	－	－	10	14	11	16	14	61	261	213	488	1,413	679
畜産研究所沼尻分場	－	－	－	－	78	－	42	－	－	－	15	－	－	－	－	－	－	－
農業短期大学校	9	2	4	－	9	3	8	－	－	－	6	－	－	－	－	－	－	－

※　令和７年３月31日現在

Ⅷ　資料

1 開発品種一覧

(1) 作物

No.		品種名	父	母	登録年
1	うるち米	福笑い	郡系 627	新潟 88 号	2025 年
2	うるち米	天のつぶ	越南 159 号	奥羽 357 号	2012 年
3	うるち米	里山のつぶ	福島 14 号	新潟 71 号	2017 年
4	うるち米	ふくみらい	チヨニシキ	中部 82 号	2004 年
5	もち米	あぶくまもち	奥羽糯 347 号	ふ系 172 号	2011 年
6	酒米	福乃香(ふくのか)	山形酒 86 号	静系(酒)88 号	2025 年
7	酒米	夢の香(ゆめのかおり)	山形酒 49 号	八反錦 1 号	2003 年
8	そば	会津のかおり	－	－	2009 年
9	ｵﾀﾈﾆﾝｼﾞﾝ	かいしゅうさん	－	－	2002 年
10	桑	きぬゆたか	はやてさかり	剣持	2001 年

※そば、オタネニンジンは在来種からの選抜

(2) 野菜

No.		品種名	父	母	登録年
1	いちご	福島 ST14 号 (商標　ゆうやけベリー)	とちおとめ	かおり野	出願中
2	いちご	ふくはる香	さちのか	章姫	2006 年
3	いちご	ふくあや香	福島 1 号	福島 2 号	2006 年
4	ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	ふくきたる	福島県農業総合センター選抜系統	メリーワシントン 500W 選抜系統	2021 年
5	ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	ハルキタル	メリーワシントン 500W×Gijnlim 後代選抜系統	メリーワシントン 500W 選抜系統	2007 年
6	ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	春まちグリーン	Gijnlim 選抜系統	信濃ヨーデル選抜系統	2007 年
7	ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	はるむらさきエフ	福島県農業総合センター選抜系統	福島県農業総合センター選抜系統	2009 年

(3) 花き

No.		品種名	父	母	登録年
1	りんどう	（福島栄 24 号）	福島交 20 号	ササリンドウ系選抜系統	2025 年 登録出願予定
2	りんどう	天の川	福島交 20 号	ササリンドウ系選抜系統	2024 年
3	りんどう	ふくしま凜夏	エゾリンドウ系選抜系統	エゾリンドウ系選抜系統	2015 年
4	りんどう	ふくしまさやか	エゾオヤマリンドウ系選抜系統	エゾオヤマリンドウ系選抜系統	2004 年
5	りんどう	ふくしまみやび	エゾオヤマリンドウ系選抜系統	エゾオヤマリンドウ系選抜系統	2004 年
6	りんどう	ふくしましおん	エゾオヤマリンドウ系選抜系統	エゾリンドウ系選抜系統	2009 年
7	りんどう	ふくしまほのか	尾瀬の愛選抜系統	エゾリンドウ系選抜系統	2010 年
8	りんどう	ふくしまかれん	エゾリンドウ系選抜系統	ササリンドウ系選抜系統	2003 年
9	カラー	はにかみ	ホワイトゼム	レーマニーカーミネア	出願中
10	カラー	ミルキームーン	ベストゴールド	ホワイトゼム	出願中
11	カラー	キビタンイエロー	ベストゴールド	ブラックマジック	出願中

(4) 果樹

No.		品種名	父	母	登録年月
1	桃	はつおとめ	倉方早生	ちよひめ	2003 年
2	桃	ふくおとめ	倉方早生	ちよひめ	2003 年
3	桃	はつひめ	あかつき	はつおとめ	2009 年
4	桃	ふくえくぼ		あかつき※	1996 年
5	桃	ふくあかり	川中島白桃	モモ福島８号	2016 年
6	桃	ふくあかね	モモ福島１号	まさひめ	2006 年
7	ぶどう	あづましずく	ブラックオリンピア	４倍体ヒムロッド	2004 年
8	ぶどう	ふくしずく	ブラックオリンピア	４倍体ヒムロッド	2008 年
9	梨	涼豊	新高	豊水	2006 年

No.		品種名	父	母	登録年月
10	りんご	緋のあづま	千秋	ひめかみ	2006 年
11	りんご	会津のほっぺ	紅玉	ふじ	2016 年
12	りんご	ほおずり	紅玉	ふじ	1996 年
13	りんご	べにこはく	ほおずり	陽光	2018 年

※あかつきから茎頂培養と放射線育種技術を駆使して育成した。

令和６年度　福島県農業総合センター業務年報

令和７年６月

福 島 県 農 業 総 合 セ ン タ ー

〒963-0531　福島県郡山市日和田町高倉字下中道116番地

電話　024-958-1700

FAX　024-958-1726

https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/fukunou-centre/